



樋口教授退官記念  
樋口教授業績ならびに指導業績

九州大学医学部皮膚科教室 編纂  
樋口謙太郎教授退会記念事業会



樋口謙太郎教授退官記念講演会にて 昭和48年3月14日



皮膚科教室を正門より望む（上、下）

## 目 次

樋口教授略歴 .....	1
樋口教授著書 .....	3
樋口教授業績 .....	5
指導業績 .....	21
研究生生活 30 年を顧みて.....樋口謙太郎.....	48
物名索引 .....	51
人名索引 .....	73
付 録 .....	87

## 樋口教授略歴

明治40年5月14日	福岡県三井郡小郡町大字井上にて出生
大正15年3月31日	福岡県立朝倉中学校卒業
昭和4年3月10日	福岡高等学校卒業
昭和9年3月31日	九州帝国大学医学部学士試験合格
昭和9年4月19日	九大皮膚科教室に入局，医員を嘱託さる
昭和9年5月8日	九州帝国大学医学部副手を嘱託さる
昭和9年7月2日	医籍登録（第75048号）
昭和11年8月31日	九州帝国大学助手に任ぜらる
昭和12年5月17日	九大温泉治療学研究所医員嘱託
昭和12年10月15日	医学博士の学位受領
昭和12年12月2日	九州帝国大学医学部講師を嘱託さる
昭和13年8月5日	釜山府立病院科長に任ぜらる
昭和16年11月15日	陸軍軍医予備員候補者として朝鮮第22部隊入営
昭和16年12月10日	陸軍衛生軍曹任官，満期退官
昭和17年2月4日	九州帝国大学助教授に任ぜらる
昭和17年2月16日	九大臨時付属医学専門部講師を嘱託さる
昭和18年8月21日	陸軍軍政地教授に任ぜられ，ジャワ軍政監部付ジャカルタ医科大学勤務を命ぜらる
昭和21年6月12日	復員退官
昭和21年7月22日	国立病院医療事務を嘱託され，大村病院勤務を命ぜらる
昭和22年9月17日	厚生技官に任ぜらる
昭和22年12月15日	久留米医科大学教授に任ぜらる
昭和23年10月2日	文部教官に任命され，九州大学教授に補せらる（医学部，皮膚科学講座）
昭和25年11月1日	九州大学看護学校校長兼任（任期2カ年）
昭和27年1月25日	九州大学学生部参与を命ぜらる
昭和32年2月18日	文部省在外研究員として欧米各国に出張を命ぜらる（期間1カ年）
昭和40年4月1日	九州大学医学部付属病院長兼任（任期4カ年）
昭和42年7月17日	第13回国際皮膚科学会に出席し，1ヵ月間欧州9カ国を視察
昭和42年11月1日	文部省大学設置審議会専門委員に任ぜらる（任期1カ年）
昭和43年4月1日	九州大学医学部付属胸部疾患研究施設に併任（任期3カ年）
昭和43年9月25日	タイ，シンガポール，インドネシア，中華民国，香港の各国へ出張を命ぜらる（期間12日）
昭和44年4月1日	九州大学医学部付属癌研究施設に併任（任期2カ年）
昭和44年10月23日	大韓民国へ出張を命ぜらる（期間3日）
昭和45年5月20日	アメリカ合衆国へ出張を命ぜらる（期間15日）
昭和46年3月31日	定年退官

## 受賞

昭和29年4月3日	皆見賞（抗生物質による梅毒の治療および予防）
昭和36年10月3日	西日本文化賞（皮膚科領域の研究と治療に関する功績）

## 著 書

1. 梅毒のペニシリン療法 日本医書版, 昭 26.
2. 脱毛症の療法 医学書院版, 昭 30.
3. 皮膚病性病学 (皆見教授共著) 南山堂版, 昭 30.
4. 新しい軟膏療法 (奥野勇喜・中山晴道共著) 医学書院版, 昭 32.
5. 皮膚と美容 (佐藤一夫共著) 南山堂版, 昭 32.
6. 新しい軟膏療法 (第2版) 医学書院版, 昭 35.
7. 皮膚科学 (樋口教授編) 南山堂版, 昭 37.
8. 皮膚科領域における副腎皮質ホルモン療法 (原 宜之共著) モノグラフ, 昭 38.
9. 真菌病学 (占部治邦・西尾一方共著) 金原出版, 昭 39.
10. 新皮膚科学 (樋口教授編) 南山堂版, 昭 40.
11. 皮膚科学特論 (樋口教授編) 南山堂版, 昭 44.
12. 蕁麻疹の治療 (矢村卓三共著) 朝倉書店, 昭 44.
13. 皮膚病アトラス (樋口教授編) 南山堂版, 昭 45.

### [分 担 執 筆]

14. 鞏皮症, 鞏皮症類症, 皮膚萎縮症, 皮膚形成異常症 (奥野勇喜共著) 日本皮膚科全書 (金原出版), 5巻, 昭 29.
15. 外科学総論 (友田・三宅・天児教授編) (南山堂版), 昭 30.
16. 皮膚科領域における口腔病変について 日本臨牀歯科全書 (金原出版), 昭 30.
17. 皮膚カンジダ症について 皮膚科最近の進歩 (医菌薬出版), 第1集, 昭 30.
18. 梅毒の一般 臨牀医学講座 (医菌薬出版), 13回配本, 昭 31.
19. 職業性皮膚病 (丸岡紀元共著) 日本皮膚科全書 (金原出版), 13巻, 昭 31.
20. 分芽菌症 (岩崎 博共著) 日本皮膚科全書 (金原出版), 10巻, 昭 31.
21. 抗生物質駆梅療法—重金属療法との比較について (占部治邦共著) 医学の動向 (金原出版), 第8集, 昭 32.
22. 皮膚 Candida 症 (岩崎 博共著) 菌交代現象 (医学書院版), 昭 33.
23. 小児科学 (遠城寺教授編) (金原出版), 昭 33.
24. 小児科学 (高井教授編) (占部治邦共著) (文光堂版), 昭 33.
25. 局所薬物療法 日本皮膚科全書 (金原出版), 2巻の1 (金原出版), 昭 35.
26. 性病の現段階 (占部治邦共著) 医学の進歩 (医菌薬出版), 第3集, 昭 35.
27. 脱毛 症候よりみたる皮膚病の診断と治療 (金原出版), 昭 35.
28. 抗スピロヘータ薬, 駆梅療法 臨牀薬理学大系 10巻 (中山書店), 昭 39.
29. 蕁麻疹 臨床アレルギー学 (大倉書店), 昭 42.
30. 駆梅療法と梅毒の治療判定 皮膚科の動向 (南山堂版), 昭 42.

31. 皮膚真菌症の治療（占部治邦共著）臨床皮膚科（金原出版），昭 44.
32. 掻痒 薬物療法の実際（アサヒ共薬），昭 45.



## 樋口教授業績目録

(九大教授就任までの分)

研 究 題 目	掲 載 誌	巻 号	年 度
1. 健康保険の研究	九大医報	7 卷 3 号	昭 8
2. 酵母菌性間擦疹について (皆見教授共著)	皮 と 泌	3 卷 5 号	昭 10
3. いわゆる乳児寄生菌性紅斑について	皮 と 泌	3 卷 6 号	昭 10
4. 狼瘡様毛瘡, とくにその病原体について (皆見教授共著)	皮 と 泌	3 卷 2 号	昭 10
5. Über den Erreger der Sycosis Lupoide (Brocq) (皆見教授共著)	Dermat. Wschr. Bd. 101, Nr. 32, 1935		
6. 火焼輪知泉液の治験 (皆見教授共著)	阪医事誌	6 卷 5, 6 号	昭 10
7. 湿疹の統計的観察 (大橋勝治・他共著)	皮 と 泌	3 卷 5 号	昭 10
8. 健康人糞便中の酵母菌について (津留 寿共著)	皮 と 泌	4 卷 5 号	昭 11
9. 酵母菌性指趾間糜爛症	皮 と 泌	4 卷 1 号	昭 11
10. 酵母菌性肛囲湿疹 (皆見教授共著)	皮 と 泌	4 卷 4 号	昭 11
11. 癩に対するダルゴールの治験	レ プ ラ	7 卷 3 号	昭 11
12. 湿疹, とくに小児湿疹の統計的観察 (大橋勝治・他共著)	皮 尿 誌	39 卷 4 号	昭 11
13. 渦 状 癬 (皆見教授共著)	皮 と 泌	5 卷 4 号	昭 12
14. 鉱泉性皮膚炎について (松本亀雄共著)	日医新報	7 9 8 号	昭 12
15. 皆見式爪削器について	皮 と 泌	5 卷 2 号	昭 12
16. 表在性皮膚酵母菌症について (第 1 篇 臨床的観察)	皮 尿 誌	43 卷 3 号	昭 13
17. 表在性皮膚酵母菌症について (第 2 篇 菌学的研究)	皮 尿 誌	43 卷 5 号	昭 13
18. 表在性皮膚酵母菌症ならびにその病原菌について	九大医報	12 卷 1 号	昭 13
19. 病原性酵母菌の動物接種試験 (主として病理組織学的研究)	福岡医誌	31 卷 1 号	昭 13
20. 病原性酵母菌の動物接種試験 (その 2 免疫学的研究)	福岡医誌	31 卷 4 号	昭 13
21. 母子における唾液および糞便中の酵母菌について	皮 と 泌	6 卷 1 号	昭 13
22. 急性紅斑性狼瘡の 1 例, とくに本症と紫斑との 関係について (荒川忠良共著)	皮 と 泌	6 卷 6 号	昭 13
23. 陰茎エリトロブラジーについて (皆見教授共著)	実験医報	2 8 6 号	昭 13
24. 腎臓良性混合腫瘍の 1 例	皮 と 泌	6 卷 2 号	昭 13
25. 色素の酵母菌に及ぼす影響	皮 尿 誌	45 卷 6 号	昭 14
26. 先天性対側性色素異常症について (朴 己出共著)	皮 と 泌	7 卷 6 号	昭 14
27. 後天性多発性斑状血管拡張症の 1 例	皮 と 泌	7 卷 1 号	昭 14
28. トリコチロマニーについて (朴 己出共著)	実験医報	2 9 5 号	昭 14
29. 遠心性環状紅斑について (朴 己出共著)	皮 と 泌	7 卷 4 号	昭 14
30. 皮膚科領域におけるズダバードの応用 (菅井正憲共著)	皮 と 泌	7 卷 3 号	昭 14
31. ズルフォンアミドとサルバルサン併用による アグラヌロチトーゼの 1 例 (朴 己出共著)	治療処方	2 2 8 号	昭 14

32.	強姦致傷被告事件に関する鑑定例	臨 皮 泌	4 卷 12 号	昭 14
33.	蕁麻疹性紫斑について (朴 己出共著)	皮 と 泌	8 卷 5 号	昭 15
34.	サットン白斑について (朴 己出共著)	皮 と 泌	8 卷 4 号	昭 15
35.	リグラ状幼裂頭条虫症について (星本亨淳共著)	実地医家	17 卷 8 号	昭 15
36.	非定型的痘瘡疹について (河島 実・榊原三広共著)	関西医事	4 9 3 号	昭 15
37.	朝鮮人児童に見る 1 種の後天性癒着性包茎について (朴 己出共著)	皮 と 泌	8 卷 3 号	昭 15
38.	淋疾の化学療法, とくに治療中の再燃ならびに抗療性淋疾について (朴 己出共著)	皮 と 泌	8 卷 1, 2 号	昭 15
39.	晩近の淋疾化学療法にたいする卑見	治療処方	2 4 0 号	昭 15
40.	閉塞性腎臓結核について	内外治療	5 卷 4 号	昭 15
41.	皮膚内骨形成について (光本重信共著)	皮 と 泌	9 卷 2 号	昭 16
42.	顔面乳嘴状潰瘍性膿皮症について (星本亨淳共著)	診療と経験	5 2 号	昭 16
43.	重症サルバルサン疹について	臨 皮 泌	6 卷 1 号	昭 16
44.	胎生的腎臓混合腫瘍 (朴 己出共著)	阪医事誌	12 卷 5 号	昭 16
45.	消化管内酵母菌の意義	実験医報	3 2 9 号	昭 17
46.	乳嘴状潰瘍性膿皮症の 1 例	皮 と 泌	4 卷 6 号	昭 17
47.	痘瘡状急性膿疱症の一異型について (阿部 董共著)	皮 と 泌	10 卷 4 号	昭 17
48.	皮膚科領域におけるホルムアルデヒド高張葡萄糖液の治験例 (光本重信・阿部 董共著)	治療誌	12 卷 8 号	昭 17
49.	小児ストロフルスとミノファーゲン C (星本亨淳・阿部 董共著)	治療誌	12 卷 4 号	昭 17
50.	水銀燻蒸療法とその中毒例について (星本亨淳共著)	治療処方	2 7 1 号	昭 17
51.	某大学学生の梅毒反応検査成績について (和田智来共著)	皮 と 泌	10 卷 5 号	昭 17
52.	性病のズルフォンアミド療法晩近の趨勉	実地医家	19 卷 7 号	昭 17
53.	古湯および熊ノ川温泉 (佐賀県) 調査記	皮 と 泌	10 卷 5 号	昭 17
54.	病原性糸状菌ならびに糸状菌性疾患の概念	皮 と 泌	11 卷 5 号	昭 18
55.	筑豊炭田半島人抗夫に蔓延せる頑癬について (岡元健一郎・前原東作共著)	皮 と 泌	11 卷 1 号	昭 18
56.	Myxotrichum Kunze (Gymnoascaceae) による斑状落屑性白癬 (その 1 症例ならびに菌学的所見)	皮 尿 誌	54 卷 1 号	昭 18
57.	Myxotrichum Kunze (Gymnoascaceae) による斑状落屑性白癬 (その 2 人体および動物接種試験)	皮 尿 誌	54 卷 1 号	昭 18
58.	1 種の点状紅斑について	皮 と 泌	11 卷 2 号	昭 18
59.	いわゆる長江浮腫, とくにその組織像について (井上忠彦共著)	皮 と 泌	11 卷 4 号	昭 18
60.	椰子油の鼠癩に対する効果ならびに鼠癩菌培養に関する実験追補 (和田智来共著)	レ プ ラ	14 卷 4 号	昭 18
61.	小野氏梅毒著色反応について (和田智来・門 政嗣共著)	体 性	30 卷 5 号	昭 18
62.	ウラヒス瘻について (井上忠彦共著)	日本臨床	1 卷 2 号	昭 18
63.	重複腎, とくにその合併症について (西原 肇共著)	診療経験	7 卷 8 号	昭 18

64.	囊腫腎、とくにその腎盂像について (井上忠彦共著)	実地医家	20 卷 6 号	昭 18
65.	先天性軸捻転腎について (谷口嘉久弥・土井羊吉共著)	皮 と 泌	11 卷 3 号	昭 18
66.	皮膚酵母菌のビタミン B <sub>1</sub> 含有量について (伊藤衛門共著)	福岡医誌	37 卷 3 号	昭 19
67.	東印度、ことにジャワにおける癩および その対策状況について	ジャカルタ 医大紀要	1 号	昭 19
68.	ジャワにおける皮膚病および性病について	ジャカルタ 医大誌	1 卷 1 号	昭 19
69.	水牛癩の一般ならびに人類の水牛接種試験について	レ プ ラ	16 卷 4 号	昭 22
70.	性病の化学療法最近の進歩	臨床と研究	24 卷 12 号	昭 22
71.	皮膚レイシュマニア症について (土井羊吉共著)	臨 皮 泌	2 卷 3 号	昭 23
72.	熱帯潰瘍に関する研究	久留米医誌	11 卷 1~4 号	昭 23
73.	栄養失調症の皮膚変化 (鍋島新一共著)	久留米医誌	11 卷 7~9 号	昭 23
74.	竹乾溜液ならびに竹タールの皮膚疾患にたいする治験 (酒井 進・高森通夫共著)	治 療	30 卷 10 号	昭 23
75.	東印度における癩に関する業績の総括	レ プ ラ	17 卷 3 号	昭 23
76.	癩の初感染巣について	臨床と研究	25 卷 5 号	昭 23
77.	プロタルゴール過敏症について (石井義人共著)	臨 牀 皮 泌	2 卷 2 号	昭 23

[九大赴任後の分]

78.	マハルゼン療法	臨牀と研究	26 卷 1 号	昭 24
79.	サルバルサン溶媒としての自家血液の応用について (安藤俊生・高森通夫共著)	臨 牀 皮 泌	3 卷 1 号	昭 24
80.	本邦における病原系状菌ならびに該疾患に 関する研究の概況	東京医誌	66 卷 1, 2 号	昭 24
81.	本邦における病原系状菌性疾患ならびにその病原菌に 関する研究の概況	久留米医誌	11 卷 10~12 号, 12 卷 1~3 号, 4~6 号, 7~9 号, 9~12 号	昭 24
82.	腎結核について	臨牀と研究	26 卷 2 号	昭 24
83.	皮膚疾患にたいする葉緑素の応用 (酒井 進共著)	日医新報	1 2 9 9 号	昭 24
84.	抗ヒスタミン剤について (蜂須賀茂彦・持尾長年共著)	臨牀と研究	26 卷 4 号	昭 24
85.	梅毒のペニシリン療法 (野間祐輔共著)	臨牀と研究	26 卷 5 号	昭 24
86.	夏期に多い皮膚疾患とその治療	臨牀と研究	26 卷 6 号	昭 24
87.	駆梅療法最近の趨勢	日医新報	1 3 2 4 号	昭 24
88.	皮膚疾患における尿酸代謝	医 通 信	1 7 5 号	昭 24
89.	皮膚科領域における 2, 3 新外用薬の紹介 (中山晴通共著)	臨 牀	2 卷 11 号	昭 24
90.	熱帯癩患者ならびに同居者の血中ビタミン量について	レ プ ラ	18 卷 3 号	昭 24
91.	正常および病的皮膚の格子線維について (大串良士共著)	東京医誌	67 卷 3 号	昭 25
92.	梅毒のペニシリン療法を繞つて	医 通 信	1 8 9 号	昭 25

93.	ツルボエキス製剤デルモーゲンの治験 (森本藤一共著)	皮 と 泌	12 卷 1 号	昭 25
94.	最近の 2, 3 新化学療法剤による皮膚結核症の治療経験 (弘中哲也共著)	臨牀と研究	27 卷 2 号	昭 25
95.	痒痒ならびに止痒剤について (大串良士共著)	医 学	8 卷 2 号	昭 25
96.	脳下垂体移植による禿頭の治療	手 術	4 卷 2 号	昭 25
97.	脳下垂体移植による脱毛症の治療について (渡部智俱人・浦橋勝彦共著)	皮 と 泌	12 卷 5 号	昭 25
98.	脳下垂体移植について	医 通 信	2 1 0 号	昭 25
99.	筑豊炭田地方に集団発生せる乳児寄生菌性紅斑について (渡部智俱人・西 忠臣共著)	最新医学	5 卷 4 号	昭 25
100.	ブクク良性類肉腫について (弘中哲也共著)	臨牀と研究	27 卷 6 号	昭 25
101.	駆梅の主薬としてサルバルサンとマハルゾールの何れを取るべきか	福岡医誌	41 卷 6 号	昭 25
102.	2, 3 簡易梅毒反応検査法について	臨牀皮泌	4 卷 7 号	昭 25
103.	本邦における鞏皮症について (江本侃一共著)	診断と治療	特 別 号	昭 25
104.	梅毒に関係あるブクク類肉腫およびエリテマトーデスについて (藤野 博・完元安徳共著)	皮 と 泌	12 卷 3 号	昭 25
105.	梅毒のペニシリン療法, ことにわれわれの治療成績について (北村憲一・吉田正夫共著)	臨 牀	3 卷 10 号	昭 25
106.	慢性蕁麻疹の治療 (野田祐輔共著)	治 療	32 卷 12 号	昭 25
107.	ペニシリンによる性病の治療および予防	臨牀と研究	27 卷 12 号	昭 25
108.	皮膚科領域における新創縁接着剤ビオゲラチンの応用 (鎌田義文共著)	皮 と 泌	12 卷 4 号	昭 25
109.	諸種内分泌腺移植法について (浦橋勝彦共著)	臨 牀 医	35 卷 6 号	昭 25
110.	白癬菌のプレオモルフィーについて (森本藤一共著)	皮 と 泌	13 卷 3 号	昭 26
111.	皮膚科領域における抗ヒスタミン剤による治療 (菊池和夫共著)	診 療 室	3 卷 3 号	昭 26
112.	抗ヒスタミン剤を繞つて	福岡医誌	42 卷 7 号	昭 26
113.	軟膏療法の新傾向について (野間祐輔共著)	東京医誌	68 卷 3 号	昭 26
114.	限局性硬皮症の潰瘍形成について (江本侃一共著)	皮 と 泌	13 卷 1 号	昭 26
115.	尋常膿瘡について (一木象二郎共著)	総合医学	8 卷 16 号	昭 26
116.	サルバルサン自家血液溶媒法の再検討 (稗田一夫共著)	皮 と 泌	13 卷 2 号	昭 26
117.	脱毛症と脳下垂体前葉ホルモン	診 療 室	3 卷 5 号	昭 26
118.	脱毛症の治療について (渡部智俱人共著)	診療の実際	2 卷 3 号	昭 26
119.	諸種抗生物質による性病の治療	医 学	10 卷 4 号	昭 26
120.	比較的簡易なる梅毒反応検査法 (樋口成幸共著)	臨牀と研究	28 卷 9 号	昭 26
121.	水溶性砒素駆梅剤ソルミノールの治験 (野田治雄共著)	治療薬報	4 8 1 号	昭 26
122.	小児湿疹について (奥野勇喜共著)	治 療	33 卷 10 号	昭 26
123.	グアノフラシンによると思われる眼瞼白斑について (鎌田義文共著)	臨牀と研究	28 卷 12 号	昭 26
124.	足菌腫, ことに本症にたいするガントリジン剤の効果について (占部治邦・坪井 尚共著)	皮 と 泌	13 卷 6 号	昭 26

125.	凍傷と凍瘡の治療	臨 牀	5 卷 1 号	昭 27
126.	冷臍皮膚と内分泌腺移植療法	医 通 信	2 8 1 号	昭 27
127.	梅毒の肺結核 (村上義親共著)	日 結	11 卷 2 号	昭 27
128.	皮膚病の温泉療法について (蜂須賀茂彦・波多野裕敏共著)	皮 と 泌	14 卷 1 号	昭 27
129.	梅毒血清反応におけるカージオライピン抗原について	福岡医誌	43 卷 3 号	昭 27
130.	再び内分泌腺移植療法について (浦橋勝彦共著)	医 学	12 卷 4 号	昭 27
131.	色素失調症について (占部治邦・弘中哲也・平田晴夫共著)	皮 と 泌	14 卷 2 号	昭 27
132.	皮膚科領域における治療法最近の趨勢	臨牀と研究	29 卷 6 号	昭 27
133.	冷臍皮膚移植療法の批判 (鎌田義文共著)	日医新報	1 4 6 5 号	昭 27
134.	尋常白斑の治療, ことに小豆エキスおよびエキゾールの 応用について (江本侃一共著)	綜合臨牀	1 卷 3 号	昭 27
135.	坑内足部皮膚炎 (いわゆる粉炭まけ) について	炭 鉱 の 学 勞 働 科 学	1 卷 3 号	昭 27
136.	ラジウム治療後の腫瘍形成について (加生丈夫共著)	皮 と 泌	14 卷 4~5 号	昭 27
137.	新しい軟膏基剤について (野間祐輔・高野広英共著)	日医会誌	28 卷 7 号	昭 27
138.	皮膚結核の一般とその最新化学療法	臨牀と研究	29 卷 11 号	昭 27
139.	白癬治療法の概況, とくにウンデチレン酸の効果について (坪井 尚共著)	皮 と 泌	14 卷 6 号	昭 27
140.	梅毒ならびに軟下疳のクロロマイセチン療法 (坪井 尚共著)	治療薬報	4 9 8 号	昭 28
141.	発疹よりみた伝染性皮膚病	治 療	35 卷 2 号	昭 28
142.	ビールス性皮膚疾患について (松田正三共著)	臨牀と研究	30 卷 2 号	昭 28
143.	真菌 (糸状菌) を語る (座談会)	最新医学	8 卷 3 号	昭 28
144.	抗生物質による梅毒の治療および予防	皮 性 誌 臨牀と研究 日医新報 医 通 信	63 卷 4 号 30 卷 4 号 1 5 1 1 号 3 5 2 号	昭 28
145.	尋常瘡瘡 (にきび), とくにその成因と治療について (村山玄人共著)	医 学	14 卷 1, 2 号	昭 28
146.	多発性神経性皮膚壞疽について (岩崎 博共著)	皮 と 泌	15 卷 1 号	昭 28
147.	皮泌科領域におけるビタミンの問題 (座談会)	皮 と 泌	15 卷 1 号	昭 28
148.	臓器療法ならびにホルモン療法 (座談会)	皮 と 泌	15 卷 3 号	昭 28
149.	白癬にたいするニコチン軟膏の治験 (坪井 尚・中山靖佐・高野広英共著)	新薬と臨牀	2 卷 6 号	昭 28
150.	いわゆる水虫の原因と治療について (坪井 尚共著)	診 療	6 卷 7 号	昭 28
151.	皮膚疾患とビタミン A について	内科の領域	1 卷 2 号	昭 28
152.	白癬にたいする逆性石鹼オロナインの治験 (坪井 尚・麻生 孝共著)	大塚薬報	3 9 号	昭 28
153.	抗生物質によるモニリア症の発生について (岩崎 博共著)	福岡医誌	44 卷 8 号	昭 28
154.	華上体の機能, ことにそのホルモン様作用について (古川 宰共著)	ホ と 臨	1 卷 4 号	昭 28

155.	色素母斑ならびに色素沈着症の治療 (小松茂公・高野広英共著)	診療の実際	4 卷 10 号	昭 28
156.	白癬治療最近の趨勢	医 人	4 号	昭 28
157.	軟下疳の抗生物質療法 (占部治邦・佐藤一夫共著)	皮 と 泌	15 卷 4 号	昭 28
158.	梅毒の治療をめぐって	公衆衛生	14 卷 5 号	昭 28
159.	皮膚科領域における神経症について	臨牀と研究	30 卷 11 号	昭 28
160.	興味ある皮膚腫瘍の 2, 3 について (菊池和夫・高野広英共著)	綜合臨牀	2 卷 12 号	昭 28
161.	プロセリンと皮膚疾患について (浦橋勝彦共著)	臨牀皮泌	7 卷 12 号	昭 28
162.	軟下疳にたいするアイロタイシンの効果 (占部治邦・佐藤一夫共著)	モダン セラピー	6 卷 12 号	昭 28
163.	モニリア症, とくに本症と抗生物質との関係について (岩崎 博共著)	日内会誌	42 卷 11 号	昭 28
164.	Treatment and Prevention of Syphilis by Antibiotics (占部治邦・岩崎 博共著)	Kyushu Memoirs of Med. Sci. Vol. IV, No. 2, 3, 1953		
165.	皮膚科領域における抗生物質ならびに化学療法 (座談会)	皮 と 泌	15 卷 6 号	昭 28
166.	新しい抗生物質による性病の治療 (占部治邦・佐藤一夫・花田 豊共著)	皮 と 泌	16 卷 1 号	昭 29
167.	いわゆる抗療梅毒の本態とその対策について	医 通 信	390 号	昭 29
168.	皮膚結核の化学療法, とくに INAH 療法について (吉田正夫共著)	日 結	13 卷 6 号	昭 29
169.	皮膚科領域における口腔病変について	最新医学	9 卷 7 号	昭 29
170.	いわゆる抗療梅毒について (奥野勇喜共著)	綜合臨牀	3 卷 7 号	昭 29
171.	ナイトロゼン・マスタード皮膚炎に関する研究 (坪井 尚共著)	皮 と 泌	16 卷 3 号	昭 29
172.	カンジダとそれによる疾患 (岩崎 博・利谷昭治・徳永博己共著)	臨牀と研究	31 卷 7 号	昭 29
173.	抗生物質と性病 (佐藤一夫共著)	福岡医誌	45 卷 8 号	昭 29
174.	Aureomycin Triple Sulfas の淋疾に対する治験 (占部治邦・佐藤一夫共著)	皮 と 泌	16 卷 4 号	昭 29
175.	最近の軟下疳, とくにその抗生物質療法について (佐藤一夫共著)	福岡医誌	45 卷 10 号	昭 29
176.	レントゲン皮膚潰瘍の外科的療法 (佐藤一夫共著)	皮 と 泌	16 卷 5 号	昭 29
177.	壮年性脱毛症 (わかはげ), とくにその治療について (中野 拓・内田 潔共著)	診療の実際	5 卷 11 号	昭 29
178.	白癬の治療について (坪井 尚共著)	臨牀皮泌	8 卷 13 号	昭 29
179.	皮膚科領域におけるビタミン療法	広 医	7 卷 8 号	昭 29
180.	ビールス性皮膚疾患の抗生物質療法 (占部治邦・佐藤一夫共著)	治 療	37 卷 1 号	昭 30
181.	皮膚科領域におけるビタミン B <sub>12</sub> の治験 (村山真平・郷野博雄共著)	新薬と臨牀	4 卷 4 号	昭 30
182.	皮膚の角化形成, ことに角化異常について	最新医学	10 卷 5 号	昭 30
183.	絆創膏皮膚炎について (坪井 尚・利谷昭治共著)	診療の実際	6 卷 2 号	昭 30

184.	抗生物質の功罪 (座談会)	臨牀と研究	23 卷 3 号	昭 30
185.	脳下垂体埋没療法その後	今日の医学	第 10 集	昭 30
186.	バツマイシン軟膏の皮膚科的応用 (佐藤一夫共著)	皮 と 泌	17 卷 1 号	昭 30
187.	ビタミン B <sub>12</sub> の皮膚科的応用をめぐる (座談会)	皮 と 泌	17 卷 1 号	昭 30
188.	アレルギー性皮膚疾患の治療 (座談会)	皮 と 泌	17 卷 2 号	昭 30
189.	尋常乾癬の治療, とくにチビオン, コーチゾンの効果について (坪井 尚・渡部智俱人共著)	診 と 療	43 卷 8 号	昭 30
190.	壮年性脱毛症の予防および治療法	日本臨牀	13 卷 7 号	昭 30
191.	脱毛症とホルモン	ホ と 臨	3 卷 9 号	昭 30
192.	抗療性性病を中心として (パネル・ディスカッション)	日医新報	1 6 2 6 号	昭 30
193.	掻痒の治療について	中外医学	8 卷 9 号	昭 30
194.	皮膚結核最近の推移について (占部治邦・高野広英共著)	臨牀と研究	32 卷 12 号	昭 30
195.	T.P.I. テストに関する小経験 (井口 新・安元健児・麻生 孝共著)	皮 と 泌	17 卷 6 号	昭 30
196.	皮膚疾患と脂溶性ビタミン (座談会)	臨牀皮泌	9 卷 10 号	昭 30
197.	皮膚科領域における ACTH, コーチゾンの使用法 (多山 博共著)	日本臨牀	14 卷 2 号	昭 31
198.	コールドパーマ障碍について (佐藤一夫共著)	皮 と 泌	18 卷 1 号	昭 31
199.	梅毒および性病の変貌 (占部治邦共著)	最新医学	11 卷 5 号	昭 31
200.	最近の治療の進歩による疾病の変貌 (座談会)	最新医学	11 卷 5 号	昭 31
201.	皮膚病の温泉療法	温 研 報	8 卷 2 号	昭 31
202.	皮膚疾患, ことに湿疹, 皮膚炎にたいする Prednisone, Prednisolone の治験 (西尾一方共著)	最新医学	11 卷 6 号	昭 31
203.	急性毒蛾性皮膚炎について (皆見紀久男・徳永博己共著)	治 療	39 卷 8 号	昭 31
204.	黄蛾皮膚炎 (図説)	臨 日	2 卷 2 号	昭 31
205.	白癬の治療について (座談会)	臨牀皮泌	10 卷 8 号	昭 31
206.	ペニシリン・アレルギー, とくにその対策について (坪井 尚・皆見紀久男・江口昭二共著)	臨 日	2 卷 8 号	昭 31
207.	ペニシリン・アレルギーについて	九大医報	26 卷 3 号	昭 31
208.	Acrodermatitis enteropathica について (宮崎義男共著)	皮 と 泌	18 卷 5 号	昭 31
209.	Acrodermatitis enteropathica (図説)	診 療 室	8 卷 7 号	昭 31
210.	抗 療 梅 毒	医 人	1 号	昭 31
211.	色素問題の形態学的, 生化学的, 内分泌学的検討 (座談会)	最新医学	11 卷 10 号	昭 31
212.	皮膚 pH について (津田 露・植松一男共著)	米子医誌	7 卷 5 号	昭 31
213.	皮膚科および泌尿器科の今昔を語る (座談会)	臨牀皮泌	11 卷 3 号	昭 32
214.	尋常痤瘡 (にきび) について	中外医薬	10 卷 3 号	昭 32
215.	Beitrag zur Behandlung der Alopecia juvenilis —eine neue Operationsmethode	Therapiewoche, 7Jg, H. 14/15, 1957		

216.	皮膚疾患にたいするプレドニン軟膏の治験 (西尾一方共著)	臨牀と研究	34 卷 7 号	昭 32
217.	抗癬性白癬の問題点 (占部治邦共著)	医 人	8 号	昭 32
218.	尋常座瘡のホルモン療法 (利谷昭治共著)	ホ と 臨	5 卷 9 号	昭 32
219.	皮膚科領域におけるカンジダ症の統計的観察 (利谷昭治・中野 進共著)	皮 と 泌	19 卷 3 号	昭 32
220.	Characteristics of the Skin for the Infection of Trichophyton (占部治邦・高木憲三共著)	Kyushu J. of Med. Sci. Vol. 8, No. 3,	1957	
221.	新しい内服美容・保健薬をめぐつて (座談会)	診 療	10 卷 5 号	昭 32
222.	月経疹ならびに月経前緊張症について (高野広英共著)	綜 合 臨 牀	6 卷 4 号	昭 32
223.	瘡 瘡	治 療	39 卷 2 号	昭 32
224.	性病の諸問題 (討論)	福 岡 医 誌	48 卷 2 号	昭 32
225.	皮膚病の温泉療法	医学講座 (日本医師会編)	13号	昭 32
226.	ドイツ医学かアメリカ医学か (対談)	臨牀と研究	35 卷 4 号	昭 33
		医学講座 (日本医師会編)	26卷	昭 33
227.	欧米の医学, ことに皮膚科を視察して	医 人	7 卷 2 号	昭 33
228.	欧米における白癬菌症研究の現状	化 学 療 法	17 号	昭 33
229.	欧米における皮膚美容医学について	形 成 美 容 外 科	1 卷 3 号	昭 33
230.	欧米における禿脊と性病について	興 和 医 報	22卷4,5号	昭 33
231.	ドイツの社会医療制度について	日 医 新 報	1 7 8 7 号	昭 33
232.	Incontinentia pigmenti について (西尾一方共著)	臨 日	4 卷 5 号	昭 33
233.	壮年性脱毛症 (いわゆる若はげ) の手術療法	診 と 療	46 卷 5 号	昭 33
234.	真菌症の化学療法	Chemotherapy,	6 卷 4 号	昭 33
		医 通 信	5 6 1 号	
235.	皮膚真菌症の化学療法について	日 医 会 誌	40 卷 2 号	昭 33
236.	夏季に多い皮膚疾患とその治療 (坪井 尚・中野 進共著)	臨牀と研究	35 卷 7 号	昭 33
237.	ダーマトームによる植皮術 (占部治邦・西尾一方共著)	皮 と 泌	20 卷 1 号	昭 33
238.	皮膚結核の統計と治療について (占部治邦共著)	九 大 結 研 紀 要	4 卷 1~2号	昭 33
239.	保険の問題を語る (座談会)	臨牀と研究	35 卷 7 号	昭 33
240.	医療制度について (座談会)	九 大 医 報	28 卷 4 号	昭 33
241.	オレアンドマイシンによる性病の治療 (占部治邦共著)	J. Antibiotics, Ser. B,	11 卷 3 号	昭 33
242.	外国医学をみて (座談会)	臨牀と研究	35 卷 7 号	昭 33
243.	老人性皮膚疾患の統計的観察 (占部治邦・徳永博己・阿部志朗共著)	臨 牀 皮 泌	12 卷 13号	昭 33
244.	濕疹の局所療法	日 医 会 誌	40 卷 9 号	昭 33
245.	Systemic Moniliasis Complicated with Leukaemia (岩崎 博共著)	Kyushu J. of Med. Sci. Vol. 9, No.4,	1958	
246.	Statistical Observation of Moniliasis in the Field of Dermatology (占部治邦・利谷昭治共著)	Kyushu J. of Med. Sci. Vol. 9, No. 4,	1958	
247.	欧米における形成外科の動向 (座談会)	臨牀と研究	35 卷 9 号	昭 33



248.	医学と文学との交流 (座談会)	九大医報	28 卷 5 号	昭 33
249.	皮膚科領域における葡萄球菌の耐性問題について (徳永博己共著)	Chloromycetin Symposium (三共)		1958
250.	カンジダ症について (坪井 尚・利谷昭治共著)	皮膚臨床	1 卷 1 号	昭 34
251.	皮膚真菌症の発症病因について	新日医学 皮と泌 日医新報	46 卷 2 号 21 卷 1 号 1 8 1 7 号	昭 34 昭 34 昭 34
252.	寄生性毛瘡 (多山 博共著)	綜合臨牀	8 卷 5 号	昭 34
253.	Akute Dermatitis durch den giftigen Nachtfalter (占部治邦共著)	Hautarzt	10Jg. H.2.	1959
254.	骨移植について (座談会)	臨牀と研究	36 卷 1 号	昭 34
255.	マイトマイシン C の皮膚瘡にたいする効果 (植松一男共著)	皮と泌	21 卷 1 号	昭 34
256.	売春防止法全面施行以後の性病対策 (古賀 武・玉井輝雄ほか共著)	皮と泌	21 卷 1 号	昭 34
257.	軟膏療法の進歩とくにコルチゾン療法について (座談会)	興和薬報	5 卷 2 号	昭 34
258.	形成外科の将来を語る (座談会)	形成外科	2 卷 2 号	昭 34
259.	糸状菌症の治療	今日の医学 (日本医師会編)	第 47 集	昭 34
260.	真菌症ことに白癬症の治療について	薬局の友	37 卷 6 号	昭 34
261.	プレグナンジオールをめぐる諸問題 (座談会)	臨牀と研究	36 卷 6 号	昭 34
262.	病原糸状菌の電子顕微鏡像 (占部治邦共著)	日医新報	1 8 4 0 号	昭 34
263.	真菌症—水虫をめぐるつて (座談会)	日医会誌	42 卷 2 号	昭 34
264.	難治性汗疱状白癬の療法 (坪井 尚・植松一男共著)	皮膚臨床	1 卷 7 号	昭 34
265.	いわゆる抗療性梅毒の治療について	臨牀と研究	36 卷 7 号	昭 34
266.	皮膚科の臨床を聞く (座談会) (皆見省吾ほか共著)	皮膚臨床	1 卷 8 号	昭 34
267.	皮膚疾患の局所療法	日皮会誌	69 卷 7 号	昭 34
268.	膠原病としての鞏皮症について	臨牀と研究	36 卷 8 号	昭 34
269.	抗療梅毒における臨床検査成績 (占部治邦・皆見紀久男・ 江口昭二・中野 進・吉田守男・石沢靖之共著)	皮膚臨床	1 卷 9 号	昭 34
270.	抗療性梅毒の実験的研究	第15回日本医学会 総会学術集会記録	第 3 卷	昭 34
271.	いわゆる抗療梅毒にかんする諸問題	皮と泌	21 卷 3 号	昭 34
272.	局所療法管見	皮と泌	21 卷 4 号	昭 34
273.	いわゆる抗療梅毒の治療成績について (占部治邦・皆見紀久男・中野 進共著)	治 療	41 卷 10 号	昭 34
274.	植毛術とくにその臨床的方面 (利谷昭治・岡 幸広・吉住正子共著)	形成外科	2 卷 4 号	昭 34
275.	Statistical Observation of Moniliasis in the Field of Dermatology (占部治邦・利谷昭治共著)	Asian Med. J. Vol. 2, No. 9,		1959
276.	学童の皮膚病 (占部治邦共著)	学校における疾患(県学校医会編)		昭34
277.	Griseofulvin その白癬にたいする効果について (坪井 尚・多山 博・中野 進・吉田守男共著)	皮と泌	21 卷 6 号	昭 34

278.	皮膚疾患の副腎皮質ホルモン療法	三共講演速記録	第 1 号	昭 34
279.	糸状菌症の外用療法について (坪井 尚・植松一男共著)	皮膚臨床	2 巻 5 号	昭 35
280.	皮膚科領域におけるパントテノール含有B群複合注の応用 (座談会)	皮 と 泌	22 巻 4 号	昭 35
281.	クロモマイシンによる皮膚癌の治療 (植松一男共著)	皮 と 泌	22 巻 5 号	昭 35
282.	Calcinosis cutis universalis	福岡医誌	51 巻 12 号	昭 35
283.	パントテン酸にかんする研究 (研究班報告)	皮 と 泌	22 巻 3 号	昭 35
284.	皮膚真菌症, とくに白癬症の薬物療法 (坪井 尚・植松一男共著)	日本臨床	18 巻 5 号	昭 35
285.	皮膚科学会の展望	診 と 療	48 巻 3 号	昭 35
286.	肛門周囲の皮膚疾患の治療 (多山 博共著)	外科治療	2 巻 5 号	昭 35
287.	掻痒症について	日医新報	1 8 7 5 号	昭 35
288.	内服抗真菌剤グリセオフルビンについて	メディカル・カルチャー	1 巻 3 号	昭 35
289.	Griseofulvin について	日医新報	1 8 6 8 号	昭 35
290.	グリセオフルビン治療に関する 2, 3 の問題について (坪井 尚・中野 進・植松一男・師井庸夫・吉住正子共著)	真菌症	1 巻 2 号	昭 35
291.	職業性皮膚病について	福岡医誌	51 巻 5 号	昭 35
292.	皮膚科領域におけるウィルス学研究の趨勢	臨牀と研究	37 巻 6 号	昭 35
293.	ステロイド抗ヒ剤の使い分け (座談会)	臨牀と研究	37 巻 6 号	昭 35
294.	顔面播種状粟粒性狼瘡の治療	皮膚臨床	2 巻 6 号	昭 35
295.	新しいB複合剤の魅力	クリニシアン	7 巻 67 号	昭 35
296.	Characteristics of the scrotal skin for the infection of Trichophyton (占部治邦・高木憲三共著)	Asian Med. J. Vol. 3, No. 4, 5, 1960 Acta dermato-Venereol., Proc. 11th. Internal. Congr. Dermat. 1957. Vol. III. p. 1197-1199		
297.	欧米における皮膚科学の趨勢と日本の現状	臨 日	6 巻 10 号	昭 35
298.	湿 疹 の 管 理	診 と 療	48 巻 10 号	昭 35
299.	白癬症の療法, とくにグリセオフルビンについて	日医会誌	44 巻 3 号	昭 35
300.	ヒスタミンの問題 (座談会)	皮膚臨床	2 巻 11 号	昭 35
301.	グリセオフルビン療法その後の検討 (坪井 尚・植松一男・原 宣之共著)	皮 と 泌	23 巻 1 号	昭 36
302.	皮膚真菌症の治療—グリセオフルビンを中心として (坪井 尚・植松一男)	最新医学	16 巻 3 号	昭 36
303.	最近の真菌症研究を中心として (座談会)	最新医学	16 巻 3 号	昭 36
304.	いわゆる抗療梅毒の研究	日新医学	48 巻 2 号	昭 36
305.	Treatment and Prevention of Syphilis by Antibiotics (占部治邦・坪井 尚・岩崎 博共著)	Asian Med. J. Vol. 4, No. 2, 3 & 4, 1961, Vol. 5, No. 1, 1962		
306.	Systemic Candidiasis Complicated with Leukemia (岩崎 博共著)	Studies on Candidiasis in Japan Research Committee of Candidiasis, Feb. 1961		
307.	Dermatological Candidiasis (占部治邦・利谷昭治共著)	Studies on Candidiasis in Japan Research Committee of Candidiasis, Feb. 1961		

308.	化粧品皮膚障碍の治療	皮膚臨床	3 卷 4 号	昭 36
309.	パントテン酸にかんする研究 (2)	皮 と 泌	23 卷 3 号	昭 36
310.	職業性皮膚疾患	綜合臨床	10 卷 7 号	昭 36
311.	皮膚真菌症	外科治療	5 卷 1 号	昭 36
312.	炭坑坑内にて発生する皮膚病, ことに抗内足部皮膚炎について	皮膚臨床	3 卷 10 号	昭 36
313.	風土病性皮膚疾患 (座談会)	皮膚臨床	3 卷 10 号	昭 36
314.	プレドニンの皮膚科的応用について	Modern Therapy Vol.	14, No. 10, 1961	
315.	皮膚疾患のスキン・テストについて (井上浩一・岡 幸広・松村武正共著)	アレルギー	10 卷 7 号	昭 36
316.	Some Problems on Seroresistant Syphilis (占部治邦・吉田守男共著)	Kyushu J. of Med. Sci.	Vol. 12, No. 5, 1961	
317.	湿疹, 接触皮膚炎の外用療法	皮膚臨床	3 卷 臨時増刊号	昭 36
318.	耐性ブドウ球菌性感染症に対する処置 (アンケート) (五島広安共著)	皮膚臨床	3 卷 1 号	昭 36
319.	クロモマイシン (トヨマイシン) による皮膚癌の治療 (植松一男共著)	トヨマイシン 文献集		昭 36
320.	Periodontal diseases and skin diseases (松田正三・和田竜男共著)	Studies on Periodontal disease, Report of the Co-operative Research Ministry of Education (Medical) 1961		
321.	皮膚科領域における真菌症の治療 (植松一男共著)	診 と 療	5 卷 2 号	昭 37
322.	汎発性種痘疹 (西尾一方共著)	診 療	15 卷 3 号	昭 37
323.	ザルコイドーシス, とくにその Kveim 反応について (皆見紀久男・吉住正子・富川 博・松村武正・重松信昭 ・酒井 孝共著)	皮 と 泌	24 卷 1 号	昭 37
324.	小児乾燥型湿疹をどう考えるか (アンケート)	皮膚臨床	4 卷 1 号	昭 37
325.	皮膚科領域における酵素療法	タリニシアン	4 号	昭 37
326.	アレルギーについて	福岡県保険医ニュース	137号	昭 37
327.	皮膚真菌症の治療 (植松一男共著)	臨床と研究	39 卷 5 号	昭 37
328.	慢性蕁麻疹の療法	日医新報	1987号	昭 37
329.	蕁麻疹の統計的研究と諸テスト所見 (松村武正共著)	アレルギー	11 卷 7, 8 号	昭 37
330.	抗療性梅毒について	日医新報	1970号	昭 37
331.	肛門瘻瘻症の治療	外科治療	7 卷 1 号	昭 37
332.	蕁麻疹 (対談)	タリニシアン	92号	昭 37
333.	梅毒血清反応の検討とくに FTA Test (Fluorescent Treponemal Antibody Test) について (皆見紀久男・吉田守男・幸田 弘共著)	皮膚臨床	4 卷 8 号	昭 37
334.	老人の梅毒について	老人病	6 卷 8 号	昭 37
335.	抗白癬剤について (植松一男・ 師井庸夫・吉住正子・矢幡 敬・原 宜之共著)	真菌誌	3 卷 1 号	昭 37
336.	再発性女子顔面紅斑 (アンケート)	皮膚臨床	5 卷 7 号	昭 37

337.	皮膚疾患におけるブリック・テストと皮内反応の比較 (松村武正共著)	アレルギー	11巻9,10号	昭 37
338.	Kveim 反応を行つた 10 例の検討 (皆見紀久男・師井庸夫・重松信昭共著)	胸部疾患 研究所紀要	8 巻 1 号	昭 37
339.	最近の薬物療法 (皮膚疾患)	診 と 療	51 巻 1 号	昭 38
340.	円形脱毛症の治療	外科治療	8 巻 3 号	昭 38
341.	瘡 痒	治 療	45 巻 2 号	昭 38
342.	蕁麻疹にかんする 2, 3 の問題	最新医学	18 巻 2 号	昭 38
343.	微粒子 Griseofulvin (フルビスタチン UF) について (植松一男・矢幡 敬・原 宜之共著)	皮 と 泌	25 巻 1 号	昭 38
344.	微粒子 Griseofulvin について (植松一男・矢幡 敬・原 宜之共著)	臨床皮泌	17 巻 3 号	昭 38
345.	Study on Fine Particle Griseofulvin (植松一男・矢幡 敬共著)	Kyushu J. of Med. Sci. Vol. 44, No. 5, 1963		
346.	梅毒の動態—とくに西日本における (皆見紀久男・幸田 弘共著)	皮膚臨床	5 巻 5 号	昭 38
347.	Phenoxypropyl Penicillin および Aminobenzyl Penicillin の皮膚科領域における使用経験 (五島応安・村本修敬共著)	J. Antibiotics, Ser. B, 16 巻 1 号		昭 38
348.	皮膚科領域におけるブドウ球菌感染症の最近の 2, 3 の 問題について (五島応安共著)	医 人	12 巻 2 号	昭 38
349.	蕁 麻疹	日本短波放送内容集 No. 1		昭 38
350.	化学療法最近の進歩 (梅毒の治療) (皆見紀久男・都外川幸雄・幸田 弘共著)	臨床と研究	40 巻 12 号	昭 38
351.	皮膚癌の化学療法 (シンポジウム)	福岡医誌	54 巻 2 号	昭 38
352.	Therapeutic Effect of Anticancer Drugs on Skin Cancer (植松一男共著)	Kyushu J. Med. Sci. Vol. 14, No. 5, 1963		
353.	新しい内服用ペニシリンの効果について (五島応安共著)	薬 局	15 巻 1 号	昭 39
354.	梅毒血清反応を中心とした駆梅療法	Modern Therapy	17 巻 4 号	昭 39
355.	最近みる頸症梅毒 (座談会) (皆見省吾共著)	皮膚臨床	6 巻 11 号	昭 39
356.	難治梅毒の治療 (皆見紀久男・都外川幸雄・幸田 弘共著)	綜合臨床	13 巻 11 号	昭 39
357.	Der therapeutische Erfolge von Antikrebsmedi- kamenten bei Hautkrebs	Hautarzt	15 Jg. H. 10,	1964
358.	蕁麻疹の治療	アレルギー	13 巻 5 号	昭 39
359.	新しいスピロヘータの検査法 (都外川幸雄共著)	メディカル・ カルチャー	6 巻 6 号	昭 39
360.	皮膚反応について (座談会)	皮膚臨床	6 巻 10 号	昭 39
361.	不明熱と皮膚疾患	臨床と研究	41 巻 5 号	昭 39
362.	最近の梅毒について (皆見紀久男・都外川幸雄・幸田 弘共著)	臨床と研究	41 巻 8 号	昭 39
363.	皮泌科領域におけるプラスミンに関する研究 (研究班報告)	皮 と 泌	26 巻 3 号	昭 39
364.	最近の薬物療法 (皮膚疾患)	診 療	53 巻 1 号	昭 40
365.	皮膚疾患の食餌療法	臨床と研究	42 巻 4 号	昭 40

366.	駆梅療法 (対談)	ドクターサロン	9巻5号	昭40
367.	黒痣の治療法 (矢幡 敬共著)	形成外科	8巻2号	昭40
368.	皮膚科領域におけるレダマイシン (Dimethylchlo Tetracycline) の検討 (五島応安・村本修敬共著)	臨牀と研究	42巻5号	昭40
369.	みずむし (座談会)	藤沢薬報	142号	昭40
370.	膿皮症の諸問題 (五島応安共著)	診療	53巻6号	昭40
371.	顎口虫症について	放送内容集	6号	昭40
372.	口腔および口辺の皮膚科的病変について	第7回福岡県中央地区 歯科医学会会誌		昭40
373.	抗生物質選択上の注意事項2-3について	医人	14巻6号	昭40
374.	梅毒の化学療法について	NSB放送内容	第22集	昭40
375.	Étude psychosomatique des affections cutanées dites allergiques	Revue de médecine psychosomatique	Tome 7, No. 1, 1965	
376.	皮膚癌の化学療法 (五島応安共著)	日医新報	2169号	昭40
377.	頸症梅毒の治療 (過去3年間の新鮮梅毒に対する治療成績を中心として) (都外川幸雄・幸田 弘共著)	臨床皮泌	19巻12号	昭40
378.	皮膚癌の化学療法 (methotrexate 動脈内持続注入療法について) (五島応安・村本修敬共著)	皮膚臨床	7巻11号	昭40
379.	Sporotrichum schenkii の同定に対する蛍光抗体法の応用 (皆見紀久男・都外川幸雄・吉住正子・幸田 弘共著)	皮と泌	27巻5号	昭40
380.	皮膚科領域における自己免疫—エリテマトーデスを中心として (都外川幸雄・幸田 弘共著)	臨牀と研究	42巻10号	昭40
381.	皮膚癌の化学療法, ことに制癌剤の持続動注療法について (シンポジウム)	日皮会誌	75巻10号	昭40
382.	頸症梅毒の治療 (シンポジウム)	日皮会誌	75巻10号	昭40
383.	頸症梅毒の現況	ドクターサロン	10巻3号	昭41
384.	早期梅毒に対する2, 3の新しい抗生物質の効果 (幸田 弘共著)	皮膚臨床	8巻3号	昭41
385.	九大皮膚科60年間の薬疹の統計 (原 宜之・丸岡和也・安田 勝・菊池武英・山崎 学共著)	皮と泌	28巻1号	昭41
386.	皮膚病治療の考え方 (いわゆる抗アレルギー剤はどう使いこなすか)	クリニシャン	13巻136号	昭41
387.	早期頸症梅毒の治療について (幸田 弘共著)	性病	47巻1号	昭41
388.	真菌症, ことにスポロトリコーシスについて (幸田 弘・都外川幸雄・吉住正子共著)	Medical Postgraduates	Vol. 4, No. 5, 1966	
389.	春先に多い抜毛と毛髪の手入れ (座談会)	興和薬報	66巻2号	昭41
390.	円形脱毛症 (常用処方シリーズ)	実験治療	408号	昭41
391.	皮膚科領域における最新治療	診と療	54巻5号	昭41
392.	Chemotherapy in Human Skin Cancer-Effects of Intraarterial Methotrexate-Intramuscular Citrovorum Factor Therapy in Head and Neck Skin Cancer (五島応安共著)	Jap. J. of Dermat. Ser. B.	Vol. 75, No. 4, 1966	
393.	慢性皮膚疾患, ことに慢性湿疹の治療と管理	臨牀と研究	43巻6号	昭41

394.	最近の梅毒	診療手帖 The Clinic Times	11号および 266号	昭41
395.	最近の梅毒をめぐつて(座談会)	日医新報	2208号	昭41
396.	ECHO ウィルス型2によると思われる発疹症の1例 (五島応安共著)	実験治療	412号	昭41
397.	皮膚科領域における Dimethylsulfoxide の検討 (原 宜之・佐藤克彦・小宗義之・丸岡和也共著)	皮と泌	28巻4号	昭41
398.	梅毒(特集)	医薬人	15巻9号	昭41
399.	皮膚癌の化学療法	癌の臨床	別刷	昭41
400.	蕁麻疹	診と療	41巻10号	昭41
401.	じんま疹とアレルギー	からだの科学	12号	昭41
402.	院内感染(第1回感染症懇話会記録)	臨床と研究	43巻11号	昭41
403.	水疱症, とくに天疱瘡類を中心とした欧米における知見 (西尾一方共著)	皮膚臨床	8巻12号	昭41
404.	乾癬の種々相(利谷昭治共著)	日医新報	2228号	昭42
405.	皮膚のpHおよび中和能について	皮膚臨床	9巻2号	昭42
406.	進行性手掌角皮症の治療	皮膚臨床	9巻2号	昭42
407.	梅毒の治療法	産婦人科治療	14巻2号	昭42
408.	湿疹の予后	診と療	55巻2号	昭42
409.	老人性皮膚疾患	診と療	55巻4号	昭42
410.	湿疹とくに小児湿疹の推移	Medical Digest	5号	昭42
411.	帯状疱疹から湿疹まで(補酵素 B <sub>12</sub> の効果ある皮膚疾患)	クリニシャン	14巻149号	昭42
412.	皮膚癌の治療成績(化学療法による成績)(五島応安共著)	日癌治	2巻2号	昭42
413.	蕁麻疹	日本短波放送内容集	No. 11	昭42
414.	医療制度のあり方について	九大医報	37巻2号	昭42
415.	梅毒患者の管理	産婦人科治療	15巻2号	昭42
416.	ハゲの治療	外科診療	9巻8号	昭42
417.	皮膚疾患の地理病理学的検討—梅毒, 軟下病 (中垣謙一共著)	臨床皮	21巻10号	昭42
418.	梅毒最近の動向(都外川幸雄・幸田 弘共著)	皮と泌	29巻増刊号	昭42
419.	Mitomycin C in the Treatment of Skin Cancer (五島応安・村本修敬共著)	皮と泌	29巻増刊号	昭42
420.	小児湿疹に関する2, 3の問題	皮膚臨床	9巻12号	昭42
421.	かゆみ(私の処分)	日医新報	2269号	昭42
422.	Some Experimental Observations of Psychosomatic Aspects of Allergic Skin Disorders	XIII. Congress Internationalis Dermatologiae (München)	1967	
423.	カナマイシンの特性とその臨床応用(パネル)	日皮会誌	58巻12号	昭42
424.	爪の異常と疾患	診と療	56巻5号	昭43
425.	最近の梅毒を診断する	クリニシャン	163号	昭43
426.	薬疹(五島応安共著)	臨床と研究	45巻8号	昭43

427.	皮膚科における精神身体医学	臨 皮	22 卷 8 号	昭 43
428.	カナマイシンによる梅毒の治療 (都外川幸雄・幸田 弘・村本修敬・菊池武英共著)	V. D.	49 卷 2 号	昭 43
429.	皮膚カンジダ症 (北村公一共著)	皮膚臨床	10 卷 13 号	昭 43
430.	梅毒の治療	診と療	56 卷 12 号	昭 43
431.	足白癬の局所因子の検討 (安田 勝・北村公一・ 末永義則・安川典宏・幸田 弘・納富昭光共著)	真 菌 誌	9 卷 2 号	昭 43
432.	Psychosomatic Dermatology (巻頭言)	精 神 医	8 卷 2 号	昭 43
433.	最近の梅毒	九 大 医 報	38 卷 5 号	昭 44
434.	蕁 麻 疹 (私の治療法)	臨床科学	5 卷 3 号	昭 44
435.	接 触 皮 膚 炎	日皮会誌	61 卷 6 号	昭 44
436.	じんましんの原因と治療	健 康	4 月 号	昭 44
437.	ブレオマイシンと癌治療 (皮膚科)	診と療	57 卷 6 号	昭 44
438.	炎症性皮膚疾患とプラスミン (幸田 弘共著)	Medical Digest	115号	昭 44
439.	癌化学療法の展望 (五島応安共著)	臨床と研究	46 卷 4 号	昭 44
440.	梅 毒	内 科	23卷6号(特集号)	昭 44
441.	紅斑性狼瘡 (討論)	Minophagen Medical Review	14 卷 3 号	昭 44
442.	脱 毛 の 臨 床	医 人 業 人	18 卷 9 号	昭 44
443.	皮膚軟レ線のケロイド, 血管腫に対する効果および 境界線の皮膚疾患に対する効果 (シンポジウム)	日皮会誌	79 卷 9 号	昭 44
444.	油症 (塩化ビフェニール中毒症) の皮膚科学的症候論 (五島応安共著)	福岡医誌	60 卷 6 号	昭 44
445.	薬剤アレルギー, とくに薬疹について	今日の医学	3 9 号	昭 44
446.	皮膚癌に対するブレオマイシンの効果について	日医会誌	62 卷 2 号	昭 44
447.	皮膚科領域における Bleomycin の研究 (臨床篇) (五島応安・栗田諒一共著)	日皮会誌	79 卷 8 号	昭 44
448.	Clinical Study of Bleomycin in Dermatology (五島応安・栗田諒一共著)	Jap. J. of Dermat. Ser. B.	Vol. 79, No. 3, 1969	
449.	On the Effectiveness of Dermopan to Haemangiomas and Keloids and of the Grenz Ray Therapy to Skin Diseases	Jap. J. of Dermat. Ser. B.	Vol. 79, No. 3, 1969	
450.	油症事件を顧みて (座談会)	九 大 医 報	38 卷 6 号	昭 44
451.	油症最近の問題をめぐつて (座談会)	臨床と研究	46 卷 10 号	昭 44
452.	ライスオイル中毒事件を顧みて	日医新報ジュニア版	84 号	昭 44
453.	今後の皮膚科の教育 (座談会)	皮膚臨床	11 卷 8 号	昭 44
454.	Chemotherapy of Malignant Skin Tumors by Bleomycin (五島応安共著)	モノグラフ		昭 45
455.	アレルギー性慢性蕁麻疹の治療	薬物療法	3 卷 4 号	昭 45
456.	虫さされとかゆみ (座談会)	興和薬報	3 号	昭 45
457.	湿疹 (私の治療法)	臨床科学	6 卷 7 号	昭 45

458. 最近五ヶ年間のデルモパンによる血管腫，ケロイドの治療  
 (利谷昭治・都外川幸雄・中垣謙一・安川典宏・  
 末永義則・金出明子共著) 西日皮膚 32巻1号 昭45
459. 皮膚科領域における Rifampicin (Retamycin AMP)  
 の効果 (村本修敬・栗田諒一・高橋恭子共著) 診療 23巻6月臨時増刊号 昭45
460. 梅毒および他の性病 Chloromycetin Symposium  
 (モノグラフ) 昭45



## 指 導 業 績

〔九大教授就任までの分〕

研 究 題 目 (著者名)	掲 載 誌	巻 号	年 度
461. ペラグラの數例 (光本重信)	実地医家	17巻5号	昭15
462. 尿路結石, とくに舟状窩結石について (谷口嘉久弥)	臨皮泌	8巻4号	昭18
463. 癩痕癬の2例 (鈴木勝久)	臨皮泌	8巻5号	昭18
464. 紅斑性狼瘡癬の1剖検例 (谷口嘉久弥・鈴木勝久)	皮と泌	11巻5号	昭18
465. 多発性結石を伴える腎盂乳嘴腫の1例 (谷口嘉久弥・佐野硫治)	体性	30巻8号	昭18
466. 頭髮部毛渦の調査, とくに毛渦と性格との関係について (仙田柳虎)	皮と泌	11巻3号	昭18
467. 最近経験せる腎截石症例 (佐野硫治)	皮と泌	11巻1号	昭18
468. 精液腫の2例 (井上忠彦・佐野硫治)	皮と泌	11巻4号	昭18
469. 副睾丸結核の小統計 (鈴木勝久)	臨皮泌	8巻8号	昭18
470. 下腿潰瘍の治療, ことにガンビル・ヨードを以てせる 熱帯潰瘍の治療について (サルトン)	ジャカルタ 医大誌	1巻1号	昭19
471. 熱帯潰瘍に関する研究, 潰瘍面におけるジフテリア菌の 出現について (タン・エン・チー)	ジャカルタ 医大誌	1巻1号	昭19
472. フランベシアに関する研究 第1報 臨床的觀察 (ジュアリー)	ジャカルタ 医大誌	1巻1号	昭19
473. 結痂性疥癬 (ノルウェー疥癬), ことにその原因虫の 接種実験について (グナワン・ブンジャミン)	ジャカルタ 医大誌	1巻2号	昭19
474. 癩患者および同居者の血中ビタミンAおよび カロチノイド量について (ブンジャミン)	ジャカルタ 医大紀要	1号	昭19
475. 癩患者および近親者の血中ビタミンC量について (ブンジャミン)	ジャカルタ 医大紀要	1号	昭19
476. ジャカルタ市タナハバン区内国民学校児童の癩検診 (ブンジャミン)	ジャカルタ 医大誌	1巻1号	昭19
477. 癩診断法として濃厚血滴塗抹法の検討 (ブンジャミン)	ジャカルタ 医大誌	1巻2号	昭19
478. 癩の初感染染について (ブンジャミン)	ジャカルタ 医大誌	1巻2号	昭19
479. 恥垢中スピロヘータならびに紡錘状桿菌の検索 (高森通夫)	臨牀皮泌	2巻4号	昭23
480. 疣贅に関する小統計 (竹田忠雄)	久留米医誌	11巻7~9号	昭23
481. 静動脈血間における梅毒血清反応の差異について (安藤俊彦・高森通夫・石井義人)	性病	33巻5, 6号	昭24
482. 伴性優性遺伝を示せるレックリングハウゼン氏病の2家系 (谷口嘉久弥・平山典輔)	久留米医誌	11巻10~12号	昭24
483. 抗ヒスタミン剤の皮膚疾患に対する応用 (安藤俊彦・花田 豊・矢永正憲)	臨牀皮泌	3巻5号	昭24
484. 色素性乾皮症の2家系ならびに本邦報告例の総括 (竹田忠雄)	久留米医誌	12巻4~6号	昭24

## 〔九大における指導論文〕

486.	成形性陰莖硬化症の統計(大串良士)	臨牀皮泌	3巻2号	昭24
487.	宗反応(カーン反応変法)(望月仁三)	性病	34巻3号	昭24
488.	化学薬品に起因する職業性痤瘡様皮膚症状について(弘中哲也)	臨牀皮泌	3巻6号	昭24
489.	女子顔面黒色症のその後(野間祐輔)	臨牀皮泌	3巻8号	昭24
490.	慢性乳嘴状潰瘍性膿皮症の7例(村山玄人)	臨牀皮泌	3巻11号	昭24
491.	腸内細菌フラクチンが蕁麻疹患者の皮内反応ならびに皮膚描画症に及ぼす影響およびその治療効果について(蜂須賀茂彦)	福岡医誌	40巻3号	昭24
492.	原発性剝脱性紅皮症の病理学的考察(大串良士)	皮膚紀要	45巻5号	昭24
493.	脳廻転状頭皮について(持尾長年)	皮膚紀要	45巻6号	昭24
494.	皮膚色素異常症の格子線維について(大串良士)	久留米医誌	12巻10~12号	昭24
495.	正常皮膚の格子線維(大串良士)	皮と泌	12巻1号	昭25
496.	病的皮膚の格子線維(大串良士)	医研究	20巻1号	昭25
497.	分芽菌性陰外陰炎について(渡部智俱人)	皮と泌	12巻1号	昭25
498.	簡易梅毒血液検査法について(土井羊吉)	皮と泌	12巻1号	昭25
499.	皮膚疾患における尿酸の消長について(第1篇)(持尾長年)	福岡医誌	41巻1号	昭25
500.	皮膚疾患における尿酸の消長について(第2篇)(持尾長年)	福岡医誌	41巻2号	昭25
501.	輸血による梅毒感染防止に関する研究追試(吉田正夫)	皮と泌	12巻1号	昭25
502.	炭坑地方に多発せる乳児寄生菌性紅斑について(渡部智俱人)	皮と泌	12巻2号	昭25
503.	膿痂疹の年次的ならびに季節的変動について(荒川忠良・樋口成幸)(荒川教授指導)	皮膚紀要	46巻3号	昭25
504.	皮膚科疾患にたいするタウリン酸(ピウタン)の治験(大串良士)	皮と泌	12巻2号	昭25
505.	乾燥血滴反応(中村氏変法)の追試成績(桐生博光)	皮と泌	12巻2号	昭25
506.	化学薬品に起因する皮膚障碍について 第3報 ニトロクローラベンゾール系薬品およびその誘導体による皮膚および全身障碍に関する実験的研究(弘中哲也)	福岡医誌	41巻6号	昭25
507.	睾丸回転症の1例(土井羊吉)	久留米医誌	13巻1~2号	昭25
508.	サルバルサンの血液凝固阻止作用について(稗田一夫)	医研究	20巻6号	昭25
509.	本邦における血管性多形皮膚萎縮症について(奥野勇喜)	皮と泌	12巻3号	昭25
510.	皮膚有棘顎口虫症について(土井羊吉)	皮と泌	12巻3号	昭25
511.	マハルゼンおよびサルバルサンの効力比較に関する研究(1. 臨牀的研究)(吉田正夫)	皮と泌	12巻3号	昭25
512.	マハルゼンおよびサルバルサンの効力比較に関する研究(2. 実験的研究)(吉田正夫)	皮と泌	12巻3号	昭25

513.	冷蔵皮膚移植術について (鎌田義文)	皮 と 泌	12 卷 3 号	昭 25
514.	血清皺模様 (宮本・稲垣氏法) について 第 1 報 梅毒患者の血清皺模様 (中山靖佐)	皮 と 泌	12 卷 3 号	昭 25
515.	陳旧性潜伏梅毒の治療ならびに経過について (奥野勇喜)	臨牀と研究	27 卷 9 号	昭 25
516.	皮科領域における抗ヒスタミン剤に関する研究 第 1 報 各種抗ヒ剤の内外用治験 (菊池和夫)	皮 と 泌	12 卷 4 号	昭 25
517.	尋常膿瘡の症状ならびに統計追補 (一木象二郎)	皮 と 泌	12 卷 4 号	昭 25
518.	諸種の皮膚疾患にたいする大動脈弓注射療法について (奥野勇喜・野田治雄)	皮 と 泌	12 卷 4 号	昭 25
519.	脱毛症にたいする感光色素剤キハノールの治験 (浦橋勝彦)	皮 と 泌	12 卷 4 号	昭 25
520.	テブロンおよびテブロン R の皮膚科領域における治験 (大島恒雄)	皮 と 泌	12 卷 4 号	昭 25
521.	皮膚科領域における新肝油サンリバーの治験 (楢見幸郎)	皮 と 泌	12 卷 4 号	昭 25
522.	白癬菌のプレオモルフィスムスに関する研究 第 1 篇 形態学的研究 (森本藤一)	医 研 究	21 卷 1 号	昭 26
523.	白癬菌のプレオモルフィスムスに関する研究 第 2 篇 正常菌との諸性状の比較 (森本藤一)	医 研 究	21 卷 7 号	昭 26
524.	白癬菌のプレオモルフィスムスに関する研究 第 3 篇 プレオモルフィスムス発生予防ならびに還元法 (森本藤一)	医 研 究	21 卷 7 号	昭 26
525.	皮科領域における抗ヒスタミン剤に関する研究 第 2 報 抗ヒ剤の発斑形成抑制作用について (菊池和夫)	皮 と 泌	13 卷 1 号	昭 26
526.	皮科領域における抗ヒスタミン剤に関する研究 第 3 報 抗ヒ剤の光線紅斑形成抑制作用について (菊池和夫)	皮 と 泌	13 卷 2 号	昭 26
527.	皮科領域における抗ヒスタミン剤に関する研究 第 4 報 アルテュス現象におよぼす抗ヒ剤の影響 (菊池和夫)	皮 と 泌	13 卷 4~5 号	昭 26
528.	モナフラシン・カーボワックス軟膏の治験 (野間祐輔・郷野博雄・永瀬泰三)	皮膚紀要	47 卷 3 号	昭 26
529.	親水軟膏および 2, 3 外用薬の試用経験について (野間祐輔)	治療薬報	477 号	昭 26
530.	汎発性硬皮症の 1 例, とくに脳下垂体移植の効果について (江本侃一・他)	皮 と 泌	13 卷 1 号	昭 26
531.	尋常膿瘡の治療について (一木象二郎)	皮 と 泌	13 卷 1 号	昭 26
532.	別府紺屋地獄泥による皮膚病の治験 (蜂須賀茂彦・江本侃一)	皮 と 泌	13 卷 1 号	昭 26
533.	血清皺模様 (宮本・稲垣氏法) について 第 2 報 肺結核患者血清皺模様 (中山靖佐)	皮 と 泌	13 卷 1 号	昭 26
534.	血清皺模様 (宮本・稲垣氏法) について 第 3 報 慢性関節ロイマチス患者の血清皺模様 (中山靖佐)	皮 と 泌	13 卷 2 号	昭 26
535.	血清皺模様 (宮本・稲垣氏法) について 第 4 報 皮泌科疾患における血清皺模様 (中山靖佐)	皮 と 泌	13 卷 3 号	昭 26
536.	血清皺模様 (宮本・稲垣氏法) について 第 5 報 癩患者血清皺模様 (中山靖佐)	皮 と 泌	13 卷 4~5 号	昭 26
537.	血清皺模様 (宮本・稲垣氏法) について 第 6 報 血清皺模様の発現について (中山靖佐)	皮 と 泌	13 卷 4~5 号	昭 26

538.	血清皺模様(宮本・稲垣氏法)について 第7報 血清皺模様の発生機序(中山靖佐)	皮 と 泌	13 卷 6 号	昭 26
539.	過去23年間における尋常痤瘡の統計的観察(村山玄人)	皮 と 泌	13 卷 3 号	昭 26
540.	尋常痤瘡および他の2, 3皮膚疾患における肝機能, とくにヘパトサルフェレイン試験による検査成績について (村山玄人)	皮 と 泌	13 卷 1 号	昭 26
541.	尋常痤瘡患者における血糖について(村山玄人)	皮 と 泌	13卷4~5号	昭 26
542.	尋常痤瘡患者のトルコ鞍の大きさ(村山玄人)	皮 と 泌	13 卷 6 号	昭 26
543.	本邦における特発性斑状皮膚萎縮症(奥野勇喜)	皮 と 泌	13 卷 2 号	昭 26
544.	虫蝕様皮膚萎縮症(奥野勇喜)	皮 と 泌	13 卷 3 号	昭 26
545.	黒色表皮腫悪性型の1例(村山玄人)	皮 と 泌	13 卷 2 号	昭 26
546.	いわゆる足部坑内皮膚炎について(東 健一)	皮 と 泌	13 卷 2 号	昭 26
547.	トリコフィチンに関する研究 第1報 学童を対象とする トリコフィチン反応の再検討(桐生博光)	福岡医誌	42 卷 5 号	昭 26
548.	膿痂疹の発生に関する実験的研究(中山晴道)	福岡医誌	42 卷 7 号	昭 26
549.	リグラ状幼裂頭条虫症について(中野 拓・樋口成幸)	皮 と 泌	13 卷 3 号	昭 26
550.	白癬にたいする2, 3新薬の治験(森本藤一)	皮 と 泌	13 卷 3 号	昭 26
551.	ルチノン(第1)による凍瘡の治験(郷野博雄)	皮 と 泌	13 卷 3 号	昭 26
552.	私案第46軟膏について(大島恒雄)	皮 と 泌	13 卷 3 号	昭 26
553.	児童の皮膚病調査成績 (占部治邦・桐生博光・小松茂公・松本 忠)	臨牀皮泌	5 卷 8 号	昭 26
554.	諸種 Noxe により影響された慢性円板状 エリテマトーデスについて(岩崎 博)	臨牀皮泌	5 卷 9 号	昭 26
555.	病原糸状菌の抗菌作用について(占部治邦)	皮 性 誌	61 卷 5 号	昭 26
556.	皮膚科領域における検査法(野間祐輔)	臨牀と研究	28 卷 9 号	昭 26
557.	主要内分泌腺移植療法に関する研究 第1篇 主要内分泌腺移植の治療効果について(浦橋勝彦)	福岡医誌	42 卷 11 号	昭 26
558.	本邦における汎発性特発性後天性皮膚萎縮症, とくに 慢性萎縮性肢端皮膚炎について(奥野勇喜)	皮 と 泌	13卷4~5号	昭 26
559.	口腔癌腫における分芽菌の2次感染について (渡部智俱人・朱雀直道)	皮 と 泌	13卷4~5号	昭 26
560.	T.B. 1 による中毒疹の1例 (土井羊吉・中山靖佐・水野守男)	皮 と 泌	13卷4~5号	昭 26
561.	終戦後4カ年間ににおける性病患者の統計的考察 (土井羊吉・中山靖佐・水野守男)	皮 と 泌	13卷4~5号	昭 26
562.	色素性乾皮症の同胞3名にあらわれた症例とわが教室に おける統計的観察(鎌田義文)	皮 と 泌	13卷4~5号	昭 26
563.	抗療梅毒にたいするコンムニンの応用治験(北村憲一)	皮 と 泌	13 卷 6 号	昭 26
564.	ヒデゾールの白癬にたいする治験(占部治邦・坪井 尚)	皮 と 泌	13 卷 6 号	昭 26
565.	掻痒性皮膚疾患にたいする強力ミノフェーゲンCの効果 (加生丈夫)	皮 と 泌	13 卷 6 号	昭 26
566.	八幡製鉄所寮炊事勤務員に多発せる分芽菌性指趾間糜爛症 について(第1報)(原田暢三)	皮 と 泌	13 卷 6 号	昭 26

567.	War Melanosis (野間祐輔)	Kyushu Memoirs of Med. Science. Vol. I, No. 1, 1950		
568.	Transplantation of the Pituitary Gland for Treatment of Alopecia (渡部智俱人)	Kyushu Memoirs of Med. Science. Vol. II, No. 3, 1951		
569.	稀釈血清加温法による梅毒診断法について (土井羊吉)	医 研 究	22 卷 1 号	昭 27
570.	アレルギー検査法 (野間祐輔)	臨牀と研究	29 卷 1 号	昭 27
571.	寒の地獄冷泉, 星生温泉, 中野温泉調査記 (占部治邦・坪井 尚・岩崎 博)	皮 と 泌	14 卷 1 号	昭 27
572.	石綿状癬について (桐生博光)	皮 と 泌	14 卷 1 号	昭 27
573.	尋常瘡瘡患者の胃液酸度ならびに馬尿酸試験 (村山玄人)	皮 と 泌	14 卷 1 号	昭 27
574.	皮膚疾患にたいするビタミン B <sub>1</sub> および B <sub>2</sub> の使用経験 (白木良男)	皮 と 泌	14 卷 1 号	昭 27
575.	本邦における眼瞼弛緩症 (奥野勇喜)	皮 と 泌	14 卷 1 号	昭 27
576.	尋常膿瘡の発生機転について (一木象二郎)	福岡医誌	43 卷 2 号	昭 27
577.	いわゆる坑内足部皮膚炎について (梅津竜一郎)	臨牀皮泌	6 卷 2 号	昭 27
578.	主要内分泌腺移植療法に関する研究 第 2 篇 主要内分泌腺移植の生体に及ぼす影響について (浦橋勝彦)	福岡医誌	43 卷 3 号	昭 27
579.	冷蔵皮膚移植療法に関する研究 第 1 篇 臨牀篇 (鎌田義文)	福岡医誌	43 卷 3 号	昭 27
580.	家族的に発生せる胎生性軟骨萎縮症について (浦橋勝彦・中尾泰三)	皮 と 泌	14 卷 2 号	昭 27
581.	昭和 26 年春福岡県某漁村に発生したる痘瘡について (鎌田義文・野間祐輔・坪井 尚・松田正三・森本藤一・ 兵働貞夫・木下利之)	皮 と 泌	14 卷 2 号	昭 27
582.	尋常瘡瘡の皮脂分泌について (村山玄人)	皮 と 泌	14 卷 2 号	昭 27
583.	皮膚領域における抗ヒスタミン剤の研究 第 5 報 諸種抗ヒ剤の抗ヒスタミン, 抗アセチルコリン, 抗ピロカルピン, 抗アナフィラキシー作用 (菊池和夫)	皮 と 泌	14 卷 2 号	昭 27
584.	梅毒のペニシリン療法に関する研究 第 1 篇 ペニシリンによる駆梅毒成績について (北村憲一)	皮 と 泌	14 卷 2 号	昭 27
585.	梅毒のペニシリン療法に関する研究 第 2 篇 実験的再帰熱感染マウスにたいするペニシリン 投与実験 (北村憲一)	皮 と 泌	14 卷 2 号	昭 27
586.	痘 瘡 の 話 (野間祐輔)	皮 と 泌	14 卷 2 号	昭 27
587.	チェルブース禿瘡について 第 1 篇 わが教室における最近 20 年間の統計的観察 (坪井 尚)	皮 性 誌	62 卷 3 号	昭 27
588.	冷蔵皮膚移植療法に関する研究 第 2 篇 実験篇 (鎌田義文)	福岡医誌	43 卷 3 号	昭 27
589.	グリーンボールによる蕁麻疹の治験 (奥野勇喜・岩崎 博)	福岡医誌	43 卷 3 号	昭 27
590.	ベラグラ精神病の 1 例, ことに本症にたいする 肝製剤ニベナールの効果について (中尾泰三・浦橋勝彦)	皮 と 泌	14 卷 3 号	昭 27
591.	坑内足部皮膚炎の発生に関する研究 (大島恒雄)	皮 と 泌	14 卷 3 号	昭 27
592.	尋常瘡瘡患者の尿中 17 ケトステロイド (村山玄人)	皮 と 泌	14 卷 3 号	昭 27

593.	皮科領域における抗ヒスタミン剤の研究 第6報 抗ヒ剤の細菌および真菌に及ぼす影響(菊池和夫)	皮 と 泌	14 卷 3 号	昭 27
594.	皮科領域における抗ヒスタミン剤の研究 第7報 毛細血管透過性におよぼす影響(菊池和夫)	皮 と 泌	14 卷 3 号	昭 27
595.	抗ペニシリン性淋疾にたいするテラマイシン等の治験 (真崎光雄・前原 裕)	皮 と 泌	14 卷 3 号	昭 27
596.	皮膚疾患にたいする合成ビタミンA(チョコラ)の治験 (岩崎 博)	皮 と 泌	14 卷 3 号	昭 27
597.	バス, テビオンによる皮膚結核の治療経過 (白木良男・檜見幸郎)	皮 と 泌	14 卷 3 号	昭 27
598.	広島県児童福祉施設収容児における先天梅毒の調査 ならびに治療成績について (北村憲一・占部治邦・岩崎 博・坪井 尚)	性 病	37 卷 3 号	昭 27
599.	八幡製鉄所寮炊事勤効員に多発せる分芽菌性指趾間糜爛症 について(第2報)(原田暢三)	皮 と 泌	14 卷4~5号	昭 27
600.	最近10年間における尋常痤瘡患者の治療観察(村山玄人)	皮 と 泌	14 卷4~5号	昭 27
601.	カージオライピン抗原による緒方定量法について 第1報 従来法との比較成績(真崎光雄)	皮 と 泌	14 卷4~5号	昭 27
602.	水溶性軟膏基剤ソルベースについて (野間祐輔・高野広英)	皮 と 泌	14 卷4~5号	昭 27
603.	皮膚科領域におけるモリアミンの治験(河崎可成)	皮 と 泌	14 卷4~5号	昭 27
604.	皮膚科疾患にたいするバルの治療効果について (菊池和夫)	皮 と 泌	14 卷4~5号	昭 27
605.	梅毒凝集法(緒方)について(桐生博光)	皮 と 泌	14 卷4~5号	昭 27
606.	陰囊皮膚白癬について(占部治邦・坪井 尚)	臨 牀 皮 泌	6 卷 10 号	昭 27
607.	臀部肛囲に発生せる尋常狼瘡について(高野広英)	皮 と 泌	14 卷 6 号	昭 27
608.	尋常痤瘡患者のホルモン療法ならびにビタミン B <sub>2</sub> 療法の 観察(村山玄人)	皮 と 泌	14 卷 6 号	昭 27
609.	皮膚疾患にたいするシンコルタ(DOCA)の応用治験 (北村憲一・菊池和夫・権藤健彦)	皮 と 泌	14 卷 6 号	昭 27
610.	テラマイシンによる梅毒の治療 第1篇 経口投与による家兎梅毒の治療(占部治邦)	性 病	37 卷 6 号	昭 27
611.	フグ中毒に続発した乾癬の1例(中尾泰三)	臨 牀 皮 泌	7 卷 3 号	昭 28
612.	興味ある2, 3の症例(奥野勇喜)	治 療	35 卷 6 号	昭 28
613.	印刷工における職業性湿疹について(坪井 尚)	皮 と 泌	15 卷 1 号	昭 28
614.	頭部白癬に関する研究補遺(占部治邦)	皮 と 泌	15 卷 1 号	昭 28
615.	カージオライピン抗原による緒方定量法について 第2報 カージオライピン使用の諸新法との比較(真崎光雄)	皮 と 泌	15 卷 1 号	昭 28
616.	内分泌臓器移植手技について(浦橋勝彦)	皮 と 泌	15 卷 1 号	昭 28
617.	新湯(鹿児島県)温泉調査記(占部治邦・波多野裕敏)	皮 と 泌	15 卷 2 号	昭 28
618.	疣贅様表皮発育異常症について(北村憲一・菊池和夫)	皮 と 泌	15 卷 2 号	昭 28
619.	小児湿疹, とくに乳児湿疹の体質学的研究(古川 宰)	皮 と 泌	15 卷 2 号	昭 28
620.	下垂体前葉乾燥粉末プロセリンの治験について(浦橋勝彦)	皮 と 泌	15 卷 2 号	昭 28
621.	エラミンの蕁麻疹にたいする治験(小島隆保)	皮 と 泌	15 卷 2 号	昭 28

622.	植毛術について (加生丈夫・浦橋勝彦)	皮 と 泌	15 卷 2 号	昭 28
623.	VDRL (ガラス板法) について (加生丈夫・桐生博光)	皮 と 泌	15 卷 3 号	昭 28
624.	カージオライピン抗原による緒方定量法について 第 3 報 緒方定量法の簡易化について (真崎光雄)	皮 と 泌	15 卷 3 号	昭 28
625.	尋常痤瘡ならびに 2, 3 皮膚疾患にたいするチョコラ A (合成ビタミン A) の治験 (菊池和夫・村山玄人)	皮 と 泌	15 卷 3 号	昭 28
626.	皮膚科領域におけるヒドラジッドの治験 (増山 守)	皮 と 泌	15 卷 3 号	昭 28
627.	私案剔出器による家兎脳下垂体剔出法 (渡部智俱人)	皮 と 泌	15 卷 3 号	昭 28
628.	ペニシリンの体液および組織内濃度に関する研究補遺 (第 1 報) (花田 豊)	医 研 究	23 卷 6 号	昭 28
629.	鼻上体の機能に関する研究 (古川 宰)	医 研 究	23 卷 8 号	昭 28
630.	プリンダル病の 2 例, とくに脳廻転状頭皮母斑を合併した 症例について (坪井 尚・増山 守)	皮 と 泌	15 卷 4 号	昭 28
631.	分芽菌の発毛効果について (渡部智俱人・梅津竜一郎)	皮 と 泌	15 卷 4 号	昭 28
632.	八幡製鉄所寮炊事勤務員に多発せる分芽菌性指趾間糜爛症 について (第 3 報) (原田暢三)	皮 と 泌	15 卷 4 号	昭 28
633.	カージオライピン抗原による緒方定量法について 第 4 報 梅毒の臨牀と抗体価および抗体曲線との関係 (真崎光雄)	皮 と 泌	15 卷 4 号	昭 28
634.	強力パニールチンの臨牀的応用, とくに円形脱毛症に たいする治験について (皆見紀久男)	皮 と 泌	15 卷 4 号	昭 28
635.	本邦における顔面偏側萎縮症について (奥野勇喜)	皮 と 泌	15 卷 5 号	昭 28
636.	剥脱性紅皮症の 1 剖検例 (白木良男・野見山主計)	皮 と 泌	15 卷 5 号	昭 28
637.	両側性帯状疱疹について (原田暢三)	皮 と 泌	15 卷 5 号	昭 28
638.	カージオライピン抗原による緒方定量法について 第 5 報 梅毒家兎血清の抗体価および抗体曲線について (真崎光雄)	皮 と 泌	15 卷 5 号	昭 28
639.	皮膚科領域におけるネオレスタミンの治験 (菊池和夫・天野高彰)	皮 と 泌	15 卷 5 号	昭 28
640.	腋臭症の治療法について (村上邦夫)	皮 と 泌	15 卷 5 号	昭 28
641.	ペニシリンによる性病予防に関する実験的研究 (河崎可成)	医 研 究	23 卷 10 号	昭 28
642.	トリコフィチンに関する研究 第 2 報 トリコフィチン反応実験補遺および 有効因子の分析 (桐生博光)	福岡医誌	44 卷 2 号	昭 28
643.	梅毒の抗ペニシリン性獲得と無症状感染に関する 実験的研究 第 1 篇 梅毒の抗ペニシリン性獲得に関する 実験的研究 (吉峯秀隆)	福岡医誌	44 卷 10 号	昭 28
644.	ルチンについての薬理学的研究 (郷野博雄)	医 研 究	23 卷 12 号	昭 28
645.	皮膚疾患にたいするルチン剤の治験 (郷野博雄)	皮 と 泌	15 卷 6 号	昭 28
646.	女子外陰部萎縮症, とくにその本態について (奥野勇喜・白木良男)	皮 と 泌	15 卷 6 号	昭 28
647.	白癬にたいするオロナインの治験 (坪井 尚・麻生 孝)	皮 と 泌	15 卷 6 号	昭 28
648.	皮膚疾患にたいするコーチゾンの治験について (皆見紀久男)	皮 と 泌	15 卷 6 号	昭 28

649.	免疫とくに抗菌免疫の本態に関する研究 生体内における免疫現象とその免疫学的意義について (第1報) (奥野勇喜・白木良男)	皮 性 誌	63 卷 8 号	昭 28
650.	軟下疳に関する研究補遺 軟下疳にたいする アイロタイシンの効果 (佐藤一夫)	最新医学	9 卷 2 号	昭 29
651.	白癬にたいするウンデシレン酸アルコール溶液の治験 (坪井 尚・和田竜男)	臨牀皮泌	8 卷 2 号	昭 29
652.	皮膚科領域におけるビタミンの問題 (奥野勇喜)	臨牀と研究	31 卷 2 号	昭 29
653.	免疫とくに抗菌免疫の本態に関する研究 生体内における免疫現象とその免疫学的意義について (第2報) (奥野勇喜・白木良男)	皮 性 誌	64 卷 1 号	昭 29
654.	本邦における色素性乾皮症の統計的観察, とくに血縁関係ならびに遺伝関係について (奥野勇喜・白木良男)	皮 と 泌	16 卷 1 号	昭 29
655.	皮膚疾患における皮膚毛細血管抵抗 (郷野博雄)	皮 と 泌	16 卷 1 号	昭 29
656.	デルモーゲンチンキの治験 (中尾泰三・局 幹夫)	皮 と 泌	16 卷 1 号	昭 29
657.	皮膚疾患におけるビフロキシンの治験 (宮崎義男)	皮 と 泌	16 卷 1 号	昭 29
658.	白癬にたいするホスカ・コーワ液および軟膏の治験 (坪井 尚・多山 博)	皮 と 泌	16 卷 1 号	昭 29
659.	Klippel-Weber 症について (奥野勇喜・河崎可成)	臨牀皮泌	8 卷 3 号	昭 29
660.	生体内の免疫現象について (第1, 2報) (白木良男)	日新医学	41 卷 2 号	昭 29
661.	哺乳による無辜梅毒について (中尾泰三)	臨牀皮泌	8 卷 4 号	昭 29
662.	強力ミノファーゲンCの尋常瘰癧にたいする治験 (吉田正夫)	臨牀皮泌	8 卷 4 号	昭 29
663.	抗療梅毒に関する2, 3の問題 (奥野勇喜)	総合臨牀	3 卷 4 号	昭 29
664.	抗生物質 (クロロマイセチン, オーレオマイシン) により誘発されたと思われる多形滲出性紅斑様発疹の1例 (吉松孝治)	皮 と 泌	16 卷 2 号	昭 29
665.	新ローション基剤ゲルミナについて (占部治邦・高野広英)	皮 と 泌	16 卷 2 号	昭 29
666.	皮膚疾患に対するビゼックスの使用経験 (国見秀範)	皮 と 泌	16 卷 2 号	昭 29
667.	皮膚疾患にたいするチスカルおよびメチカル (和田竜男)	皮 と 泌	16 卷 2 号	昭 29
668.	テラマイシンによる梅毒の治療 (第2篇) 筋肉内注射による家兎梅毒の治療および予防 (占部治邦)	性 病	39 卷 3 号	昭 29
669.	ペニシリンの体液および組織内濃度に関する研究補遺 第2報 各種ペニシリンの血中濃度について 第3報 各種薬剤との併用時における血中濃度について (花田 豊)	医 研 究	24 卷 5 号	昭 29
670.	冷蔵血液療法に関する研究 (鯉坂元伯)	医 研 究	24 卷 5 号	昭 29
671.	クロランフェニコール (クロロマイセチン) による梅毒の 治療 第1篇 クロランフェニコールによる駆梅成績 (坪井 尚)	J. Antibiotics, Ser. B. 7 卷 4 号		昭 29
672.	水害による泥土皮膚炎 (加生丈夫・占部治邦・多山 博・ 徳永博己・安元健児・宮崎義男・飯野治彦)	皮 と 泌	16 卷 3 号	昭 29
673.	分芽菌の発毛効果に関する研究 (第1報) (梅津竜一郎)	皮 と 泌	16 卷 3 号	昭 29
674.	瘡痒性限局性皮膚疾患にたいする局所注射療法, とくにチフォミン, ビタミン B <sub>2</sub> について (吉松孝治)	皮 と 泌	16 卷 3 号	昭 29
675.	サンドペーパー療法 (井口 新・権藤健彦)	皮 と 泌	16 卷 3 号	昭 29



676.	肺モニリア症の1例について (岩崎 博・利谷昭治・甲斐崎勇)	臨牀と研究	31 卷 7 号	昭 29
677.	クロランフェニコール (クロロマイセチン) による梅毒の治療 第2篇 家兎梅毒の治療 (坪井 尚)	J. Antibiotics, Ser. B.	7 卷 5 号	昭 29
678.	わが教室過去25年間の性病の統計 (奥野勇喜・皆見紀久男・小島隆保・宮崎義男・国見秀範・麻生 孝・清澄 寿・林 敢為・内田 潔)	皮 と 泌	16 卷 4 号	昭 29
679.	ペインリンによる性病の予防的効果 (占部治邦・佐藤一夫)	皮 と 泌	16 卷 4 号	昭 29
680.	油性ペニシリンによる輸血梅毒の予防例 (中尾泰三)	皮 と 泌	16 卷 4 号	昭 29
681.	梅毒の陰蔽感染と新感染の問題 (桐生博光)	皮 と 泌	16 卷 4 号	昭 29
682.	アスナロン (ヒバ酸性油) の白癬にたいする治験 (坪井 尚・利谷昭治)	皮 と 泌	16 卷 4 号	昭 29
683.	Irgapyrin の皮膚科的臨牀経験 (井口 新)	皮 と 泌	16 卷 4 号	昭 29
684.	抗生物質による輸血梅毒予防に関する研究 (中尾泰三)	医 研 究	24 卷 5 号	昭 29
685.	梅毒の抗ペニシリン性獲得と無症状感染に関する実験的研究 第2篇 梅毒の無症状感染に関する実験的研究 (吉峯秀隆)	福 岡 医 誌	45 卷 10 号	昭 29
686.	皮膚糸状菌症、とくに白癬にたいするマーゾニンの治験 (坪井 尚・多山 博)	皮 と 泌	16 卷 5 号	昭 29
687.	梅毒の無症状感染例 (吉峯秀隆)	皮 と 泌	16 卷 5 号	昭 29
688.	毳毛部爪甲白癬に関する研究補遺 (占部治邦)	皮 と 泌	16 卷 5 号	昭 29
689.	テラマイシンによる梅毒の治療 第3篇 臨牀的駆梅成績 (占部治邦)	性 病	39 卷 6 号	昭 29
690.	クロランフェニコール (クロロマイセチン) による梅毒の治療 第3篇 実験的再帰熱感染マウスにたいするクロランフェニコールの投与実験 (坪井 尚)	J. Antibiotics, Ser. B.	7 卷 6 号	昭 29
691.	クロルテトラサイクリン (オーレオマイシン) による梅毒の治療 第1篇 クロルテトラサイクリンによる駆梅成績 (岩崎 博)	J. Antibiotics, Ser. B.	7 卷 6 号	昭 29
692.	肺結核患者における Candida 属の検出とその菌学的研究 1. 肺結核患者における Candida 属検出について (甲斐崎勇)	結 核	29 卷 7 号	昭 29
693.	軟下疳にたいする抗生物質の治効に関する実験的および臨牀的研究 (佐藤一夫)	医 研 究	24 卷 11 号	昭 29
694.	健康者のカンジダ・ワクチンによる皮内反応 (利谷昭治・甲斐崎勇)	皮 と 泌	16 卷 6 号	昭 29
695.	皮膚科領域における悪性腫瘍の化学療法、ことに8-Azaguanine (Guatazolo) の治療効果について (加生丈夫・坂本公孝)	皮 と 泌	16 卷 6 号	昭 29
696.	小児湿疹のヨーチゾン療法 (占部治邦・和田竜男)	皮 と 泌	16 卷 6 号	昭 29
697.	マウスにおける Candida 毒性のコーチゾンによる影響 (岩崎 博・徳永博己)	九大結研紀要	1 卷 1 号	昭 29
698.	皮膚疾患にたいするクロロフィリン・ボクシウムの治験 (伝 祖恭)	日 医 会 誌	32 卷 11 号	昭 29
699.	クロルテトラサイクリン (オーレオマイシン) による梅毒の治療 (第2, 3篇) (岩崎 博)	J. Antibiotics, Ser. B.	7 卷 7 号	昭 29

700.	メチアデカル注射による炎症性皮膚疾患の治療(和田竜男)	新薬と臨牀	4 卷 3 号	昭 30
701.	テラマイシンの再帰熱スピロヘータにたいする作用機序 (占部治邦)	性 病	40 卷 1 号	昭 30
702.	皮膚疾患にたいするネオドリン軟膏の使用経験(井口 新)	臨牀皮泌	9 卷 2 号	昭 30
703.	正常な皮膚の電気抵抗について(大庭 寛)	医 研 究	25 卷 1 号	昭 30
704.	マウスにたいするカンジダ毒性のコーチゾンによる影響 (岩崎 博・徳永博己)	皮 と 泌	17 卷 1 号	昭 30
705.	白癬にたいするトリコマイシン軟膏の治験 (多山 博・西尾一方・馬場真澄)	皮 と 泌	17 卷 1 号	昭 30
706.	癬痒症における心理的要因の意義(岩崎 博)	皮 と 泌	17 卷 2 号	昭 30
707.	皮膚疾患の場合の皮膚電気抵抗について(大庭 寛)	皮 と 泌	17 卷 2 号	昭 30
708.	八幡製鉄所寮炊事勤務員に多発せる分芽菌性指趾間糜爛症 について(第4報)(原田暢三)	皮 と 泌	17 卷 2 号	昭 30
709.	アトロマイシンによる梅毒の治療 (占部治邦・岩崎 博・原 恒彦)	皮 と 泌	17 卷 2 号	昭 30
710.	新局所麻酔薬カロコインの皮膚科的泌尿器科的応用 (井口 新・坂本公孝・和田竜男)	皮 と 泌	17 卷 2 号	昭 30
711.	慢性円板状エリテマトーデスとビタミンK (田代勝彦・松田訓行・西園泰久)	皮 と 泌	17 卷 3 号	昭 30
712.	リバノール皮膚炎(高木憲三)	皮 と 泌	17 卷 3 号	昭 30
713.	分芽菌の発毛効果に関する研究(第2報)(梅津竜一郎)	皮 と 泌	17 卷 3 号	昭 30
714.	皮膚疾患にたいするハイドロコーチゾンの局所的応用 (和田竜男・西尾一方)	皮 と 泌	17 卷 3 号	昭 30
715.	尋常座瘡ならびに2, 3皮膚疾患にたいするロパールの 治験(多山 博・高野広英)	皮 と 泌	17 卷 3 号	昭 30
716.	皮膚結核その他の2, 3皮膚疾患における ネオイスコチンの応用(利谷昭治・江口昭二)	皮 と 泌	17 卷 3 号	昭 30
717.	分芽菌の発毛効果に関する研究(第3報)(梅津竜一郎)	皮 と 泌	17 卷 4 号	昭 30
718.	色素沈着症にたいする Monobenzylether of Hydroquinone の応用(権藤健彦)	皮 と 泌	17 卷 4 号	昭 30
719.	皮膚疾患にたいするメルカプト醋酸ソーダの治験 (永井琢郎・内田 潔)	皮 と 泌	17 卷 4 号	昭 30
720.	各種慢性皮膚疾患にたいする胎盤漿の治験 (原 恒彦・西尾一方)	皮 と 泌	17 卷 4 号	昭 30
721.	カンジダ症に関する2, 3の問題 (岩崎 博・利谷昭治・徳永博己)	皮 と 泌	17 卷 5 号	昭 30
722.	梅毒血清診断法の現状、とくに潜伏梅毒の診断について (占部治邦・多山 博)	皮 と 泌	17 卷 5 号	昭 30
723.	皮膚科領域における線維素溶解酵素(Varidase) の臨牀的応用(加生丈夫・局 幹夫)	皮 と 泌	17 卷 5 号	昭 30
724.	Oral Treatment of Syphilis with Achromycin (占部治邦・岩崎 博・原 恒彦)	Kyushu J. Med. Sci. Vol. VI, No. 2, 1955		
725.	九大皮膚科教室における皮膚癌の統計的観察(中牟田秀孝)	皮 と 泌	17 卷 6 号	昭 30
726.	レオシリンによる急性淋疾治験例(占部治邦・中尾泰三)	皮 と 泌	17 卷 6 号	昭 30

727.	アイロタイシン, マグナマイシン単独および蒼鉛併用による駆梅実験 (占部治邦)	最新医学	11 卷 3 号	昭 31
728.	前立腺剔除後に発生せる口腔および尿路カンジダ症 (百瀬俊郎・松田正三・徳永博己)	日医新報	1 6 6 5 号	昭 31
729.	アイロタイシンによる梅毒の治療 (占部治邦・坪井 尚)	最新医学	11 卷 5 号	昭 31
730.	皮膚疾患におけるビタミン B <sub>2</sub> 代謝について (第 1 報) (宮崎義男)	皮 と 泌	18 卷 1 号	昭 31
731.	2, 3 皮膚疾患にたいするビタミン A, D 外用の経験 (高野広英)	皮 と 泌	18 卷 1 号	昭 31
732.	貧困者の梅毒のある調査 (桐生博光)	皮 と 泌	18 卷 2 号	昭 31
733.	作為的に生ずる皮膚疾患 (岩崎 博・宮崎義男)	治 療	38 卷 5 号	昭 31
734.	皮膚科学における治療法の進歩 (占部治邦)	九大医報	25 卷 4 号	昭 31
735.	皮膚疾患におけるビタミン B <sub>2</sub> 代謝 (第 2 篇) (宮崎義男)	皮 と 泌	18 卷 2 号	昭 31
736.	皮膚糸状菌症ことに白癬にたいする赤平軟膏の治験 (西尾一方)	皮 と 泌	18 卷 2 号	昭 31
737.	皮膚科領域におけるイブシロンの治験 (江口昭二)	皮 と 泌	18 卷 2 号	昭 31
738.	皮膚科領域におけるグラマイシン軟膏の治験 (中野 進)	皮 と 泌	18 卷 2 号	昭 31
739.	皮膚白血病について (永井琢郎・西尾一方)	皮 性 誌	66 卷 5 号	昭 31
740.	正常および病的皮膚の pH, とくに泉浴による影響について (津田 露)	温 研 報	8 卷 2 号	昭 31
741.	線糸女工にみられる職業性皮膚疾患 (線糸皮膚炎) (岩崎 博)	皮 と 泌	18 卷 3 号	昭 31
742.	ゼレン剤ミカロンの落屑性皮膚疾患にたいする使用経験 (永井琢郎)	皮 と 泌	18 卷 3 号	昭 31
743.	鼻翼欠損にたいする整形手術について (佐藤一夫)	皮 と 泌	18 卷 3 号	昭 31
744.	夏期に多い皮膚疾患とその治療 (占部治邦)	臨牀と研究	33 卷 7 号	昭 31
745.	ペニシリン・アレルギーに関する研究 (皆見紀久男)	福岡医誌	47 卷 11 号	昭 31
746.	皮膚糸状菌症にたいする Bis-ethylmercuric sulfide 軟膏 (アルパー) の治験 (多山 博・利谷昭治)	皮 と 泌	18 卷 4 号	昭 31
747.	尋常白斑の局所療法について (権藤健彦)	皮 と 泌	18 卷 4 号	昭 31
748.	エリテマトーデスの統計的観察 (中野 進)	皮 と 泌	18 卷 5 号	昭 31
749.	皮膚の中和能について (津田 露)	皮 と 泌	18 卷 5 号	昭 31
750.	コールドパーマ障碍について (第 2 報) (佐藤一夫・松田訓行)	皮 と 泌	18 卷 5 号	昭 31
751.	8-Azaguanin (AZAN) による陰茎癌治療の 1 例 (局 幹夫・中牟田秀孝・玉井恭子)	皮 と 泌	18 卷 5 号	昭 31
752.	凍瘡にたいするニコチン酸製剤 (メニエル) の治療効果について (宮崎義男)	皮 と 泌	18 卷 5 号	昭 31
753.	皮膚結核の化学療法 (占部治邦)	医学の進歩	第 2 集	昭 31
754.	壮年性脱毛症に関する研究 (内田 潔)	福岡医誌	47 卷 12 号	昭 31
755.	薬疹さまざま (野間祐輔)	臨牀と研究	33 卷 2 号	昭 31
756.	別府白湯温泉の調査 (永井琢郎)	皮 と 泌	18 卷 6 号	昭 31

757.	塚原温泉調査記 (中溝慶生・郷野博雄)	皮 と 泌	18 卷 6 号	昭 31
758.	佐賀古湯および熊の川温泉の調査, とくに「湯子」 について (占部治邦・多山 博・利谷昭治・徳永博己)	皮 と 泌	18 卷 6 号	昭 31
759.	トリコマイシン内服錠の 2, 3 真菌性疾患にたいする治験 (岩崎 博・利谷昭治・徳永博己・甲斐崎勇・津田正明)	皮 と 泌	18 卷 6 号	昭 31
760.	いわゆる鉱泉性皮膚炎について (中溝慶生)	温 研 報	8 卷 4 号	昭 31
761.	肘窩下溝について (古河昭司)	医 研 究	27 卷 2 号	昭 32
762.	梅毒の各種抗生物質による耐性獲得に関する実験的研究 (村山真平)	福 岡 医 誌	48 卷 9 号	昭 32
763.	軟膏使用量と原価計算による社会保険診療報酬点数 (高野広英)	皮 と 泌	19 卷 1 号	昭 32
764.	別府紺屋泥による皮膚病の治験 (中溝慶生・郷野博雄)	皮 と 泌	19 卷 1 号	昭 32
765.	強力ベネグサンの白癬にたいする治験 (多山 博・井上浩一)	皮 と 泌	19 卷 1 号	昭 32
766.	胃癌の皮膚転移例について (中野 進)	皮 と 泌	19 卷 1 号	昭 32
767.	白癬罹患に関する陰囊皮膚の特異性について 第 1 篇 猩紅色菌による人体陰囊皮膚接種試験 (高木憲三)	皮 と 泌	19 卷 2 号	昭 32
768.	皮膚疾患にたいするアクサゲル, アクサー・Z の治験 (占部治邦・和田竜男・植松一男)	皮 と 泌	19 卷 2 号	昭 32
769.	PMH 軟膏の皮膚真菌症にたいする治験 (多山 博・利谷昭治)	皮 と 泌	19 卷 2 号	昭 32
770.	皮膚科領域におけるウルソデジキソール酸の治験 (中野 進)	皮 と 泌	19 卷 2 号	昭 32
771.	成形手術をこころみた鞏皮症の 1 例について (中野 進・伝 祖恭)	皮 と 泌	19 卷 2 号	昭 32
772.	気象と皮膚疾患 (坪井 尚・徳永博己)	皮 と 泌	19 卷 3 号	昭 32
773.	白癬罹患に関する陰囊皮膚の特異性について 第 2 篇 陰囊皮膚の組織学的ならびに組織化学的研究 (高木憲三)	皮 と 泌	19 卷 3 号	昭 32
774.	痒瘡にたいするシナホリン錠の治験 (中野 進)	皮 と 泌	19 卷 3 号	昭 32
775.	皮膚科泌尿器科領域における松原癌反応 (M・C・R) の応用と検討 (西尾一方・麻生 孝)	皮 と 泌	19 卷 3 号	昭 32
776.	白血病に合併した汎発性カンジダ症の 2 例 (岩崎 博・中野 進・他)	皮 と 泌	19 卷 4 号	昭 32
777.	腔内におけるカンジダ検出頻度 (久保田利秋)	皮 と 泌	19 卷 4 号	昭 32
778.	白癬罹患に関する陰囊皮膚の特異性について 第 3 篇 陰囊皮膚の脂肪酸 (高木憲三)	皮 と 泌	19 卷 4 号	昭 32
779.	白癬罹患に関する陰囊皮膚の特異性について 第 4 篇 陰囊皮膚の pH ならびに皮膚温 (高木憲三)	皮 と 泌	19 卷 4 号	昭 32
780.	腎腫瘍をともなつた Acanthosis nigricans の 2 例 (皆見紀久男・西尾一方)	皮 と 泌	19 卷 5 号	昭 32
781.	過去 15 年間 (昭 15—29) における梅毒血清反応の 統計的観察 (皆見紀久男・和田竜男・局 幹夫・ 中野 進・麻生 孝・江口昭二・伝 祖恭・荒木明節)	皮 と 泌	19 卷 5 号	昭 32
782.	最近 20 年間の円形脱毛症の統計 (和田竜男)	皮 と 泌	19 卷 5 号	昭 32

783.	皮膚疾患にたいするハービタ（ビオチン）の治験 （占部治邦・植松一男・阿部志朗）	皮 と 泌	19 卷 5 号	昭 32
784.	癩痕性皮膚疾患にたいするコンドロイチンの治験 （坪井 尚・中野 進・伝 祖恭）	皮 と 泌	19 卷 5 号	昭 32
785.	P <sup>32</sup> による血管腫その他の表在性治療について （皆見紀久男・荒木明節）	皮 と 泌	19 卷 6 号	昭 32
786.	炭塵皮膚炎について（高木憲三）	皮 と 泌	19 卷 5 号	昭 32
787.	歯槽膿漏と皮膚疾患（和田竜男）	福岡医誌	48 卷 6 号	昭 32
788.	PMH 軟膏の皮膚色素沈着症にたいする治験 （多山 博・利谷昭治）	臨牀皮泌	11 卷 5 号	昭 32
789.	ベナカル B <sub>6</sub> による皮膚疾患の治験（多山 博・利谷昭治）	新薬と臨牀	6 卷 12 号	昭 32
790.	ペニシリン V カルシウム塩錠内服による皮膚疾患および 淋疾その他にたいする治験 （皆見紀久男・高野広英・江口昭二・伝 祖恭）	新薬と臨牀	6 卷 11 号	昭 32
791.	ゼリア注の皮膚疾患にたいする治験（坪井 尚・植松一男）	臨牀皮泌	11 卷 6 号	昭 32
792.	皮膚科領域における Eurax 軟膏の治験 （占部治邦・吉田守男）	治 療	39 卷 11 号	昭 32
793.	新型軟膏の基礎的ならびに臨牀的研究（基礎篇Ⅰ） （高野広英）	日皮会誌	67 卷 2 号	昭 32
794.	新型軟膏の基礎的ならびに臨牀的研究（基礎篇Ⅱ） （高野広英）	日皮会誌	67 卷 6 号	昭 32
795.	新型軟膏の基礎的ならびに臨牀的研究（臨床篇） （高野広英）	日皮会誌	67 卷 6 号	昭 32
796.	尋常瘡癩にたいするヴィーナス錠の使用経験（中野 進）	新薬と臨牀	6 卷 1 号	昭 32
797.	癩の血清反応について（皆見紀久男）	レ プ ラ	26 卷 2 号	昭 32
798.	皮膚疾患にたいする Contomin, Hiberna, Contomin- Hiberna 軟膏の治験（伝 祖恭）	新薬と臨牀	6 卷 10 号	昭 32
799.	皮膚癌の組織学的研究、とくに予後判定への応用 （中牟田秀孝）	福岡医誌	48 卷 3 号	昭 32
800.	いも類蛋白質のアミノ酸組成ならびに 2, 3 食品の 吸収率について（永瀬泰三）（広畑教授指導）	福岡医誌	48 卷 11 号	昭 32
801.	皮膚科領域における壊死物質融解酵素剤 Trypure Novo の使用経験（吉田守男）	臨牀皮泌	12 卷 8 号	昭 33
802.	線維素溶解酵素に関する研究（局 幹夫）	医 研 究	28 卷 2 号	昭 33
803.	肺結核患者における Candida 属検出とその菌学的研究 2. Candida 属の菌学的研究（甲斐崎 勇）	福岡医誌	49 卷 2 号	昭 33
804.	細菌性、糜爛性、潰瘍性皮膚疾患にたいする エマホルムの治験（利谷昭治）	臨牀皮泌	12 卷 3 号	昭 33
805.	植毛術について（座談会）（占部治邦他）	臨牀と研究	35 卷 3 号	昭 33
806.	グロンサン・ブドー糖注の 2, 3 皮膚疾患にたいする治験 （植松一男）	大塚薬報	8 9 号	昭 33
807.	坑内労働とビタミン B <sub>2</sub> 代謝について（西園泰久）	福岡医誌	49 卷 6 号	昭 33
808.	補体を基体とした梅毒の血清学的研究（高阪義一郎）	医 研 究	28 卷 7 号	昭 33
809.	数種の皮膚疾患および性病にたいする Kynex の治効 （植松一男・佐藤一夫）	皮 と 泌	20 卷 2 号	昭 33

810.	バイシリン・ペニシリンV混合錠内服の皮膚疾患 および淋疾にたいする治験(皆見紀久男・高野広英・ 江口昭二・伝 祖恭・劉 宗輝)	皮 と 泌	20 卷 3 号	昭 33
811.	皮膚疾患にたいする低周直角脈波療法応用の (西尾一方・井上浩一)	皮 と 泌	20 卷 3 号	昭 33
812.	白癬の感染源について(藤 豊)	臨牀皮泌	12 卷 7 号	昭 33
813.	チョコラ・ピオBBによる皮膚疾患の治療 (局 幹男・和田竜男・安永一弥)	臨牀皮泌	12 卷 5 号	昭 33
814.	火傷皮膚炎(皆見紀久男・宮崎義男・植松一男)	皮 と 泌	20 卷 1 号	昭 33
815.	強力ボボの白癬にたいする治験(植松一男・安部英一)	皮 と 泌	20 卷 1 号	昭 33
816.	白 癬(古部治邦)	皮 と 泌	20 卷 2 号	昭 33
817.	皮膚科泌尿器科におけるカルチノフィリンの応用 (西尾一方)	皮 と 泌	20 卷 2 号	昭 33
818.	自衛隊における白癬およびその再発予防ならびに 治療剤の比較について(藤 豊)	福岡医誌	49 卷 7 号	昭 33
819.	クロロフィリン・ポタシウムの臨床的研究(第1報) (伝 祖恭)	皮 と 泌	20 卷 4 号	昭 33
820.	皮膚疾患, とくに湿疹にたいするシスカルの治験 (劉 宗輝)	皮 と 泌	20 卷 4 号	昭 33
821.	ゼム軟膏の治験(多山 博・御厨正夫)	臨牀皮泌	12 卷 11 号	昭 33
822.	実験白癬とビタミン, ホルモン, とくにそれらの投与の 影響について(植松一男)	皮 と 泌	20 卷 5 号	昭 33
823.	クロロフィリン・ポタシウムの臨床的研究 (第2篇)(伝 祖恭)	皮 と 泌	20 卷 5 号	昭 33
824.	皮膚科領域におけるプラスゲンLの使用経験 (皆見紀久男・吉田守男)	皮 と 泌	20 卷 5 号	昭 33
826.	真菌染色法に関する研究(植松一男)	日皮会誌	68 卷 11 号	昭 33
827.	鼠径表皮菌の産生する抗生物質について 第1報 各種病 原真菌の抗菌作用と鼠径表皮菌の産生する抗生物質の Primary screening について(西尾一方)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
828.	鼠径表皮菌の産生する抗生物質について 第2報 鼠径表 皮菌の産生する抗生物質の Secondary screening と 分離抽出法について(西尾一方)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
829.	鼠径表皮菌の産生する抗生物質について 第3報 鼠径表 皮菌の産生する各抗生物質について(西尾一方)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
830.	Chlorpromazine の梅毒その他2, 3の感染症に 及ぼす影響(徳永博己)	日皮会誌	68 卷 11 号	昭 33
831.	泉浴の皮膚機能におよぼす影響(利谷昭治)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
832.	爪白癬に関する研究(第1, 2, 3報)(阿部志朗)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
833.	ペニシリンの副作用の予防に関する研究(中野 進)	日皮会誌	68 卷 11 号	昭 33
834.	工場白癬, ことに白癬菌の分離に関する研究(矢野 豊)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
835.	猩紅色菌に関する研究, とくにその色素形成について (多山 博)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
836.	対馬における皮膚病の調査研究(第1, 2篇) (天野高彰)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33

837.	炎症性皮膚疾患における遊走細胞について (劉 宗輝)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
838.	ベニシリン皮膚反応に関する研究 (第1, 2, 3篇) (江口昭二)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
839.	Micrurgie の真菌方面への応用 (第1, 2, 3篇) (安部英一)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
840.	オレアンドマイシンの性病にたいする効果 (吉田守男)	皮 と 泌	20 卷 6 号	昭 33
841.	尋常乾癬にたいする Psoriasis vaccine の使用経験 (植松一男)	皮 と 泌	20 卷 7 号	昭 33
842.	テトラサイクリン・メタ燐酸塩 (グリサイ-TX) による急性淋疾, 軟下疳の治療 (占部治邦・矢野 豊)	医 人	7 卷 6 号	昭 33
843.	坑内足部皮膚炎の発生に関する研究 (大島恒雄)	医 研 究	28 卷 12 号	昭 33
844.	皮膚科領域におけるオイナルの使用経験 (皆見紀久男・中野 進・劉 宗輝)	皮 と 泌	20 卷 7 号	昭 33
845.	ハイスタミンによる 2, 3 皮膚疾患の治療 (植松一男)	臨牀と研究	35 卷 12 号	昭 33
846.	皮膚科領域におけるグリチロン酸錠内服療法の治験 (皆見紀久男・井上浩一)	皮 と 泌	20 卷 7 号	昭 33
847.	レスタミン A 軟膏の使用経験 (吉田守男)	臨 牀 皮 泌	13 卷 1 号	昭 34
848.	陰カンジダ症, とくにその発生機転に関する研究 (久保田利秋)	医 研 究	29 卷 2 号	昭 34
849.	2, 3 の皮膚疾患に対するピストリン注射液の治療 (西尾一方・芳野 隆)	新薬と臨床	8 卷 1 号	昭 34
850.	Candida 属の薬剤耐性に関する実験的研究 (松田訓行)	温 研 報	11 卷 1 号	昭 34
851.	アトピー皮膚炎について (占部治邦・植松一男)	皮 膚 臨 牀	1 卷 1 号	昭 34
852.	皮膚疾患におけるニコチン酸の治療 (坪井 尚・利谷昭治・岩井達士・天野高彰)	皮 と 泌	21 卷 1 号	昭 34
853.	ベルファーゲン H の 2, 3 皮膚疾患に対する治療 (井上浩一・久保田利秋)	皮 と 泌	21 卷 1 号	昭 34
854.	皮膚科領域におけるパント錠の使用経験 (坪井 尚・中野 進)	臨 牀 皮 泌	13 卷 3 号	昭 34
855.	尋常瘡癩におけるジオール錠の使用経験 (利谷昭治)	臨 牀 皮 泌	13 卷 4 号	昭 34
856.	化膿性皮膚疾患に対するステロザン軟膏の治験 (徳永博己・五島応安)	臨 牀 皮 泌	13 卷 4 号	昭 34
857.	皮膚真菌症に対するトリコクリームおよび ローションの治療 (坪井 尚・植松一男)	皮 と 泌	21 卷 2 号	昭 34
858.	皮膚科領域における Azunol 軟膏の臨床治験 (皆見紀久男・江口昭二)	皮 と 泌	21 卷 2 号	昭 34
859.	シノミン (MS53) による化膿性皮膚疾患および 性病の治療 (植松一男・矢野 豊・天野高彰)	皮 と 泌	21 卷 2 号	昭 34
860.	セファランチンによる円形脱毛症の治療 (植松一男・吉田守男)	皮 と 泌	21 卷 2 号	昭 34
861.	皮膚ブレーニング法 (皆見紀久男・中野 進・吉田守男)	皮 と 泌	21 卷 1 号	昭 34
862.	C および CS 軟膏の使用経験 (坪井 尚・中野 進)	臨 牀 皮 泌	13 卷 2 号	昭 34
863.	「はたけ」の診断と治療 (坪井 尚・中野 進)	臨 牀 皮 膚	1 卷 6 号	昭 34
864.	抗白癬剤の併用療法にかんする研究 (井上浩一)	医 研 究	29 卷 7 号	昭 34

865.	エマ軟膏の治療(利谷昭治・吉田守男・御厨正夫)	皮 と 泌	21 卷 3 号	昭 34
866.	副腎皮質ホルモン療法の後療法の検討 (占部治邦・坪井 尚・利谷昭治・中野 進)	皮 と 泌	21 卷 4 号	昭 34
867.	円柱腫(坪井 尚・中野 進)	皮 と 泌	21 卷 4 号	昭 34
868.	皮膚科領域におけるオロトンサンの使用経験(中野 進)	皮 と 泌	21 卷 4 号	昭 34
869.	結節性紅斑の治療とその諸問題について (占部治邦・植松一男)	皮膚臨床	1 卷 10 号	昭 34
870.	リール黒皮症(皆見紀久男・中野 進)	臨床皮泌	13 卷 10 号	昭 34
871.	オルガドロンによる皮膚疾患の治療 (利谷昭治・中野 進・植松一男)	合成副腎皮質ホルモン剤 オルガドロン文献集(三共)		1959
872.	ケナコルトA軟膏による皮膚疾患の治療 (植松一男・時校正昭)	治療薬報	5 7 9 号	昭 34
873.	スルキンソンによる化膿性皮膚疾患の治療 (植松一男・吉住正子)	臨床皮泌	13 卷 12 号	昭 34
874.	病原糸状菌の電子顕微鏡学的観察(占部治邦・中野 進)	日皮会誌	69 卷 11 号	昭 34
875.	学童の皮膚病の変遷(占部治邦・徳永博己・植松一男)	皮 と 泌	21 卷 5 号	昭 34
876.	メタゾロンの皮膚疾患にたいする治験 (坪井 尚・利谷昭治・中野 進)	皮 と 泌	21 卷 5 号	昭 34
877.	真菌検査法(占部治邦)	臨床と研究	36 卷 3 号	昭 34
878.	九大ワッセルマン血清反応試験室における梅毒血清反応 (占部治邦・皆見紀久男・森田耕作)	臨床と研究	36 卷 3 号	昭 34
879.	皮膚科領域におけるアレルギー検査法 (皆見紀久男・中野 進)	臨床と研究	36 卷 3 号	昭 34
880.	皮膚科領域におけるデカドロンの使用経験 (坪井 尚・利谷昭治・中野 進)	デカドロン文献集 第1集 (日本メルク万有)		昭 34
881.	Clinical Effect of Variotin on Dermatomycosis (植松一男)	J. Antibiotics, Ser. A, Vol. 12, No. 5, 1959		
882.	Eurax-Hydrocortisone 軟膏による皮膚疾患の治療 (植松一男・吉住正子・岡 幸広)	皮 と 泌	22 卷 3 号	昭 35
883.	超軟レ線 Dermopan 療法について(御厨正夫)	皮 と 泌	22 卷 3 号	昭 35
884.	キャベジンUによる皮膚疾患の治療 (植松一夫・吉住正子)	皮 と 泌	22 卷 3 号	昭 35
885.	Acromegalie をともなう脳回状皮膚 Cutis verticis gyrata の1例(図説)(西尾一方・井上浩一)	皮 と 泌	22 卷 4 号	昭 35
886.	皮膚科領域におけるカナマイシンの試用経験(吉田守男)	皮 と 泌	22 卷 4 号	昭 35
887.	皮膚科領域におけるアイロゾン治験(吉田守男)	皮 と 泌	22 卷 4 号	昭 35
888.	Calcinosis cutis universalis(図説)(西尾一方・原 宜之)	皮 と 泌	22 卷 6 号	昭 35
889.	皮膚科領域におけるパントールの使用経験(中野 進)	新薬と臨床	9 卷 5 号	昭 35
890.	若年者にきた基底細胞癌(図説)(西尾一方)	皮 と 泌	22 卷 1 号	昭 35
891.	伝染性軟腫にかんする研究(野田治雄)	皮 と 泌	22 卷 1, 2 号	昭 35
892.	皮膚真菌症にたいするパールフェイン軟膏の使用経験 (中野 進・御厨正夫)	皮 と 泌	22 卷 2 号	昭 35
893.	肺転移をきたした腺癌の1例(図説)(西尾一方・御厨正夫)	皮 と 泌	22 卷 2 号	昭 35



894.	ウェバー・クリスチャン病の2例(西尾一方・井上浩一)	皮 と 泌	22 卷 3 号	昭 35
895.	皮膚疾患にたいする Brado の治験(西尾一方・吉田守男)	皮 と 泌	22 卷 6 号	昭 35
896.	白癬アレルギーに関する研究(第1篇)白癬症の臨牀的観察(吉住正子)	真 菌 誌	1 卷 1 号	昭 35
897.	DQ 308 感染皮膚疾患に対する治験(吉田守男)	新薬と臨牀	9 卷 2 号	昭 35
898.	皮膚結核にたいするヒドロキサンの治験(占部治邦・徳永博己)	臨牀皮泌	14 卷 2 号	昭 35
899.	バリオチン軟膏による白癬の治療(植松一男・師井庸夫・吉住正子)	J. Antibiotics, Ser. B.	13 卷 5 号	昭 35
900.	皮膚科領域におけるパントールの使用経験(中野 進)	新薬と臨牀	9 卷 5 号	昭 35
901.	チオクト酸による皮膚疾患の治験(坪井 尚・植松一男・吉住正子)	新薬と臨牀	9 卷 7 号	昭 35
902.	バイシリン V <sub>3</sub> 錠による抗療梅毒の治療(占部治邦・吉田守男・高木憲三)	医 人	9 卷 4 号	昭 35
903.	ヒルドイド軟膏の使用経験(皆見紀久男・中野 進・右田隆二)	診 療	13 卷 10 号	昭 35
904.	皮膚疾患に対する Zem A 軟膏の治験(植松一男・吉住正子)	新薬と臨牀	10 卷 1 号	昭 36
905.	紅色肥厚症(図説)(西尾一方・村本修敬)	皮 と 泌	23 卷 1 号	昭 36
906.	梅毒血清反応の人工的動揺について(1, 2報)(吉田守男)	皮 と 泌	23 卷 1 号	昭 36
907.	アドクノンバスタによる皮膚疾患の治療(植松一男・吉住正子・村本修敬)	皮 と 泌	23 卷 1 号	昭 36
908.	シーズン錠による尋常瘡癩の治療経験(西尾一方・吉住正子)	ホ と 臨 牀	9 卷 2 号	昭 36
909.	爪白癬の治療(坪井 尚・植松一男)	皮 膚 臨 牀	3 卷 3 号	昭 36
910.	Morphoea 症例(図説)(西尾一方・御厨正夫)	皮 と 泌	23 卷 2 号	昭 36
911.	植毛術にかんする研究(第1報)(岡 幸広)	皮 と 泌	23 卷 2 号	昭 36
912.	皮膚科領域におけるハイスタミンRの使用経験(中野 進・御厨正夫)	皮 と 泌	23 卷 2 号	昭 36
913.	強力ボボによる皮膚真菌症の治療(植松一男・吉住正子)	皮 と 泌	23 卷 2 号	昭 36
914.	リブロン・ローションの使用経験, とくに色素異常性皮膚疾患について(井上浩一)	皮 と 泌	23 卷 2 号	昭 36
915.	コンドロンによる脱毛症の治療(岡 幸広・幸田 弘)	臨牀皮泌	15 卷 4 号	昭 36
916.	脱毛症の治療(西尾一方)	形 成 外 科	4 卷 2 号	昭 36
917.	Haemangioma verrucosum(図説)(西尾一方・五島応安)	皮 と 泌	23 卷 3 号	昭 36
918.	シノミン軟膏の使用経験(師井庸夫・松村武正)	皮 と 泌	23 卷 3 号	昭 36
919.	カンジダ分離培地「水野・高田培地」について(西尾一方・植松一男・吉住正子)	皮 と 泌	23 卷 3 号	昭 36
920.	癢痒性皮膚疾患にたいするボララミン複合錠の効果(江口昭二・幸田 弘)	皮 と 泌	23 卷 3 号	昭 36

921.	ペリアクチンによる皮膚疾患の治験 (村本修敬)	皮 と 泌	23 卷 3 号	昭 36
922.	ビアン (Bien) による尋常瘡癩の治療 (植松一男・吉住正子)	新薬と臨牀	10 卷 8 号	昭 36
923.	Oral Treatment of Syphilis with Achromycin (占部治邦・岩崎 博・原 恒彦)	Asian Med. J. Vol. 4, No. 7, 1961		
924.	Erythrodermie congenitale ichthyosiforme (図説) (西尾一方・御厨正夫)	皮 と 泌	23 卷 4 号	昭 36
925.	バリダ反応について (皆見紀久男・中野 進・吉田守男)	皮 と 泌	23 卷 4 号	昭 36
926.	あせも、とびひの治療について (皆見紀久男・中野 進)	臨牀と研究	38 卷 9 号	昭 36
927.	Eksalb による皮膚疾患の治療 (五島応安・矢幡 敬)	治 療	14 卷 11 号	昭 36
928.	ビタミンU軟膏による皮膚疾患の治療 (植松一男・吉住正子)	臨牀皮泌	15 卷 10 号	昭 36
929.	皮膚疾患の副腎皮質ホルモン療法の長期観察 (西尾一方・中野 進・岡 幸広・矢幡 敬)	臨牀皮泌	15 卷 10 号	昭 36
930.	Dermatofibrom (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	23 卷 5 号	昭 36
931.	強化麻酔による中耳根治手術後に生じた脱毛症 (皆見紀久男・師井庸夫・曾田豊二)	皮 と 泌	23 卷 5 号	昭 36
932.	R S 1401 A T (フルコート・クリーム) の治験 (吉田守男・幸田 弘・江口広久)	皮 と 泌	23 卷 5 号	昭 36
933.	複合ハーピタ顆粒による小児湿疹の治験 (師井庸夫・原 宜之)	皮 と 泌	23 卷 5 号	昭 36
934.	ジメトキシフェニールペニシリン・アレルギーの 1 例 (五島応安)	J. Antibiotics, Ser. B. 14 卷 4 号		昭 36
935.	エスピー・ゲルンによる白癬の治療(植松一男・岡 幸弘)	エスピー製薬 別 刷		昭 36
936.	オクソラレンによる尋常性白癬の治療 (吉住正子)	大塚製薬 別 刷		昭 36
937.	水虫の治療法 (皆見紀久男・植松一男)	臨牀と研究	38 卷 8 号	昭 36
938.	Pachydermatocele (図説) (西尾一方・村本修敬)	皮 と 泌	23 卷 6 号	昭 36
939.	複合ハーピタによる脱毛症の治験 (師井庸夫・原 宜之)	皮 と 泌	23 卷 6 号	昭 36
940.	超軟レ線 Dermopan 療法に関する実験的研究(御厨正夫)	皮 と 泌	23 卷 5 号	昭 36
941.	皮膚疾患にたいするタカリールの効果 (吉田守男・幸田 弘)	新薬と臨牀	11 卷 1 号	昭 37
942.	Vaccina generalisata (図説) (西尾一方・幸田 弘)	皮 と 泌	24 卷 1 号	昭 37
943.	蕁麻疹患者の統計的観察 (松村武正・岡 幸弘・吉住正子・村本修敬・富川 博)	皮 と 泌	24 卷 1 号	昭 37
944.	脱毛症治療の実際 (皆見紀久男・師井庸夫)	臨牀と研究	39 卷 3 号	昭 37
945.	梅毒血清反応の検討 (皆見紀久男)	福岡医誌	37 卷 4 号	昭 37
946.	白癬アレルギーに関する研究 (第 2 篇) (吉住正子)	真 菌 誌	2 卷 4 号	昭 37
947.	Melanomalignom (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	24 卷 2 号	昭 37
948.	アレルギーン・エキスによる皮内反応 (第 1, 2 報) (松村武正)	皮 と 泌	24 卷 2 号	昭 37
949.	梅毒血清反応の人工的動揺について (第 3 報) (吉田守男)	皮 と 泌	24 卷 2 号	昭 37

950.	Chymar 軟膏の治験 (皆見紀久男・御厨正夫)	皮 と 泌	24 卷 2 号	昭 37
951.	プロピオン酸エリスロマイシンラウリル硫酸塩の 皮膚化膿性疾患に対する効果 (五島応安・佐藤克彦)	皮 と 泌	24 卷 2 号	昭 37
952.	ヴェリダーム・メドロールによる皮膚疾患の治療 (植松一男)	新薬と臨牀	11 卷 7 号	昭 37
953.	Reticulosarcoma cutis (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	24 卷 3 号	昭 37
954.	昭和 30 年から 35 年までの梅毒血清反応の統計的観察 (皆見紀久男)	皮 と 泌	24 卷 3 号	昭 37
955.	植毛術にかんする研究 (第 2 報) (岡 幸弘)	皮 と 泌	24 卷 3 号	昭 37
956.	異 物 沈 着 (西尾一方)	皮膚臨牀	4 卷 6 号	昭 37
957.	顔面黒色症について (皆見紀久男ほか)	皮膚臨牀	4 卷 6, 7 号	昭 37
958.	ゴム腫 (皆見紀久男・吉田守男・幸田 弘)	皮膚臨牀	4 卷 7 号	昭 37
959.	膿皮症および湿疹病巣における病原ブドウ球菌の研究 (五島応安)	臨牀皮泌	16 卷 8 号	昭 37
960.	皮膚科領域における Betamethasone の使用経験 (原 宣之)	臨牀と研究	39 卷 8 号	昭 37
961.	多発性皮膚平滑筋腫 (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	24 卷 4 号	昭 37
962.	Necrobiosis lipoidica について (西尾一方・矢幡 敬)	皮 と 泌	24 卷 4 号	昭 37
963.	キモトリブシン軟膏およびキモトリブシン注による治験 (皆見紀久男・御厨正夫)	皮 と 泌	24 卷 4 号	昭 37
964.	4-Methoxy-6-Sulfanilamido-Pyrimidine(ダイメトン) の皮膚化膿性疾患にたいする効果について (五島応安・岡 幸弘)	皮 と 泌	24 卷 4 号	昭 37
965.	境界線コスモパンの皮膚科的応用 (皆見紀久男・御厨正夫)	皮 と 泌	24 卷 4 号	昭 37
966.	尋常瘡癩にたいするビクラザルベの治験 (西尾一方)	皮 と 泌	24 卷 4 号	昭 37
967.	微粒子グリセオフルビンについて グリセオフルビン FR錠 (植松一男・矢幡 敬)	三共文献集	No. 1, 1960	
968.	2, 3 皮膚疾患に対するケナコルト A スプレーの使用経験 (井上浩一)	治療薬報	6 1 6 号	昭 37
969.	Fluorescent Treponemal Antibody (FTA) Test に関する研究 (第 1 報) (幸田 弘)	皮 と 泌	24 卷 5 号	昭 37
970.	皮膚疾患ことにアレルギー疾患に対する強力 ミノファーゲン C 20cc の治験 (皆見紀久男・岡 幸弘)	皮 と 泌	24 卷 5 号	昭 37
971.	アンダントール・ゼリーの臨床使用経験 (師井庸夫)	皮 と 泌	24 卷 5 号	昭 37
972.	TPI-test (Treponema Pallidum Immobilization Test) について (吉田守男・幸田 弘・都外川幸雄)	皮 と 泌	24 卷 5 号	昭 37
973.	ブリモジアン錠の 2, 3 の皮膚疾患に対する治験 (矢幡 敬)	日独医報	7 卷 6 号	昭 37
974.	Periarthritis nodosa cutanea benigna (図説) (西尾一方・五島応安)	皮 と 泌	24 卷 6 号	昭 37
975.	グリチロン錠による円形脱毛症の治験 (師井庸夫)	皮膚臨牀	5 卷 1 号	昭 38
976.	Drenison cream, ointment, その他による 皮膚疾患の治験 (植松一男)	新薬と臨牀	12 卷 2 号	昭 38
977.	掌蹠膿疱症について (皆見紀久男)	皮膚臨牀	5 卷 1 号	昭 38

978.	Nevoxantho-endothelioma (図説) (西尾一方・占部慎二)	皮 と 泌	25 卷 1 号	昭 38
979.	アレルギー・エキシによる皮内反応 (第3報)(松村武正)	皮 と 泌	25 卷 1 号	昭 38
980.	Okilon 軟膏による皮膚疾患の治療 (植松一男)	皮 と 泌	25 卷 1 号	昭 38
981.	PRCF テスト (皆見紀久男・幸田 弘・都外川幸雄)	皮 と 泌	25 卷 1 号	昭 38
982.	コレトンの治験 (師井庸夫)	大正製薬	コレトン文献集	昭 38
983.	白癬菌の Acridine orange 染色 (皆見紀久男・植松一男・原 宜之)	臨牀皮泌	17 卷 5 号	昭 38
984.	白癬菌の直接鏡検と Acridine orange 染色法 (植松一男・原 宜之)	真 菌 誌	4 卷 3 号	昭 38
985.	Effect of Naphthiomate-N and Naphthiomate-T on Trichophytosis (植松一男)	Kyushu J. of Med. Sci.	Vol. 14, No. 5, 1963	
986.	Pseudoxanthoma elasticum に併発した Elastosis perforans (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	25 卷 2 号	昭 38
987.	弾力線維性仮性黄色腫に合併したElastosis perforans serpiginosa の1例 (皆見紀久男・原 宜之)	皮 と 泌	25 卷 2 号	昭 38
988.	時計バンド皮膚炎について (原 宜之)	皮 と 泌	25 卷 2 号	昭 38
989.	白癬菌の呼吸に関する研究 (第1, 2篇) (師井庸夫)	皮 と 泌	25 卷 2 号	昭 38
990.	1%グリチルレチン軟膏の使用経験 (師井庸夫)	皮 と 泌	25 卷 2 号	昭 38
991.	尋常白斑にたいするメラジニン外用療法について (岡 幸弘)	皮 と 泌	25 卷 2 号	昭 38
992.	MPO による皮膚真菌症の治療 (植松一男・矢幡 敬)	皮 と 泌	25 卷 2 号	昭 38
993.	抗白癬剤 S Q B 軟膏の治療経験 (師井庸夫・原 宜之)	皮 と 泌	25 卷 2 号	昭 38
994.	Haloprozine 外用による皮膚糸状菌症の治験 (矢幡 敬)	日皮会誌	73 卷 4 号	昭 38
995.	汎発性帯状疱疹 (図説) (西尾一方)	臨牀皮泌	17 卷 6 号	昭 38
996.	指間にみた Bowen 病 (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	25 卷 3 号	昭 38
997.	アレルギー・エキシによる皮内反応 (第4報) (松村武正)	皮 と 泌	25 卷 3 号	昭 38
998.	Clear cell myoepithelioma (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	25 卷 4 号	昭 38
999.	AH 611 (エントラ) 注射液の2, 3皮膚疾患に おける治療成績 (松村武正)	皮 と 泌	25 卷 4 号	昭 38
1000.	皮膚化膿性疾患ならびに尿路感染症にたいする Kanamycin の治験 (五島応安・村本修敬)	Chemotherapy 11, suppl.	(88) 1963	
1001.	ハイビロックス注射液による2, 3皮膚疾患の治験 (五島応安・淵 曠二)	新薬と臨床	12 卷 10 号	昭 38
1002.	顔面に発生した Lichen nitidus (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	25 卷 5 号	昭 38
1003.	グリセオフルビンに関する研究 (植松一男・佐藤克彦・鎌田 理)	皮 と 泌	25 卷 5 号	昭 38
1004.	アレルギー・エキシによる皮内反応 (第5報) (松村武正)	皮 と 泌	25 卷 5 号	昭 38
1005.	セバリン軟膏, チンキによる白癬の治療 (植松一男)	皮 と 泌	25 卷 5 号	昭 38
1006.	ナフチオメート N, T チンキの白癬にたいする効果 (植松一男)	皮 と 泌	25 卷 5 号	昭 38

1007.	ケロイドの治療(師井庸夫・矢幡 敬)	皮 と 泌	25 卷 5 号	昭 38
1008.	Penis tuberculid (図説) (西尾一方)	皮 と 泌	25 卷 6 号	昭 38
1009.	メチアデカルによる皮膚疾患の治療 (植松一男・都外川幸雄・佐藤克彦)	新薬と臨床	12 卷 13 号	昭 38
1010.	プリモボランおよびプリモボラン・デボールの 皮膚科領域における治験(皆見紀久男・都外川幸雄)	日独医報	9 卷 2 号	昭 39
1011.	Lymphangioma circumscriptum (図説) (西尾一方・佐藤克彦)	皮 と 泌	26 卷 1 号	昭 39
1012.	諸種消炎剤の実験的浮腫ならびに血管透過性に 及ぼす影響(佐藤克彦)	皮 と 泌	26 卷 1 号	昭 39
1013.	キモブシンバックル錠の皮膚科的使用成績 (皆見紀久男・岡 幸弘)	皮 と 泌	26 卷 1 号	昭 39
1014.	2, 3 皮膚疾患に対するビーゼット(燐酸 ピリドキサール)注射液の治験(五島応安・淵 曠二)	新薬と臨床	13 卷 8 号	昭 39
1015.	皮膚科領域におけるベンテロンの使用経験 (原 宜之・北村公一)	診療と新薬	1 卷 2 号	昭 39
1016.	Carcinoma basocellulare adenoides (図説) (西尾一方・師井庸夫)	皮 と 泌	26 卷 2 号	昭 39
1017.	Pyoderma gangrenosum の 1 例 (矢幡 敬・丸岡和也)	皮 と 泌	26 卷 2 号	昭 39
1018.	乾癬および 2-3 の皮膚疾患にたいする Aristocort diacetate の局注療法(原 宜之)	皮 と 泌	26 卷 2 号	昭 39
1019.	Subcutaneous Fibrosarcoma (図説) (西尾一方・都外川幸雄)	皮 と 泌	25 卷 3 号	昭 39
1020.	全身性エリテマトーデスおよび汎発性鞏皮症にたいする 副腎皮質ホルモン療法の検討 (原 宜之・淵 曠二・小宗義之)	皮 と 泌	26 卷 3 号	昭 39
1021.	ビルスミンのウィルス性皮膚疾患にたいする効果 (皆見紀久男・村本修敬・丸岡和也)	皮 と 泌	26 卷 3 号	昭 39
1022.	皮膚科領域における不飽和脂肪酸 ONLE の使用経験 (原 宜丸・佐藤克彦)	皮 と 泌	26 卷 3 号	昭 39
1023.	ONLE-20 による尋常瘡瘡の治療経験 (原 宜之・佐藤克彦)	皮 と 泌	26 卷 3 号	昭 39
1024.	SLE の抗核因子(クリニカラー)(皆見紀久男)	皮膚臨床	6 卷 11 号	昭 39
1025.	膠原病とくに急性エリテマトーデスにおける抗核因子に ついて(シンポジウム) (皆見紀久男・幸田 弘・都外川幸雄)	福岡医誌	55 卷 2 号	昭 39
1026.	ケロイドの治療(西尾一方)	形成外科	7 卷 2 号	昭 39
1027.	Chalazion (図説)(西尾一方・白水玄明)	皮 と 泌	26 卷 5 号	昭 39
1028.	エリテマトーデスにおける抗核因子 (皆見紀久男・幸田 弘・都外川幸雄)	皮膚臨床	6 卷 11 号	昭 39
1029.	気象と皮膚疾患(中溝慶生・旭 正一)	皮 と 泌	26 卷 2 号	昭 39
1030.	Angioblastoma (図説)(西尾一方・永嶋哲二)	皮 と 泌	26 卷 6 号	昭 39
1031.	家族性良性天疱瘡の 1 家系 (皆見紀久男・幸田 弘・吉住正子・旭 正一)	皮 と 泌	26 卷 6 号	昭 39
1032.	ノカルジア症(いわゆる足菌腫)の 1 例 (西尾一方・吉住正子・佐藤克彦)	皮 と 泌	26 卷 6 号	昭 39

1033.	ONVC-1 (シービーエム) 注射液の皮膚疾患への使用経験 (吉住正子)	皮 と 泌	26 卷 6 号	昭 39
1034.	早期顕症梅毒に対するエリスロシンの使用経験 (皆見紀久男・都外川幸雄・幸田 弘)	皮 と 泌	26 卷 6 号	昭 39
1035.	淋菌における蛍光抗体法 (皆見紀久男・幸田 弘・右田隆二)	皮 と 泌	26 卷 6 号	昭 39
1036.	皮膚疾患にたいするヒルクリーム剤の治験 (皆見紀久男・淵 曠二)	新薬と臨床	14 卷 4 号	昭 40
1037.	Granuloma pyogenicum (図説) (西尾一方・伊豆統一郎)	皮 と 泌	27 卷 1, 2 号	昭 40
1038.	マトロマイシン T, シグママイシンによる早期梅毒の治療 (皆見紀久男・都外川幸雄・幸田 弘)	皮 と 泌	27 卷 1, 2 号	昭 40
1039.	M.P.O 軟膏による白癬の治療 (矢橋 敬・北村公一)	皮 と 泌	27 卷 1, 2 号	昭 40
1040.	皮膚科領域における Lincomycin の検討 (五島応安・村本修敬)	J. Antibiotics, Ser. B. 18 卷 2 号		昭 40
1041.	新鮮梅毒の年令層ならびに性別について (幸田 弘)	臨床と研究	42 卷 5 号	昭 40
1042.	皮膚科領域における蛋白同化ステロイドと副腎皮質ホルモンとの併用療法の治験 (中溝慶生・吉永博幸)	臨床皮泌	19 卷 6 号	昭 40
1043.	副腎皮質ホルモン内用薬ベトネゾールの使用経験 (原 宜之・丸岡和也・福永武志)	新薬と臨床	14 卷 6 号	昭 40
1044.	副腎皮質ホルモン外用剤ベトネゾールの使用経験 (原 宜之・丸岡和也・福永武志)	新薬と臨床	14 卷 6 号	昭 40
1045.	良性非母斑性黒色上皮腫 (図説) (西尾一方・分山宏道)	皮 と 泌	27 卷 3 号	昭 40
1046.	乳房のベージェット病の一例 (西尾一方・都外川幸雄)	皮 と 泌	27 卷 3 号	昭 40
1047.	代謝性綜合ホルモン剤メサルモン錠の治験 (原 宜之・丸岡和也・福永武志)	皮 と 泌	27 卷 3 号	昭 40
1048.	Homochlorcyclizine による皮膚疾患の治験 (村本修敬)	皮 と 泌	27 卷 3 号	昭 40
1049.	顕症梅毒にたいするスピラマイシンの効果 (皆見紀久男・都外川幸雄・幸田 弘)	皮 と 泌	27 卷 3 号	昭 40
1050.	副腎皮質ホルモン外用剤 Flumethasone (Locorton) 軟膏の使用経験 (原 宜之・丸岡和也・福永武志)	皮 と 泌	27 卷 3 号	昭 40
1051.	多形滲出性紅斑における気象, 皮内反応その他の関連について (中溝慶生・吉永博幸)	皮 と 泌	27 卷 3 号	昭 40
1052.	グリコートン軟膏の使用経験 (原 宜之・小宗義之・福永武志)	皮 と 泌	27 卷 3 号	昭 40
1053.	Multiple superficial basal cell epithelioma (図説) (西尾一方・中島権一)	皮 と 泌	27 卷 4 号	昭 40
1054.	アレルギー性細動脈炎の 2 例 (江口昭二・幸田 弘)	皮 と 泌	27 卷 4 号	昭 40
1055.	蕁麻疹治療の二試案 (松村武正)	皮 と 泌	27 卷 4 号	昭 40
1056.	ポララミン (Polaramine) クリーム剤の使用経験 (原 宜之・松村武正・佐藤克彦)	皮 と 泌	27 卷 4 号	昭 40
1057.	抗ヒスタミン系トランキライザー Atarax の使用経験 (原 宜之・佐藤克彦)	皮 と 泌	27 卷 4 号	昭 40
1058.	皮膚科領域における DF. 72 (Pantethine) の使用経験 (原 宜之・小宗義之)	皮 と 泌	27 卷 4 号	昭 40

1059.	抗白癬外用剤ウンデシン酸ヨードの使用経験 (原 宜之・北村公一・福永武志)	皮 と 泌	27 卷 4 号	昭 40
1060.	生毛部深在白癬(図説)(原 宜之・北村公一)	皮 と 泌	27 卷 5 号	昭 40
1061.	新薬剤 Estergel について (原 宜之・都外川幸雄・小宗義之)	皮 と 泌	27 卷 5 号	昭 40
1062.	Effect of the Thymectomy on experimental virus infections of mice. I. Herpes simplex virus and coxsackie B <sub>2</sub> virus (田崎高伸・森 良一)	Proc. of Japan Academy. Vol. 41, No. 10.	1965	
1063.	Toxic epidermal necrolysis (図説)(原 宜之)	皮 と 泌	22 卷 1 号	昭 41
1064.	皮膚疾患に対するレミダームの使用経験(中垣謙一)	新薬と臨牀	15 卷 4 号	昭 41
1065.	セlestammin の治療経験(矢幡 敬・中垣謙一)	皮 と 泌	28 卷 2 号	昭 41
1066.	副腎皮質ホルモン外用剤 Flucortolone (Ultralan) 軟膏の使用経験(原 宜之・北村公一・小宗義之)	日独医報	11 卷 1 号	昭 41
1067.	合成 Cephalosporin C の皮膚科領域における検討 (五島応安・都外川幸雄・村本修敬)	臨牀皮泌	20 卷 6 号	昭 41
1068.	増殖性天疱瘡(図説)(西尾一方・北村公一)	皮 と 泌	28 卷 3 号	昭 41
1069.	グリセオフルビンの局所皮内注射療法 (矢幡 敬・北村公一)	皮 と 泌	28 卷 3 号	昭 41
1070.	混合アレルギー・エキスによる皮内反応(松村武正)	アレルギー	15 卷 6 号	昭 41
1071.	抗真菌剤フェニール・11・ヨード・ウンデシンノエートおよびその複合剤の生毛部白癬に対する効果 (原 宜之・北村公一・丸岡和也)	臨牀皮泌	20 卷 8 号	昭 41
1072.	レントゲン潰瘍の悪性変化(図説) (西尾一方・田崎高伸)	皮 と 泌	28 卷 4 号	昭 41
1073.	Sporotrichum Schenckii における蛍光抗体法の実験的研究(吉住正子)	皮 と 泌	28 卷 4 号	昭 41
1074.	副腎皮質ステロイド外用剤 F. I. 6341 軟膏の効果 (原 宜之・北村公一)	皮 と 泌	28 卷 3 号	昭 41
1075.	ケロイドに対するデキストラン硫酸剤の局注療法 (北村公一)	診 と 療	3 卷 9 号	昭 41
1076.	わが教室における60年間の梅毒の統計 (都外川幸雄・幸田 弘)	皮 と 泌	28 卷 5 号	昭 41
1077.	Fluorescent Treponemal Antibody (FTA) Test に関する研究(第2報)(幸田 弘)	皮 と 泌	28 卷 5 号	昭 41
1078.	2, 3 脱毛症に対する0.05%セフェランチン外用液の治療経験(丸岡和也・小宗義之)	臨牀と研究	43 卷 12 号	昭 41
1079.	ビタミン B <sub>2</sub> 酪酸エステルの皮膚科領域における治験 (五島応安)	臨牀皮泌	20 卷 13 号	昭 41
1080.	トリブシン-抗トリブシン抗体系の免疫学的分析 (旭 正一)	アレルギー	15 卷 4 号	昭 41
1081.	2, 3 皮膚疾患に対するピロミジン錠 (ピリドキサール燐酸エステル製剤)の使用経験 (丸岡和也・小宗義之)	診 と 薬	3 卷 3 号	昭 41
1082.	皮膚病と温泉治療(利谷昭治)	臨 皮	21 卷 2 号	昭 42
1083.	2, 3 皮膚疾患に対する E170-001 (Coenzyme B <sub>12</sub> ) の使用経験(北村公一・安田 勝)	診 療	20 卷 3 月 臨時増刊号	昭 42

1084.	正常家兎の皮膚反応におよぼす NAPP の影響 (原 宜之・丸岡和也・安田 勝)	診 療	20 卷 6 号	昭 42
1085.	皮膚科領域におけるビタメジンの使用経験 (五島応安・村本修敬・田崎高伸・末永義則)	臨牀と研究	44 卷 6 号	昭 42
1086.	Male Pattern Baldness (原 宜之)	ホ と 臨 床	15 卷 9 号	昭 42
1087.	頸部軟骨母斑 (図説) (原 宜之・北村公一)	皮 と 泌	29 卷 1 号	昭 42
1088.	螢光抗体法および組織培養法による単純疱疹 ウィルスの検出 (田崎高伸・森 良一)	皮 と 泌	29 卷 1 号	昭 42
1089.	Actinomycosis Cutis (図説) (原 宜之・後藤宏一郎)	皮 と 泌	29 卷 3 号	昭 42
1090.	疣状白癬を合併せる Hauser-Rothman 型カンジダ 性肉芽腫 (Candida Granuloma) (原 宜之・北村公一・小宗義之)	皮 と 泌	29 卷 3 号	昭 42
1091.	九大皮膚科60年間の真菌症の統計 (矢幡 敬・北村公一)	皮 と 泌	29 卷 3 号	昭 42
1092.	FK-610軟膏 (ピロニールニトリン製剤) の白癬に対する治療効果 (矢幡 敬)	皮 と 泌	29 卷 3 号	昭 42
1093.	九大皮膚科教室における60年間の角化症の統計的観察 (原 宜之・丸岡和也・小宗義之)	皮 と 泌	29 卷 5 号	昭 42
1094.	ダンパD軟膏・液による皮膚白癬の治験 (矢幡 敬)	皮 と 泌	29 卷 5 号	昭 42
1095.	汎発性膿疱性乾癬について (利谷昭治・吉住正子)	皮 と 泌	29卷増刊号	昭 42
1096.	細胞浸潤の様式 (西尾一方)	皮 と 泌	29卷増刊号	昭 42
1097.	福岡県における癩の現状 (五島応安・宮原 力)	皮 と 泌	29卷増刊号	昭 42
1098.	皮膚感作抗体について (旭 正一)	皮 と 泌	29卷増刊号	昭 42
1099.	九州大学皮膚科教室における開講以来60年間の 脱毛症患者の統計的観察 (矢幡 敬・北村公一)	皮 と 泌	29卷増刊号	昭 42
1100.	代謝障害性疾患の統計的観察 (占部慎二・都外川幸雄)	皮 と 泌	29卷増刊号	昭 42
1101.	真菌研究に関する螢光顕微鏡法の応用 (原 宜之)	医 研 究	37 卷 4 号	昭 42
1102.	各種皮膚疾患に対するピロミジンの使用経験 (利谷昭治・矢幡 敬)	皮 と 泌	29 卷 6 号	昭 42
1103.	Depression of Acquired Resistance against Herpes simplex virus infection in neonatally Thymectomized Mice (田崎高伸・森 良一)	Arch. für die gesamte Virusforschung Bd. 21, H. 3-4, 1967		
1104.	皮膚悪性腫瘍に対する 5-Fluorourasil の治療成績 (五島応安・村本修敬・中垣謙一)	癌 の 臨 床	13 卷 11 号	昭 43
1105.	植皮と植毛術 (矢幡 敬)	皮床と研究	45 卷 2 号	昭 43
1106.	Naevus epitheliomatosus sebaceus capitis Wolters (図説) (西尾一方・幸田 弘)	皮 と 泌	30 卷 1 号	昭 43
1107.	九大皮膚科60年間の動物寄生性疾患の統計的観察 (矢幡 敬・北村公一)	皮 と 泌	30 卷 1 号	昭 43
1108.	新ポリック液および軟膏の臨床治験 (矢幡 敬・北村公一・安田 勝)	皮 と 泌	30 卷 1 号	昭 43
1109.	Celestamine Sustained Release Capsules の臨床 治験 (矢幡 敬・中垣謙一)	皮 と 泌	30 卷 1 号	昭 43
1110.	病原ブドウ球菌と皮膚疾患 (五島応安)	Scope	7 卷 4 号	昭 43
1111.	尋常痤瘡におけるリブロン・アクネの臨床使用経験 (利谷昭治・矢幡 敬・北村公一・旭 正一)	皮 と 泌	30 卷 2 号	昭 43



1112.	外用止痒剤 K-APL の使用経験 (吉永博幸)	皮 と 泌	30 卷 3 号	昭 43
1113.	Kanamycin による淋疾の治療 (村本修敬・都外川幸雄・熊沢浄一・日高正昭)	新薬と臨床	17 卷 10 号	昭 43
1114.	ボララミンクリーム 0.75% の使用経験 (北村公一・安田 勝)	皮 と 泌	30 卷 4 号	昭 43
1115.	爪スコブラリオブシス症の 1 例 (北村公一・安田 勝・末永義則)	皮 と 泌	30 卷 5 号	昭 43
1116.	九大皮膚科教室における 60 年間の水疱性疾患の 統計的観察 (中垣謙一・蒲池八重子・高良明子)	皮 と 泌	30 卷 5 号	昭 43
1117.	グリメサゾン軟膏の使用経験 (五島応安・中垣謙一)	皮 と 泌	30 卷 5 号	昭 43
1118.	Trimethylpsoralen (トリソラレン) の尋常白斑に 対する治療成績 (五島応安・都外川幸雄・栗田諒一)	皮 と 泌	30 卷 5 号	昭 43
1119.	痒痒性疾患に対する 8599-RP の使用経験 (中垣謙一)	皮 と 泌	30 卷 5 号	昭 43
1120.	皮膚疾患に対するオバイリンの使用経験 (北村公一・安田 勝)	新薬と臨床	18 卷 2 号	昭 44
1121.	Naevus lipomatosus cutaneus superficialis Hoffman-Zurhelle (図説) (西尾一方・幸田 弘)	西日皮膚	31 卷 1 号	昭 44
1122.	難治性潰瘍にみられた Dysgammaglobulinemia Type I の 1 例 (幸田 弘・三上正夫・旭 正一・合屋長英)	西日皮膚	31 卷 1 号	昭 44
1123.	梅毒の赤血球凝集反応 (TPHA テスト) (都外川幸雄・菊池武英・森田耕作)	西日皮膚	31 卷 1 号	昭 44
1124.	TBK 液の白癬に対する治療 (北村公一・安田 勝・末永義則)	西日皮膚	31 卷 1 号	昭 44
1125.	皮膚科領域における Anginin の検討 (五島応安・山崎 学・野津 徹)	西日皮膚	31 卷 1 号	昭 44
1126.	皮膚真菌症に対するピロエール軟膏の使用経験 (北村公一・安田 勝・末永義則)	診 と 療	6 卷 3 号	昭 44
1127.	Acne Dome Lotion および Cleanser の使用経験 (原 宜之)	新薬と臨床	18 卷 2 号	昭 44
1128.	皮膚科領域におけるトランサミンの使用経験 (山崎 学)	西日皮膚	31 卷 2 号 (トランサ ミン特集号)	昭 44
1129.	皮膚科領域における Doxycycline の実験的ならびに 臨床的検討 (五島応安・村本修敬)	Chemotherapy	17 卷 2 号	昭 44
1130.	抗ヒスタミン剤 HS-592 の使用経験 (末永義則)	西日皮膚	31 卷 2 号	昭 44
1131.	いわゆる脈なし病に合併した壊疽性膿皮症 (山崎 学・安田 勝・野津 徹・安川典宏)	西日皮膚	31 卷 3 号	昭 44
1132.	オイラゾンD軟膏の使用経験 (北村公一・安田 勝・末永義則)	西日皮膚	31 卷 3 号	昭 44
1133.	Lepromatous Leprosy (図説) (吉永博幸・中垣謙一)	西日皮膚	31 卷 4 号	昭 44
1134.	Siccanin の皮膚真菌症に対する治療効果 (末永義則・北村公一)	西日皮膚	31 卷 4 号	昭 44
1135.	フルビスタチン UF 500mg 1日1回投与の経験 (北村公一・安田 勝・末永義則)	西日皮膚	31 卷 4 号	昭 44
1136.	Apocrine Hidrocystoma (図説) (西尾一方・松崎 統)	西日皮膚	31 卷 5 号	昭 44

1137.	九大皮膚科 60 年間湿疹, 皮膚炎群の統計 (吉永博幸・吉住正子・田崎高伸・大曲則之)	西日皮膚	31 卷 5 号	昭 44
1138.	抗ヒスタミン剤 H S 592 シロップの使用経験 (末永義則)	西日皮膚	31 卷 5 号	昭 44
1139.	Pseudopelade Brocq (図説) (西尾一方・篠 力)	西日皮膚	31 卷 6 号	昭 44
1140.	足部白癬の発症に関係する生体側局所因子の研究 (安田 勝)	西日皮膚	31 卷 6 号	昭 44
1141.	皮膚科領域におけるジョサマイシンの検討 (五島応安・村本修敬)	Chemotherapy	17 卷 4 号	昭 44
1142.	梅毒に対するアセチルスピラマイシンの効果 (都外川幸雄・菊池武英)	治 療	51 卷 7 号	昭 44
1143.	油症患者使用ライスオイルならびにカネクロール 400 の鶏における毒性試験 (五島応安)	福岡医誌	60 卷 6 号	昭 44
1144.	皮膚科領域における Cephalexin の検討 (五島応安)	Chemotherapy	17 卷 8 号	昭 44
1145.	皮膚科領域における Aminodeoxy kanamycin の検討 (五島応安・栗田諒一)	Chemotherapy	17 卷 9 号	昭 44
1146.	皮膚疾患に対する Methylcobalamin の使用経験 (北村公一)	臨床と研究	47 卷 2 号	昭 45
1147.	Toxic Epidermal Necrolysis Lyell の 1 例 (松本忠彦)	西日皮膚	32 卷 1 号	昭 45
1148.	Schweninger-Buzzi 型特発性斑状皮膚萎縮症の一例 (金出明子・幸田 弘・隅田松子)	西日皮膚	32 卷 1 号	昭 45
1149.	九大皮膚科 60 年間の皮膚結核症の統計 (都外川幸雄・菊池武英・西尾 武・幸田 弘)	西日皮膚	32 卷 1 号	昭 45
1150.	帯状疱疹に対する Cepharanthin の内服治験 (利谷昭治・石津芳和)	西日皮膚	32 卷 1 号	昭 45
1151.	Warthin's Tumor (図説) (西尾一方・幸田 弘)	西日皮膚	32 卷 3 号	昭 45
1152.	梅毒反応 (都外川幸雄・菊池武英・西尾 武・森田 耕作・福田正博・青木ツタノ)	西日皮膚	32 卷 3 号	昭 45
1153.	マウスにおける単純疱疹の実験的研究 (田崎高伸)	西日皮膚	32 卷 3 号	昭 45
1154.	第 2 期梅毒疹 (図説) (安田 勝)	西日皮膚	32 卷 4 号	昭 45
1155.	皮膚カンジタ症に対する Pimaricin 軟膏の使用経験 (北村公一)	Japan J. of Antibiotics	23 卷 3 号	昭 45
1156.	Ecological Study of Interdigital Athlete's Foot (五島応安)	Jap. J. of Dermat. Ser. B.	Vol. 80, No. 3, 1970	
1157.	面皰母斑の 1 例 (利谷昭治)	西日皮膚	32 卷 5 号	昭 45
1158.	Acanthosis nigricans benigna の家族発症例 (吉永博幸)	西日皮膚	32 卷 5 号	昭 45
1159.	皮膚腫瘍一とくに病理組織を中心として (西尾一方)	医 療	24 卷 11 号	昭 45
1160.	ペラグラによる Transverse leukonychia (安田 勝)	西日皮膚	32 卷 6 号	昭 45
1161.	気象の皮膚感染症に及ぼす影響 (中垣謙一)	西日皮膚	32 卷 6 号	昭 45
1162.	Gas chromatography (ECD-GC) による グリセオフルピンの定量 (末永義則)	西日皮膚	32 卷 6 号	昭 45
1163.	L T-36 (ドレニジンテープ) の臨床成績について (中垣謙一・菊池武英)	西日皮膚	32 卷 6 号	昭 45

- |       |  |      |          |      |
|-------|--|------|----------|------|
| 1164. | Polyodin 軟膏・液の臨床使用経験<br>(松本忠彦・花岡宏和・近藤湘子) | 西日皮膚 | 32 卷 6 号 | 昭 45 |
| 1165. | 星芒状小体がみられた白癬性肉芽腫の 1 例<br>(北村公一・安川典宏)     | 西日皮膚 | 33 卷 1 号 | 昭 46 |
| 1166. | 梅毒に対するピブラマイシンの効果<br>(都外川幸雄・菊池武英・西尾 武)    | 西日皮膚 | 33 卷 1 号 | 昭 46 |

(昭和 46 年 3 月 31 日まで)

## 研究生生活 30 年を顧みて

樋 口 謙 太 郎

昭和9年3月に九大医学部を卒業して皆見教室に入局した。皆見先生から最初に命ぜられた仕事が、外来患者の指間癩爛症よりの菌の培養であった。培養基上に綺麗な真白いコロニーが発育するのにまず眼をみはったものである。当時皮膚鷲口瘡とか皮膚酵母菌症と呼ばれた分芽菌症については、太田、上林、高橋(信)教授らの研究があった。皆見先生の抱かれている疑問は、いわゆる鷲口瘡菌と皮膚病巣からえられる分芽菌とは同一のものであるかどうかの点であった。卒業後間もないのかかわらず先生の命令で、真菌学の権威である東北大学太田教授の指導を受けることになり、同教授の伝研における講習会を終えたあと仙台に赴いた。短期間ではあったが太田先生の警咳に接しえたことは私の誇りの1つである。そんな関係で今もなお私は東北大学皮膚科の同窓会に名を連ねている。その頃分芽菌の分類は Ota-Langeron, ついで Cifferi-Raedelli, その他のそれがあったが、私は私なりに分離した菌についての分類を試みた。今日使用されている Martin-Jones の *Candida* の分類が出たのはそのあとのことである。その後化学療法の発達につれて菌交代現象が内科方面にて指摘され、一躍学界の注目を浴びるに至った。私は仙台から帰って、表在性分芽菌症の臨床的、菌学的研究をまとめ学位論文として提出した。卒業後満3年に満たない期間であったと思う。そのあと後輩の数人の参加をえて真菌学研究グループができ上り、皆見教室、つづいて私の代になっても研究テーマの1つとなり、多数の研究発表がなされた。私の医真菌学研究の中で最も得意とするものの1つに白癬菌の原株の発見がある。釜山府立病院在職中、1獣医の胸部の白癬様病巣より菌を豊富に培養したが、その同定ができずに放置していた。数カ月後たまたま空中菌糸に黒点の発生を認め、鏡検して、それが螺旋状態で飾られた *Perithecium* に一致することを知った。結局子囊菌類の *Gymnoascaceae* に属することが判ったのだが、それに気づくには仙台在住中太田教授の白癬菌の原株についてのセッションを受けていたことが役立った。そのほか「真菌症の化学療法」は日本化学療法学会(昭32)にて、「皮膚真菌症の発症要因について」は日本医真菌学会(昭33)の総会にて宿題報告をした。ただ残念なことは、私の教授就任当初から糸状菌(真菌)研究施設の設置を提案し、概算要求を毎年出しつづけたけれども、ついに実現しなかったことである。

梅毒の研究は、皆見教室の主なテーマであったが、私もそれを引続いた。皆見先生は主として駆梅療法について造詣が深く、先生の強力療法は有名である。私の時代にはペニシリンの出現によって梅毒の治療にも革命がおこった。「抗生物質による梅毒の治療および予防」は昭和28年日本皮膚科学会総会における私の宿題報告であり、これに対し皆見賞の授与を受けた。同時に如何に治療しても血清反応の陰転しないいわゆる抗療梅毒に興味をもち、その本態と対策に精力を注いだ。この際私の血清の癒痕 *Narbe* の表現は無難に受入れられたようである。この努力に対しては西日本文化賞をもって表彰された。

はなしは前後するが、私の最初の赴任は別府の九大温泉治療学研究所の医員になったことで、短期間ではあったが温泉治療に興味を持ち、いわゆる *Bäder-dermatitis* のレポートを書いた。そんなことがきっかけで、九大教授就任後日本温泉気候学会にて「皮膚病の温泉療法」(昭30)の宿題報告を課せられる破目になった。

戦争中は陸軍教授としてジャカルタ医科大学に勤務した。なまの熱帯皮膚病を眼の前にして心がおど

ったものである。熱帯潰瘍やフランベシアについて、その発生機転、疫学ならびに治療について研究を進めた。さらに癩研究所長をも兼任した関係で、水牛癩、ことに人癩の水牛接種、癩の初感染巣の観察など興味ある仕事ができることは憶い出深いものがある。

昭和32年2月より1年間文部省在外研究員として欧米を廻り見聞を広めたが、とくに皮膚科外来にてアレルギーの皮膚反応をルチーンに実施しているのに感心した。またそれ専門の製薬メーカーをも見学する機会をもった。本邦にても是非ほしいものだと思ったので、帰国後有志とはかり、その実現に努力した。幸いに実を結んで、アレルギー研究会が発足し、本邦向きのアレルギー・テスト液が提供されるに至った。それ以来アレルギー学会との関係が生じた。

化学療法を中心とする近代治療医学と発達には私どもが大学を卒業した時期とほぼ一致して幕をあげた。はじめサルファ剤から、ペニシリン、相次ぐ広域スペクトル抗生物質の出現は治療界に革新をもたらし、感染症のうちにはその姿を消し、少なくともその大部分は病状に変貌を来した。私も臨床家であるので非常に関心を寄せ、新薬がでるたびに皮膚感染症や性病に試用した。難治だった病気が簡単に癒るのを見て驚いたことも事実である。日本化学療法学会の幹部の1人として認められているのもその貢献をかってもらったせいと考える。最後は感染症の域を脱して癌の化学療法にも情熱をもやした。

臨床教授としては、日常の皮膚病の診断、治療に心をくばるのは当然であるが、長い臨床経験の間には興味ある疾患に遭遇したことも多い。たとえばさきあげた熱帯病のほか、リグラ状幼裂頭條虫症、顎口虫症、リーシュマニア症、渦状癬、足菌腫あるいは痘瘡などの感染症ないし寄生性疾患がある。これらの中には韓国や東南アジアにてはじめてみられるものも多い。樋口紅斑というのは私の名が冠せられた唯一のものであり、腸性肢端皮膚炎は本邦における最初の報告である。その他薬剤アレルギー、蕁麻疹、気象と皮膚病、職業病あるいは心身症などについても関心をもった。最後はいわゆる油症が問題となり、最初に患者を診察した関係で、研究班の幹部として、原因、本態、治療に心をくわした。治療方面では脳下垂体移植療法、壮年性脱毛症の手術療法、コスメチックの面ではブレーニング、放射線療法ではデルモバンの利用は本邦で草分けであると思う。また抗ヒスタミン剤、ステロイド、抗プラスミン剤などの一般的に応用される薬剤についてもその試用当初から効果判定と用法についての検討に参加した。

私の名で発表した論文は約450篇、指導論文は約700篇に上る。もちろん数だけではその価値を云々することはできないが、中には得意と思うものもないではない。著書は約15冊、分担執筆は約30冊をあげることができる。私の執筆面で多少特徴があるとすれば、教科書を最も多く書いたことであろう。皮膚科学はもとより、皮膚科学特論、軟膏療法、医真菌学などである。もちろん私個人のものは少なく、西日本地域の皮膚科スタッフの協力になるものがその大部分で、私が企画、編集したものである。

私が関係して学位を取得した研究員は約100名を数える。学位が問題になっている現在ではあるが、一応それらの研究は学界になんらかの貢献をしたものと信ずる。

私が教授就任の際、最初に手がけたことは西日本連合地方会の結成と「皮膚と泌尿」の再刊であった。当時困難な事情下にあった2つのことが会員の援助により発足し、現在もなお発展の一路を辿っていることは嬉しいことである。

学会活動については、5つの総会を開催した。皮膚科学会、化学療法学会、医真菌学会、アレルギー学会および病院管理学会である。私の関係している学会の主なるものは一通り会長の役を務めたことに

なる。その中でアレルギー学会は学園紛争のあほりを喰い、その開催に苦心を払ったし、最後の管理学会は福岡県病院協会長として主宰したものである。国際学会にも数回出席し、また日本における開催にも組織委員として参画した。

私の歩んだ道が多少でも学会の発展に寄与したとするならば、ひとえに教室員の協力の賜であり、この際改めて感謝の意を表す。

長い研究生生活を顧みて、私なりに感じたことを最後に述べると、まず研究には場所を選ばないことをあげたい。若い医師は就職を嫌う。その理由として研究ができないことをあげる。私は卒業後比較的短期間在局したのみで学外に出た。そこで研究室にて試験管をふるのみが研究ではないこと、到るところ研究テーマは豊富に存在することを知った。ことに広い視界の下にていろんな興味ある事例に遭遇しうる。私が東南アジアや欧米を廻ってえた知識と経験は、私の研究にいろんな示唆を与えた。要は研究する意欲があるか否かにかかわる。

次に研究の実績は若い時代にこそ期待が持てることを強調したい。私は好んで「花の30代」という文句を用いるが、過去においても輝かしい仕事は、少なくともその着想については青年の時代になされたものが多い。完成はあるいはその後に遂げられるかも知れないが、貴重な年代を無駄に過されているのを見ると惜しい気持で一杯である。少なくとも私自身もう一度生れ変ることができるとすれば、今度は花の時期を最も有効に費すことと信ずる。

私は昭和9年に卒業しているので、本年はまる37年になる。無為に暮した年もないとはいえないし、語路もよいので、一応研究生生活30年という題にした。

---

 物名索引
 

---

(和文項目と欧文項目におけ  
和文項目は五十音順，欧文  
項目はアルファベット順に  
配列)

## ア, あ

## アイロゾン

一, 皮膚科領域における一治験 887

## アクサゲル

一, 皮膚疾患にたいする一, アクサー・Z の治験 768

## アグラスロチトーゼ

一, ズルフォンアミドとサルバルサン併用による一の  
1例 81

## アドクノンパスタ

一, 一による皮膚疾患の治療 907

## アレルギー

一, 皮膚疾患ことに一疾患に対する強力ミノファージェ  
ンC 20 cc の治験 970

一, 一性細動脈炎の2例 1054

一, 一性皮膚疾患の治療 188

一, 一について 326

## アレルギー検査法 570

一, 皮膚科領域における一 879

## アレルギーン・エキス

一, 一による皮内反応 948, 979, 997, 1004

一, 混合一による皮内反応 1070

## アンダントール・ゼリー

一, 一の臨床使用経験 971

## 悪性腫瘍

一, 皮膚一に対する5-Fluorourasil の治療成績 1104

一, 皮膚科領域における一の化学療法, ことに8-  
Azaguanine の治療効果について 695

## あせも

一, 一, とびひの治療について 926

## イ, い

## イプシロン

一, 皮膚科領域における一の治験 737

## 医学

一, 一と文学との交流 248

## 胃癌

一, 一の皮膚転移例について 766

## 異物沈着 956

## いも類蛋白質

一, 一のアミノ酸組成ならびに2, 3食品の吸収率に  
ついて 800

## 医療制度

一, 一について 240

一, 一のあり方について 414

## 陰茎エリトロプラジ

一, 一について 23

## ウ, う

## ウイルス学

一, 皮膚科領域における一研究の趨勢292

## ウェバー・クリスチャン病

一, 一の2例 894

## ヴェリダーム・メドロール

一, 一による皮膚疾患の治療 952

## ウラヒス瘻

一, 一について 62

## ウルソデゾキシコール酸

一, 皮膚科領域における一の治験 770

## エ, え

## エマ軟膏

一, 一の治験 865

## エマホルム

一, 細菌性, 糜爛性, 潰瘍性皮膚疾患にたいする一の  
治験 804

## エリテマトーデス

一, 皮膚科領域における自己免疫, 一を中心として  
380

一, 全身性一および汎発性鞏皮症にたいする副腎皮質  
ホルモン療法の検討 1020

一, 慢性円板状一とビタミンK 711

一, 一における抗核因子 1028

一, 膠原病とくに急性一における抗核因子について  
1025

一, 諸種 Noxe により影響された慢性円板状一につい  
て 554

一, 一の統計的観察 748

## 栄養失調症

一, 一の皮膚変化 73

## 腋臭症

# 物 名 索 引



## え〜か

- 一、一の治療法について 640
- 円柱腫 867

## オ、お

### オイナール

- 一、皮膚科領域における一の使用経験 844

### オイラゾンD軟膏

- 一、一の使用経験 1132

### オバイリン

- 一、皮膚疾患に対する一の使用経験 1120

### オルガドロン

- 一、一による皮膚疾患の治療 871

### オロトサン

- 一、皮膚科領域における一の使用経験 868

### 欧米

- 一、一の医学ことに皮膚科を視察して 227

### 温泉

- 一、佐賀古湯および熊の川一の調査、とくに湯子について 758

### 温泉調査記

- 一、古湯および熊ノ川一 53
- 一、寒の地獄冷泉、星生温泉、中野一 571
- 一、新湯一 617
- 一、塚原一 757

### 温泉治療

- 一、皮膚病と一 1082

### 温泉療法

- 一、皮膚病の一 201, 225
- 一、皮膚病の一について 128

## カ、か

### カージオライピン

- 一、一抗原による緒方定量法について 601, 615, 624, 633, 638

### カナマイシン

- 一、皮膚科領域における一の試用経験 886
- 一、一の特性とその臨床応用 423

### カルチノフィリン

- 一、皮膚科泌尿器科における一の応用 817

### カロカイン

- 一、新局所麻酔薬一の皮膚科的泌尿器科的応用 710

### カンジダ

- 一、陰内における一検出頻度 777
- 一、疣状白癬を合併せる Hauser-Rothman 型一性肉芽腫 1090

- 一、一とそれによる疾患 172

- 一、マウスにたいする一毒性のコーチゾンによる影響 704

- 一、一分離培地、水野・高田培地について 919

- 一、健康者の一・ワクチンによる皮内反応 694

### カンジダ症

- 一、皮膚一 429

- 一、前立腺剔除後に発生せる口腔および尿路一 728

- 一、陰一、とくにその発生機転に関する研究 848

- 一、一に関する2, 3の問題 721

- 一、皮膚一に対する Pimaricin 軟膏の使用経験 1155

- 一、一について 250

- 一、皮膚科領域における一の統計的観察 219

- 一、白血病に合併した汎発性一の2例 776

### 疥癬

- 一、結核性一ことにその原因虫の接種実験について 473

### 外国医学

- 一、一をみて 242

### 外用薬

- 一、皮膚科領域における2, 3新一の紹介 89

### 学童

- 一、一の皮膚病の変遷 875

### 渦状癬

### 角化異常

- 一、皮膚の角化形成、ことに一について 182

### 角化症

- 一、九大皮膚科教室における60年間の一の統計的観察 1093

### 顎口虫症

- 一、一について 371

### 家兔脳下垂体剔除法

- 一、私案剔除器による一 627

### かゆみ

- 一、虫さされと一 456

### 感染

- 一、院内一 402

### 乾癬

- 一、一および2-3の皮膚疾患にたいする Aristocort diacetate の局注療法 1018

- 一、尋常一にたいする Psoriasis vaccine の使用経験 841

- 一、汎発性膿疱性一について 1085

- 一、フグ中毒に続発した一の1例 611

- 一, 一の種々相 404
- 一, 尋常一の治療, とくにチビオン, コーチゾンの効果について 189
- 乾燥血濁反応
  - 一, 一の追試成績 505
- 感作抗体
  - 一, 皮膚一について 1098
- 癌化学療法
  - 一, 一の展望 439
- 眼瞼弛緩症
  - 一, 本邦における一 575
- 頑癬
  - 一, 筑豊炭田半島人抗夫に蔓延せる一について 55
- 顔面黒色症
  - 一, 一について 957
- 顔面播種状粟粒性狼瘡
  - 一, 一の治療 294
- 顔面偏側萎縮症
  - 一, 本邦における一について 635

## キ, き

- キモトリプシン
  - 一, 一軟膏および一注による治験 963
- キモプシン
  - 一, 一バツカル錠の皮膚科的使用成績 1013
- キャベジンU
  - 一, 一による皮膚疾患の治療 884
- 基底細胞癌
  - 一, 若年者にきた一 890
- 教育
  - 一, 今後の皮膚科の一 453
- 局所療法
  - 一, 皮膚疾患の一 267
  - 一, 一管見 272
- 鞏皮症
  - 一, 本邦における一について 103
  - 一, 膠原病としての一について 268
  - 一, 成形手術をこころみたる一の1例について 771

## ク, く

- グラマイシン軟膏
  - 一, 皮膚科領域における一の治験 728
- グリコトシ軟膏
  - 一, 一の使用経験 1052

## グリセオフルビン

- 一, 皮膚真菌症の治療, 一を中心として 302
- 一, 一治療に関する2, 3の問題について 290
- 一, 一に関する研究 1003
- 一, 内服抗真菌剤一について 288
- 一, 白癬症の療法, とくに一について 299
- 一, 微粒子一について, 一FR錠 967
- 一, 一の局所皮内注射療法 1069
- 一, Gas chromatography による一の定量 1162
- 一, 一療法その後の検討 301

## グリチルレチン軟膏

- 一, 1%一の使用経験 990

## グリチロン酸

- 一, 皮膚科領域における一錠内服療法の治験 846

## グリメサゾン軟膏

- 一, 一の使用経験 1117

## クロロフィリン・ポタシウム

- 一, 皮膚疾患にたいする一の治験 698
- 一, 一の臨床的研究 819, 823

## グロンサン・ブドー糖

- 一, 一注の2, 3皮膚疾患にたいする治験 806

## 駆梅毒

- 一, アイロタイシン, マグナマイシン単独および着鉛併用による一実験 727
- 一, 一の主薬としてサルバルサンとマハルゾールの何れを取るべきか 101

## 駆梅毒療法

- 一, 一最近の趨勢 87

## 黒痣

- 一, 一の治療法 367

## ケ, け

## ケナコルトA

- 一, 2, 3皮膚疾患に対する一スプレーの使用経験 968
- 一, 一軟膏による皮膚疾患の治療 872

## ゲルミナ

- 一, 新ローション基剤一について 685

## ケロイド

- 一, 一に対するデキストラン硫酸剤の局注療法 1075
- 一, 一の治療 1007, 1026

## 螢光抗体法

- 一, 淋菌における一 1035
- 一, 一および組織培養法による単純疱疹ウイルスの検

け〜こ

出 1088

- 一, Sporotrichum schenkii の同定に対する一の研究 379
- 一, Sporotrichum schenkii における一の実験的研究 1073

形成外科

- 一, 一の将来を語る 258
- 一, 欧米における一の動向 247

化粧品

- 一, 一皮膚障碍の治療 308

結核

- 一, 閉塞性腎臓一について 40
- 一, 腎一について 82
- 一, 副睾丸一の小統計 469
- 一, 腎一の統計的観察 485

血清皺模様

- 一, 一について 514, 533, 534, 535, 536, 537, 538

月経疹

- 一, 一ならびに月経前緊張症について 222

健康保険

- 一, 一の研究 1

検査法

- 一, 皮膚科領域における一 556

こ, こ

コーチゾン

- 一, 皮膚疾患にたいする一の治験について 648
- 一, 軟膏療法の進歩とくに一療法について 257

コールドパーマ

- 一, 一障碍について 198, 750

コスモバン

- 一, 境界線一の皮膚科的応用 965

ゴム腫 958

コレトン

- 一, 一の治験 982

コンドロイチン

- 一, 療痕性皮膚疾患にたいする一の治験 784

抗アレルギー剤

- 一, いわゆる一はどう使いこなすか 386

睾丸回転症

- 一, 一の1例 507

強姦

- 一, 一致傷被告事件に関する鑑定例 32

口腔

- 一, 一および口辺の皮膚科的病変について 372

- 一, 皮膚科領域における一病変について 169

格子線維

- 一, 病的皮膚の一 496
- 一, 正常皮膚の一 495
- 一, 皮膚色素異常症の一について 494
- 一, 正常および病的皮膚の一について 91

紅色肥厚症 905

抗生物質

- 一, 皮膚科領域における一ならびに化学療法 165
- 一, 一の功罪 184
- 一, 一選択上の注意事項 2, 3 について 373

酵素療法

- 一, 皮膚科領域における一 325

辜上体

- 一, 一の機能, ことにそのホルモン様作用について 154
- 一, 一の機能に関する研究 629

抗白癬外用剤

- 一, 一ウンデシン酸ヨードの使用経験 1059

抗白癬剤

- 一, 一の併用療法にかんする研究 864
- 一, 一について 335
- 一, 一SQB 軟膏の治療経験 993

紅斑

- 一, 多形滲出性一における気象, 皮内反応その他の関連について 1051
- 一, 遠心性圓状一について 29
- 一, 1種の点状一について 58
- 一, 結節性一の治療とその諸問題について 869
- 一, 抗生物質により誘発されたとと思われる多形滲出性一様発疹の1例 664

紅斑性狼瘡 441

- 一, 急性一の1例, とくに本症と紫斑との関係について 22
- 一, 一の1剖検例 464

紅皮症

- 一, 剥脱性一の1剖検例 636
- 一, 原発性剥脱性一の病理学的考察 492

硬皮症

- 一, 限局性一の潰瘍形成について 114

抗ヒスタミン剤

- 一, 皮膚科領域における一に関する研究 516, 525, 526, 527, 583, 593, 594
- 一, 一について 84

- 一、皮膚科領域における一による治療 111
- 一、一の皮膚疾患に対する応用 482
- 一、一を繞つて 112

#### 黒色表皮腫

- 一、一悪性型の1例 545

#### 骨移植

- 一、一について 254

#### 混合腫瘍

- 一、胎生の腎臓一 44
- 一、腎臓良性一の1例 24

## サ、 さ

#### サルバルサン

- 一、一自家血液溶媒法の再検討 116
- 一、重症一疹について 43
- 一、一の血液凝固阻止作用について 508
- 一、一溶媒としての自家血液の応用について 79

#### サンドペーパー療法 675

#### 最新治療

- 一、皮膚科領域における一 391

#### 再発性女子顔面紅斑 336

#### 細胞浸潤

- 一、一の様式 1096

#### 痤瘡

- 一、尋常一および他の2、3皮膚疾患における肝機能、とくにヘパトサルファレイン試験による検査成績について 540
- 一、尋常一患者における血糖について 541
- 一、尋常一患者の胃液酸度ならびに馬尿酸試験 573
- 一、最近10年間における尋常一患者の治療観察 606
- 一、尋常一患者のトルコ鞍の大きさ 542
- 一、尋常一患者の尿中17ケトステロイド 592
- 一、尋常一患者のホルモン療法ならびにビタミン B<sub>2</sub> 療法の観察 608
- 一、尋常一、とくにその成因と治療について 145
- 一、尋常一ならびに2、3皮膚疾患にたいするチョコラAの治験 625
- 一、尋常一ならびに2、3皮膚疾患にたいするロバールの治験 715
- 一、尋常一におけるジオール錠の使用経験 855
- 一、尋常一におけるリブロン・アクネの臨床使用経験 1112
- 一、尋常一にたいするヴァーナス錠の使用経験 796
- 一、一にたいするシナホリン錠の治験 774
- 一、強力ミノファーゲンCの尋常一にたいする治験

662

- 一、尋常一にたいするピクラザルベの治験 966
- 一、尋常一について 214
- 一、ピアンによる尋常一の治療 922
- 一、シーズン錠による尋常一の治療経験 908
- 一、ONLE-20による尋常一の治療経験 1023
- 一、過去23年間における尋常一の統計的観察 539
- 一、尋常一の皮脂分泌について 582
- 一、尋常一のホルモン療法 218
- 一、化学薬品に起因する職業性一様皮膚症状について 488

## シ、 し

#### シノミン

- 一、一軟膏の使用経験 918
- 一、一による化膿性皮膚疾患および性病の治療 859

#### ジメトキシフェニールペニシリン

- 一、一・アレルギーの1例 934

#### ジョサマイシン

- 一、皮膚科領域における一の検討 1141

#### シンコルタ

- 一、皮膚疾患にたいする一の応用治験 609

#### 色素

- 一、一問題の形態学的、生化学的、内分泌学的検討 211

#### 色素異常症

- 一、先天性対側性一について 26

#### 色素失調症

- 一、一について 131

#### 色素性乾皮症

- 一、本邦における一の統計的観察、とくに血縁関係ならびに遺伝関係について 654
- 一、一の同胞3名にあらわれたる症例とわが教室における統計的観察 562
- 一、一の2家系ならびに本邦報告例の総括 484

#### 色素沈着症

- 一、一にたいする Monobenzylether of Hydroquinone の応用 718

#### 色素母斑

- 一、一ならびに色素沈着症の治療 155

#### 糸状菌

- 一、本邦における病原一性疾患ならびにその病原菌に関する研究の概況 81
- 一、本邦における病原一ならびに該疾患に関する研究の概況 80

## し

- 一、病原性一ならびに一性疾患の概念 54
- 一、病原一の抗菌作用について 555
- 一、病原一の電子顕微鏡学的観察 874
- 一、病原一の電子顕微鏡像 262
- 糸状菌症
  - 一、皮膚一ことに白癬にたいする赤平軟膏の治験 736
  - 一、皮膚一、とくに白癬にたいするマーズニンの治験 686
  - 一、皮膚一にたいする Bis-ethylmercuric sulfide 軟膏の治験 746
  - 一、一の外用療法について 279
  - 一、Haloprozine 外用による皮膚一の治験 994
  - 一、一の治療 259
- 歯槽膿漏
  - 一、一と皮膚疾患 787
- 湿疹 457
  - 一、一、接触皮膚炎の外用療法 317
  - 一、一、とくに小児一の統計的観察 12
  - 一、一とくに小児一の推移 410
  - 一、小児一、とくに乳児一の体質学的研究 619
  - 一、小児一に関する 2, 3 の問題 420
  - 一、皮膚疾患、とくに一にたいするシスカルの治験 820
  - 一、小児一について 122
  - 一、印刷工における職業性一について 613
  - 一、一の管理 298
  - 一、一の局所療法 244
  - 一、小児一のコーチゾン療法 696
  - 一、複合ハーピタ顆粒による小児一の治験 933
  - 一、慢性皮膚疾患、ことに慢性一の治療と管理 393
  - 一、一の統計的観察 7
  - 一、一の予后 408
  - 一、九大皮膚科 60 年間一、皮膚炎群の統計 1137
  - 一、皮膚疾患、ことに一、皮膚炎にたいする Prednisone, Prednisolone の治験 202
  - 一、小児乾燥型一をどう考えるか 324
- 紫斑
  - 一、蕁麻疹性一について 33
- 社会医療制度
  - 一、ドイツの一について 231
- 社会保険
  - 一、軟膏使用量と原価計算による一診療報酬点数 763
- 重複腎
  - 一、一、とくにその合併症について 63
- 腫瘍
  - 一、皮膚一、とくに病理組織を中心として 1159
- 消炎剤
  - 一、諸種一の実験的浮腫ならびに血管透過性に及ぼす影響 1012
- 掌蹠膿疱症
  - 一、一について 977
- 猩紅色菌
  - 一、一に関する研究、とくにその色素形成について 835
- 脂溶性ビタミン
  - 一、皮膚疾患と一 196
- 小児ストロフルス
  - 一、一とミノファージェン C 49
- 酵母菌
  - 一、一性間擦疹について 2
  - 一、一性肛門湿疹 10
  - 一、一性指趾間糜爛症 9
  - 一、色素の一に及ぼす影響 25
  - 一、母子における唾液および糞便中の一について 21
  - 一、健康人糞便中の一について 8
  - 一、消化管内一の意義 45
  - 一、皮膚一のビタミン B<sub>1</sub> 含有量について 66
  - 一、病原性一の動物接種試験 19, 20
- 酵母菌症
  - 一、表在性皮膚一ならびにその病原菌について 18
  - 一、表在性皮膚一について 16, 17
- 症例
  - 一、興味ある 2, 3 の一 612
- 職業性皮膚疾患 310
  - 一、繰糸女工にみられる一 741
- 職業性皮膚病
  - 一、一について 291
- 食餌療法
  - 一、皮膚疾患の一 365
- 植皮
  - 一、ダーマトームによる一術 237
  - 一、一と植毛術 1105
- 植毛術
  - 一、一とくにその臨床的方面 274
  - 一、一にかんする研究 911, 955
  - 一、一について 622, 805
- 女子外陰部萎縮症
  - 一、一、とくにその本態について 646
- 女子顔面黒色症
  - 一、一のその後 489

## 腎盂乳嘴腫

- 一、多発性結石を伴える一の1例 465

## 新型軟膏

- 一、一の基礎的ならびに臨牀的研究 793, 794, 795

## 新肝油

- 一、皮膚科領域における一サシリバーの治験 521

## 真菌

- 一、一研究に関する螢光顕微鏡法の応用 1101
- 一、一検査法 877
- 一、抗一剤フェニール・11・ヨード・ウンデシノエートおよびその複合剤の生毛部白癬に対する効果 1071
- 一、トリコマイシン内服錠の2, 3一性疾患にたいする治験 759
- 一、一染色法に関する研究 826
- 一、Micrurgie の一方面への応用 839
- 一、一を語る 143

## 真菌症

- 一、皮膚一 311
- 一、最近の一研究を中心として 303
- 一、一、ことにスポロトリコジスについて 388
- 一、皮膚一、とくに白癬症の薬物療法 284
- 一、PMH 軟膏の皮膚一にたいする治験 769
- 一、Siccamin の皮膚一に対する治療効果 1134
- 一、皮膚一に対するトリコクリームおよびローションの治療 857
- 一、皮膚一にたいするパールファイン軟膏の使用経験 892
- 一、皮膚一に対するピロエール軟膏の使用経験 1126
- 一、一の化学療法 234
- 一、皮膚一の化学療法について 235
- 一、強力ポボによる皮膚一の治療 913
- 一、皮膚科領域における一の治療 321
- 一、皮膚一の治療 327
- 一、MPO による皮膚一の治療 992
- 一、九大皮膚科60年間の一の統計 1091
- 一、皮膚一の発症病因について 251

## 神経症

- 一、皮膚科領域における一について 159

## 進行性手掌角皮症

- 一、一の治療 406

## 腎臓石

- 一、最近経験せる一症例 467

## 尋常膿瘡

- 一、一について 115

- 一、一の症状ならびに統計追補 517

- 一、一の治療について 531

- 一、一の発生機転について 576

## 尋常狼瘡

- 一、臀部肛囲に発生せる一について 607

## 親水軟膏

- 一、一および2, 3外用薬の試用経験について 529

## 新ポリック液

- 一、一および軟膏の臨床治験 1108

## 蕁麻疹 332, 348, 400, 413, 434

- 一、一患者の統計的観察 943

- 一、腸内細菌ワクチンが一患者の皮内反応ならびに皮膚描画症に及ぼす影響およびその治療効果について 491

- 一、一治療の2試案 1055

- 一、一とアレルギー 401

- 一、一にかんする2, 3の問題 341

- 一、エラミンの一にたいする治験 621

- 一、一の原因と治療 436

- 一、グリーンポールによる一の治療 489

- 一、慢性一の治療 106

- 一、一の治療 358

- 一、アレルギー性慢性一の治療 455

- 一、一の統計的研究と諸テスト所見 329

- 一、慢性一の療法 328

## ス、す

## スキン・テスト

- 一、皮膚疾患の一について 315

## スコプラリオプシス症

- 一、爪一の1例 1115

## ズダバード

- 一、皮膚科領域における一の応用 30

## ステロイド抗ヒ剤

- 一、一の使い分け 293

## ステロザン軟膏

- 一、化膿性皮膚疾患に対する一の治験 856

## スピロヘータ

- 一、恥后中一ならびに紡錘状桿菌の検索 479

- 一、テラマイシンの再帰熱一にたいする作用機序 701

- 一、新しい一の検査法 359

## スルキシシ

- 一、一による化膿性皮膚疾患の治療 873

## 水銀燻蒸療法

- 一、一とその中毒例について 50

## すへた

### 水疱症

- 一、一、とくに天疱瘡類を中心とした欧米における知見 403

### 水疱性疾患

- 一、九大皮膚科教室における60年間の一の統計的観察 1116

## セ, セ

### ゼム軟膏

- 一、一の治験 821

### ゼリア注

- 一、一の皮膚疾患にたいする治験 791

### セレスタミン

- 一、一の治療経験 1065

### ゼレン剤

- 一、一ミカロンの落屑性皮膚疾患にたいする使用経験 742

### 精液腫

- 一、一の2例 468

### 整形手術

- 一、鼻翼欠損にたいする一について 743

### 成形性陰茎硬化症

- 一、一の統計 486

### 精神身体医学

- 一、皮膚科における一 427

### 性病

- 一、抗生物質と一 173
- 一、終戦後4カ年間に於ける一患者の統計的考察 561
- 一、売春防止法全面施行以後の一対策 256
- 一、オレアンドマイシンの一にたいする効果 840
- 一、ジャワにおける皮膚病および一について 68
- 一、欧米における売春と一について 230
- 一、一の化学療法最近の進歩 70
- 一、一の諸問題 224
- 一、一のズルフォンアミド療法晩近の趨勢 52
- 一、諸種抗生物質による一の治療 119
- 一、新しい抗生物質による一の治療 166
- 一、オレアンドマイジンによる一の治療 241
- 一、ペニシリンによる一の治療および予防 107
- 一、わが教室過去25年間の一の統計 678
- 一、バイシリンによる一の予防的効果 679
- 一、抗療性一を中心として 192
- 一、ペニシリンによる一予防に関する実験的研究 641

### 石綿状贅

- 一、一について 572

### 線維素溶解酵素

- 一、皮膚科領域における一の臨床的応用 723
- 一、一に関する研究 802

### 腺癌

- 一、肺転移をきたした一の1例 893

### 先天性軸捻転腎

- 一、一について 65

### 泉浴

- 一、一の皮膚機能におよぼす影響 831

## ソ, ソ

### ソルベース

- 一、水溶性軟膏基剤一について 602

### ソルミノール

- 一、水溶性砒素駆梅毒一の治験 121

### 臓器療法

- 一、一ならびにホルモン療法 148

### 爪削器

- 一、皆見式一について 15

### 宗反応 487

### 癢痒 223, 340

- 一、一性限局性皮膚疾患にたいする局所注射療法、とくにチフォミン、ビタミン B<sub>2</sub> について 674
- 一、一性疾患に対する 8599-RP の使用経験 1119
- 一、一性皮膚疾患にたいする強力ミノファーゲン C の効果 565
- 一、一性皮膚疾患にたいするボララミン複合錠の効果 920
- 一、一ならびに止痒剤について 95
- 一、一の治療について 193

### 癢痒症

- 一、一における心理的因子の意義 706
- 一、一について 287
- 一、肛門一の治療 331

### 足菌腫

- 一、一、ことに本症にたいするガントリジン剤の効果について 124

### 鼠径表皮菌

- 一、一の産生する抗生物質について 827, 828, 829

## タ, タ

### タウリン酸

- 一、皮膚科疾患にたいする一の治験 504

### タカリール

- 一、皮膚疾患にたいする一の効果 941

## タール

- 一、竹乾溜液ならびに竹一の皮膚疾患にたいする治験 74

## ダンパD軟膏

- 一、一・液による皮膚白癬の治験 1094

## 代謝障害性疾患

- 一、一の統計的観察 1100

## 帯状疱疹

- 一、一から湿疹まで 411
- 一、汎発性一 995
- 一、両側性一について 637

## 胎生性軟骨萎縮症

- 一、家族的に発生せる一について 580

## 大動脈弓注射療法

- 一、諸種の皮膚疾患にたいする一について 518

## 胎盤漿

- 一、各種慢性皮膚疾患にたいする一の治験 720

## 第46軟膏

- 一、私案一について 552

## 脱毛

- 一、一の臨床 442

## 脱毛症

- 一、強化麻酔による中耳根治手術後に生じた一 931
- 一、壮年性一の手術療法 233
- 一、九州大学皮膚科教室における開講以来60年間の一患者の統計的観察 1099
- 一、円形一 390
- 一、一治療の実際 944
- 一、一と脳下垂体前葉ホルモン 117
- 一、一とホルモン 191
- 一、壮年性一に関する研究 754
- 一、一にたいする感光色素剤キハノールの治験 519
- 一、強力マニールチンの臨牀的応用、とくに円形一にたいする治験について 634
- 一、2, 3一に対する0.05%セファランチン外用液の治療経験 1078
- 一、複合ハービタによる一の治験 939
- 一、グリチロン錠による円形一の治験 975
- 一、円形一の治療 339
- 一、一の治療 916
- 一、セファランチンによる円形一の治療 860
- 一、コンドロンによる一の治療 915
- 一、脳下垂体移植による一の治療について 397
- 一、一の治療について 118
- 一、最近20年間の円形一の統計 782

- 一、壮年性一の予防および治療法 190
- 一、壮年性一、とくにその治療について 177

## 多発性神経性皮膚壊疽

- 一、一について 146

## 単純疱疹

- 一、マウスにおける一の実験的研究 1153

## 蛋白同化ステロイド

- 一、皮膚科領域における一と副腎皮質ホルモンとの併用療法の治験 1042

## 弾力線維性仮性黄色腫

- 一、一に合併したElastosis perforans serpiginosaの1例 987

## チ、ち

## チェルズース禿瘡

- 一、一について 587

## チオクト酸

- 一、一による皮膚疾患の治験 901

## チスカル

- 一、皮膚疾患にたいする一およびメチカルの治験 667

## チョコラ・ピオB B

- 一、一による皮膚疾患の治療 813

## 中毒疹

- 一、T.B. 1 による一の1例 560

## 治療

- 一、肛門周囲の皮膚疾患の一 286
- 一、最近の一の進歩による疾病の変貌 200

## 治療法

- 一、皮膚科領域における一最近の趨勢 132
- 一、皮膚科学における一の進歩 734

## ツ、つ

## 爪

- 一、一の異常と疾患 424

## テ、て

## デカドロン

- 一、皮膚科領域における一の使用経験 880

## テブロン

- 一、一およびRの皮膚科領域における治験 520

## デルモーゲン

- 一、ツルボエキス製剤一の治療 93
- 一、一チンキの治験 656

## デルモバン

- 一、最近5ヶ年間の一による血管腫、ケロイドの治療



## て〜ね

458

### 低周直角脈波療法

- 一、皮膚疾患にたいする一の応用 811

### 伝染性軟腫

- 一、一にかんする研究 891

### 伝染性皮膚病

- 一、発疹よりみた一 141

### 天疱瘡

- 一、増殖性一 1068
- 一、家族性良性一の1家系 1031

## ト、ト

### ドイツ医学

- 一、一かアメリカ医学か 226

### トランサアミン

- 一、皮膚科領域における一の使用経験 1128

### トリコチロマニー

- 一、一について 28

### トリコフィチン

- 一、一に関する研究 547, 642

### 肘窩下溝

- 一、一について 301

### 凍傷

- 一、一と凍瘡の治療 125

### 凍瘡

- 一、一にたいするニコチン酸製剤の治療効果について 752

### 痘瘡

- 一、昭和26年春福岡県某漁村に発生した一について 581
- 一、ルチノンによる一の治験 551
- 一、一の話 588

### 疱疹状急性膿疱症

- 一、一の1異型について 47

### 頭髪部毛渦

- 一、一の調査、とくに毛渦と性格との関係について 466

### 動物寄生性疾患

- 一、九大皮膚科60年間の一の統計的観察 1107

## ナ、ナ

### 内分泌臓器移植手技

- 一、一について 616

### 内分泌腺移植療法

- 一、冷蔵皮膚と一 126

- 一、主要一に関する研究 557, 578

- 一、諸種一について 109

- 一、再び一について 130

### 内用剤

- 一、皮膚科領域における一の使い方 825

### 長江浮腫

- 一、いわゆる一、とくにその組織像について 59

### 軟下疳

- 一、最近の一、とくにその抗生物質療法について 175
- 一、一に関する研究補遺、一にたいするアイロタイシンの効果 650
- 一、一にたいするアイロタイシンの効果 162
- 一、一にたいする抗生物質の治効に関する実験的および臨床的研究 693
- 一、一の抗生物質療法 157

### 軟膏基剤

- 一、一について 137

### 軟膏療法

- 一、一の新傾向について 113

### 軟レ線

- 一、皮膚一のケロイド、血管腫に対する効果および境界線の皮膚疾患に対する効果 443

### 難治性潰瘍

- 一、一にみられた Dysgammaglobulinemia Type Iの1例 1122

## ニ、ニ

### ニコチン酸

- 一、皮膚疾患における一の治療 852

### 乳児寄生菌性紅斑

- 一、一について 3
- 一、筑豊炭田地方に集団発生せる一について 99
- 一、炭坑地方に多発せる一について 502

### 尿酸

- 一、皮膚疾患における一の消長について 499, 500

### 尿酸代謝

- 一、皮膚疾患における一 88

### 尿路結石

- 一、一、とくに舟状窩結石について 462

## ネ、ね

### ネオドリン軟膏

- 一、皮膚疾患にたいする一の使用経験 702

### ネオレスタミン

- 一、皮膚科領域における一の治験 639

## 熱帯潰瘍

- 一、一に関する研究 72, 471
- 一、下腿潰瘍の治療, ことにガンピル・ヨードを以てせる一の治療について 470

## ノ, の

## ノカルジア症

- 一、一の1例 1032

## 脳回状皮膚

- 一、Acromegalie をともなう一の1例 885

## 脳回転状頭皮

- 一、一について 493

## 膿痂疹

- 一、一の年次的ならびに季節的変動について 503
- 一、一の発生に関する実験的研究 548

## 脳下垂体移植

- 一、一について 98
- 一、一による禿頭の治療 96

## 脳下垂体埋没療法

- 一、一のその後 185

## 膿皮症

- 一、いわゆる脈なし病に合併した壊疽性一 1131
- 一、顔面乳嚢状潰瘍性一について 42
- 一、乳嚢状潰瘍性一の1例 46
- 一、一の諸問題 370
- 一、慢性乳嚢状潰瘍性一の7例 490

## 囊腫腎

- 一、一、とくにその腎盂像について 64

## ハ, は

## ハイスタミン

- 一、一による2, 3皮膚疾患の治療 845

## ハイスタミンR

- 一、皮膚科領域における一の使用経験 912

## ハイドロコチゾン

- 一、皮膚疾患にたいする一の局所的応用 714

## ハイビロックス注射液

- 一、一による2, 3皮膚疾患の治療 1001

## ハゲ

- 一、一の治療 416

## ハービタ

- 一、皮膚疾患にたいする一の治療 783

## バラマイシン軟膏

- 一、一の皮膚科的応用 186

## パリダ反応

- 一、一について 925

## パル

- 一、皮膚科疾患にたいする一の治療効果について 604

## パント錠

- 一、皮膚科領域における一の使用経験 852

## パントテノール含有B群複合注

- 一、皮膚科領域における一の応用 280

## パントテン酸

- 一、一にかんする研究 283, 309

## パントール

- 一、皮膚科領域における一の使用経験 889, 900

## 梅毒

- 一、最近の一 394, 433
- 一、抗療一 210
- 一、一および性病の変貌 199
- 一、一および他の性病 460
- 一、輸血による一感染防止に関する研究追試 501
- 一、一凝集法について 605
- 一、簡易一血液検査法について 498
- 一、一血清診断法の現状、とくに潜伏一の診断について 722
- 一、九大ワッセルマン血清反応試験室における一血清反応 878
- 一、一血清反応におけるカージオライピン抗原について 129
- 一、一血清反応の検討 945
- 一、静動脈血間における一血清反応の差異について 481
- 一、一血清反応の人工的動揺について 906, 949
- 一、過去15年間ににおける一血清反応の統計的観察 781
- 一、昭和30年から35年までの一血清反応の統計的観察 954
- 一、一血清反応を中心とした駆梅療法 354
- 一、一最近の動向 418
- 一、最近みる顕症一 355
- 一、第2期一疹 1154
- 一、稀釈血清加温法による一診断法について 569
- 一、小野氏一著色反応について 61
- 一、一ならびに軟下疳のクロロマイセチン療法 140
- 一、抗療一における臨床検査成績 269
- 一、一に関係あるブク類肉腫およびエリテマトーデスについて 104
- 一、いわゆる抗療一にかんする諸問題 271

は

- 一、早期一に対する2, 3の新しい抗生物質の効果 384
  - 一、抗療一に関する2, 3の問題 663
  - 一、一に対するアセチルスピラマイシンの効果 1142
  - 一、早期顕症一に対するエリスロシンの使用経験 1034
  - 一、抗療一にたいするコンムニンの応用治験 563
  - 一、顕症一にたいするスピラマイシンの効果 1049
  - 一、一に対するピブラマイシンの効果 1166
  - 一、抗療性一について 330
  - 一、老人の一について 334
  - 一、最近の一について 362
  - 一、哺乳による無辜一について 661
  - 一、いわゆる抗療一について 170
  - 一、貧困者の一のある調査 732
  - 一、一の陰蔽感染と新感染の問題 681
  - 一、一の化学療法について 384
  - 一、一の各種抗生物質による耐性獲得に関する実験的研究 762
  - 一、一患者の管理 415
  - 一、補体を基体とした一の血清学的研究 808
  - 一、いわゆる抗療一の研究 304
  - 一、顕症一の現況 383
  - 一、一の抗ペニシリン性獲得と無症状感染に関する実験的研究 643, 685
  - 一、抗療性一の実験的研究 270
  - 一、一の赤血球凝集反応 1123
  - 一、広島県児童福祉施設収容児における先天一の調査ならびに治療成績について 598
  - 一、難治一の治療 356
  - 一、一の治療 349, 430
  - 一、カナマイシンによる一の治療 423
  - 一、アイロタイシンによる一の治療 729
  - 一、アクロマイシンによる一の治療 709
  - 一、バイシリンV<sub>2</sub>錠による抗療一の治療 902
  - 一、マトロマイシンT, シグマイシンによる早期一の治療 1038
  - 一、クロランフェニコールによる一の治療 671, 677, 690
  - 一、テラマイシンによる一の治療 610, 668, 689
  - 一、クロルテトラサイクリンによる一の治療 691, 699
  - 一、抗生物質による一の治療および予防 144
  - 一、顕症一の治療 377, 382
  - 一、いわゆる抗療一の治療成績について 273
  - 一、陳旧性潜伏一の治療ならびに経過について 515
  - 一、いわゆる抗療性一の治療について 265
  - 一、早期顕症一の治療について 387
  - 一、一の治療法 407
  - 一、一の治療をめぐって 158
  - 一、わが教室における60年間の一の統計 1076
  - 一、一の動態 345
  - 一、一の肺結核 127
  - 一、一のペニシリン療法 85
  - 一、一のペニシリン療法, ことにわれわれの治療成績について 105
  - 一、一のペニシリン療法に関する研究 584, 585
  - 一、一のペニシリン療法を繞って 92
  - 一、いわゆる抗療一の本態とその対策について 167
  - 一、一の無症状感染例 687
  - 一、新鮮一の年令層ならびに性別について 1041
  - 一、油性ペニシリンによる輸血一の予防例 680
  - 一、一反応 1055
  - 一、某大学学生の一一反応検査成績にいて 51
  - 一、比較的簡易なる一反応検査法 120
  - 一、2, 3簡易一反応検査法について 102
  - 一、抗生物質による輸血一予防に関する研究 684
  - 一、最近の一を診断する 425
  - 一、最近の一をめぐって 395
- 白癬 816
- 一、生毛部深在一 1060
  - 一、一アレルギーに関する研究 896, 946
  - 一、自衛隊における一およびその再発予防ならびに治療剤の比較について 818
  - 一、欧米における一菌症研究の現状 228
  - 一、工場一, ことに一菌の分離に関する研究 834
  - 一、真菌症ことに一症の治療について 260
  - 一、星芒状小体がみられた一性肉芽腫の1例 1165
  - 一、一治療最近の趨勢 159
  - 一、一治療法の概況, とくにウンデチレン酸の効果について 139
  - 一、実験一とビタミン, ホルモン, とくにそれらの投与の影響について 822
  - 一、爪一に関する研究 832
  - 一、頭部一に関する研究補遺 614
  - 一、毳毛部爪甲一に関する研究補遺 688
  - 一、一にたいするウンデシレン酸アルコール溶液の治療 651
  - 一、一にたいするオロナインの治療 647
  - 一、一にたいする逆性石鹼オロナインの治療 152

- 一、ナフチオメート N, T チンキの一にたいする効果 1006
  - 一、ヒデゾールの一にたいする治験 564
  - 一、アスナロンの一にたいする治験 682
  - 一、強力ベネグサンの一にたいする治験 765
  - 一、強力ボボの一にたいする治験 815
  - 一、TBK液の一に対する治験 1124
  - 一、一にたいするトリコマイシン軟膏の治験 705
  - 一、一にたいするニコチン軟膏の治験 149
  - 一、一にたいする2, 3新薬の治験 550
  - 一、一にたいするホスカ・コーワ液および軟膏の治験 658
  - 一、陰囊皮膚一について 606
  - 一、一の感染源について 812
  - 一、足部一の発症に関係する生体側局所因子の研究 1140
  - 一、足一の局所因子の検討 431
  - 一、バリオチン軟膏による一の治療 899
  - 一、爪一の治療 909
  - 一、エスピー・ゲルンによる一の治療 935
  - 一、セパリン軟膏, チンキによる一の治療 1005
  - 一、M. P. O 軟膏による一の治療 1039
  - 一、一の治療について 178, 205
  - 一、抗療性一の問題点 217
  - 一、難治性汗疱状一の療法 264
  - 一、一罹患に関する陰囊皮膚の特異性について 767, 773, 778, 779
- 白癬菌
- 一、一の Acridine orange 染色 983
  - 一、一の呼吸に関する研究 989
  - 一、一の直接鏡検と Acridine orange 染色法 984
  - 一、一のプレオモルフィスムスに関する研究 522, 523, 524
  - 一、一のプレオモルフィーについて 110
- 白斑
- 一、Trimethylpsoralen の尋常一に対する治療成績 1118
  - 一、尋常一にたいするメラジニン外用療法について 991
  - 一、サットン一について 34
  - 一、グアノフラシンによると思われる眼瞼一について 123
  - 一、尋常一の局所療法について 747
  - 一、オクソラレンによる尋常性一の治療 936
  - 一、尋常一の治療, ことに小豆エキスおよびエキゾー

- ルの応用 134
  - はたけ
    - 一、一の診断と治療 863
  - 抜毛
    - 一、春先に多い一と毛髪の手入れ 389
  - 瘰癧瘻
    - 一、一の2例 463
  - 斑状血管拡張症
    - 一、後天性多発性一の1例 27
- ひ, ひ
- ビオゲラチン
- 一、皮膚科領域における新創縁接着剤一の応用 108
- ヒスタミン
- 一、一の問題 300
- ビストリン注射液
- 一、2, 3の皮膚疾患に対する一の治療 849
- ビゼックス
- 一、皮膚疾患に対する一の使用経験 666
- ビーゼット
- 一、2, 3皮膚疾患に対する一注射液の治験 1014
- ビタミン
- 一、皮膚科領域における一の問題 652
  - 一、皮泌科領域における一の問題 147
- ビタミンA
- 一、皮膚疾患と一について 151
  - 一、皮膚疾患にたいする合成一の治験 596
  - 一、2, 3皮膚疾患にたいする一, D外用の経験 731
- ビタミン B<sub>2</sub>
- 一、皮膚疾患にたいする一および B<sub>6</sub>の使用経験 574
  - 一、皮膚疾患における一代謝について 730, 735
  - 一、坑内労働と一代謝について 807
- ビタミン B<sub>2</sub> 酪酸エステル
- 一、一の皮膚科領域における治験 1079
- ビタミン B<sub>12</sub>
- 一、皮膚科領域における一の治験 181
  - 一、一の皮膚科的応用をめぐって 187
- ビタミンU軟膏
- 一、一による皮膚疾患の治療 928
- ビタミン療法
- 一、皮膚科領域における一 179
- ビタメジン
- 一、皮膚科領域における一の使用経験 1085
- ヒドラジッド
- 一、皮膚科領域における一の治験 626

## ひ

### ビフロキシム

- 一、皮膚疾患における一の治療 657

### ヒルクリーム

- 一、皮膚疾患にたいする一の治療 1036

### ビールス性皮膚疾患

- 一、一について 142
- 一、一の抗生物質療法 180

### ビルスミン

- 一、一のウイルス性皮膚疾患にたいする効果 1021

### ヒルドイド軟膏

- 一、一の使用経験 903

### ピロミジン

- 一、2, 3 皮膚疾患に対する一錠の使用経験 1081
- 一、各種皮膚疾患に対する一の使用経験 1102

### 非定型的痘瘡疹

- 一、一について 36

### 皮膚

- 一、化学薬品に起因する一障害について 506
- 一、一疾患の場合の一電気抵抗について 707
- 一、一の中和能について 749
- 一、正常な一の電気抵抗について 703
- 一、一の pH および中和能について 405
- 一、正常および病的の一の pH, とくに泉浴による影響について 740
- 一、正常家兎の一反応におよぼす NAPP の影響 1084
- 一、一反応について 360
- 一、一 pH について 212
- 一、一疾患における一毛細血管抵抗 655

### 皮膚萎縮症

- 一、虫蝕様一 544
- 一、本邦における特発性斑状一 543
- 一、本邦における汎発性特発性後天性一, とくに慢性萎縮性肢端皮膚炎について 558
- 一、本邦における血管性多形一について 509
- 一、Schweninger-Buzzi 型特発性斑状一の一 1 例 1148

### 皮膚炎

- 一、接触一 435
- 一、水害による泥土一 672
- 一、リバノール一 712
- 一、黄蛾一 204
- 一、火薬一 814
- 一、坑内足部一について 135
- 一、ナイトロゼン・マスタード一に関する研究 171

- 一、炭坑坑内にて発生する皮膚病, ことに坑内足部一について 312

- 一、いわゆる坑内足部一について 577

- 一、アトピー一について 851

- 一、炭塵一について 786

- 一、絆創膏一について 183

- 一、いわゆる鉱泉性一について 760

- 一、時計バンド一について 988

- 一、いわゆる足部坑内一について 546

- 一、鉱泉性一について 14

- 一、急性毒蛾性一について 203

- 一、坑内足部一の発生に関する研究 591, 843

### 皮膚科

- 一、一および泌尿器科の今昔を語る 213
- 一、一学会の展望 285
- 一、欧米における一学の趨勢と日本の現状 297
- 一、一の臨床を聞く 266

### 皮膚癌

- 一、マイトマイシン C の一にたいする効果 255
- 一、一に対するブレオマイシンの効果について 446
- 一、一の化学療法 350, 376, 378, 399
- 一、一の化学療法, ことに制癌剤の持続動注療法について 381
- 一、一の組織学的研究, とくに予後判定への応用 799
- 一、クロモマイシンによる一の治療 281, 319
- 一、一の治療成績 412
- 一、九大皮膚科教室における一の統計的観察 725

### 皮膚感染症

- 一、気象の一に及ぼす影響 1161

### 皮膚結核

- 一、一最近の推移について 194
- 一、最近の 2, 3 の新化学療法剤による一症の治療経験 94
- 一、九大皮膚科 60 年間の一症の統計 1149
- 一、一その他の 2, 3 皮膚疾患におけるネオイスコチンの応用 716
- 一、一にたいするヒドロロンサンの治療 898
- 一、一の一一般とその最新化学療法 138
- 一、一の化学療法 753
- 一、一の化学療法, とくに INAH 療法について 168
- 一、パス, チピオンによる一の治療経過 597
- 一、一の統計と治療について 238

### 皮膚色素沈着症

- 一、PMH 軟膏の一にたいする治療 788

## 皮膚疾患

- 一、作為的に生ずる一 733
- 一、気象と一 772, 1029
- 一、夏期に多い一とその治療 86, 236, 744
- 一、一の地理病理学的検討 417

## 皮膚腫瘍

- 一、興味ある一の2, 3について 160

## 皮膚内骨形成

- 一、一について 41

## 皮膚白血病

- 一、一について 739

## 皮膚病

- 一、学童の一 276

## 皮膚美容医学

- 一、欧米における一について 229

## 皮膚病調査

- 一、児童の一成績 553
- 一、対馬における一研究 836

## 皮膚ブレーニング法 861

## 皮膚平滑筋腫

- 一、多発性一 961

## 皮膚有棘顎口虫症

- 一、一について 510

## 皮膚レイシュマニア症

- 一、一について 71

## 火焔輪知泉液

- 一、一の治験 6

## 美容保継薬

- 一、新しい内服一をめぐつて 221

## フ、ふ

## ブクク良性類肉腫

- 一、一について 100

## プラスゲンL

- 一、皮膚科領域における一の使用経験 824

## プラスミン

- 一、炎症性皮膚疾患と一 438
- 一、皮分泌領域における一に関する研究 383

## フランベシア

- 一、一に関する研究 472

## ブリック・テスト

- 一、皮膚疾患における一と皮内反応の比較 337

## ブリモジアン

- 一、一錠の2, 3の皮膚疾患に対する治験 973

## ブリモラン

- 一、一および一・デポーの皮膚科領域における治験 1010

## プリングル病

- 一、一の2例、とくに脳迴転状頭皮母斑を合併した症例について 630

## フルビスタチン

- 一、一UF 500 mg 1日1回投与の経験 1135

## ブレオマイシン

- 一、一と癌治療 437

## ブレグナンジオール

- 一、一をめぐる諸問題 261

## ブレドニン

- 一、一の皮膚科的応用について 314
- 一、皮膚疾患にたいする一軟膏の治験 216

## プロセリン

- 一、一と皮膚疾患について 161
- 一、下垂体前葉乾燥粉末一の治験について 620

## プロタルゴール

- 一、一過敏症について 77

## プロピオン酸エリスロマイシンラウリル硫酸塩

- 一、一の皮膚化膿性疾患に対する効果 951

## 風土病

- 一、一性皮膚疾患 313

## 副腎皮質ホルモン療法

- 一、皮膚疾患の一 278
- 一、一の後療法の検討 866
- 一、皮膚疾患の一の長期観察 929

## ブドー球菌

- 一、皮膚科領域における一感染症の最近の2, 3の問題について 347
- 一、耐性一性感染症に対する処置 318

- 一、膿皮症および湿疹病巣における病原一の研究 959

- 一、皮膚科領域における一の耐性問題について 249

- 一、病原一と皮膚疾患 1110

## 分芽菌

- 一、八幡製鉄所寮炊事勤務員に多発せる一性指趾間癩癬症について 566, 599, 632, 708

- 一、一性陰外陰炎について 497

- 一、口腔癌腫における一の2次感染について 559

- 一、一の発毛効果に関する研究 673, 713, 717

- 一、一の発毛効果について 631

## 不明熱

- 一、一と皮膚疾患 361

へ～も

へ、へ

ページェット病

一、乳房の—の1例 1046

ペトネゾール

一、副腎皮質ホルモン内用薬—の使用経験 1043

一、副腎皮質ホルモン外用剤—の使用経験 1044

ペナカル B<sub>6</sub>

一、—による皮膚疾患の治験 699

ペニシリン

一、—・アレルギー、とくにその対策について 206

一、—・アレルギーに関する研究 745

一、—・アレルギーについて 207

一、新しい内服用—の効果について 353

一、—の体液および組織内濃度に関する研究補遺 628, 669

一、—の副作用の予防に関する研究 833

一、—皮膚反応に関する研究 838

一、—Vカルシウム塩錠内服による皮膚疾患および淋疾その他にたいする治験 790

ペラグラ

一、—精神病の1例、ことに本症にたいする肝製剤ニペナルの効果について 590

一、—による Transverse leukonychia 1160

一、—の数例 461

ペリアクチン

一、—による皮膚疾患の治験 921

ペルファーゲンH

一、—の2, 3皮膚疾患に対する治療 853

ペンテロン

一、皮膚科領域における—の使用経験 1015

別府紺屋地獄泥

一、—による皮膚病の治験 532, 764

別府白湯温泉

一、—の調査 756

ホ、ほ

ボラミンクリーム

一、—の使用経験 1056, 1114

ホルムアルデヒド

一、皮膚科領域における—高張葡萄糖液の治験例 48

母斑

一、頸部軟骨— 1087

一、面皰—の1例 1158

包茎

一、朝鮮人児童に見る1種の後天性癒着性—について 37

保険

一、—の問題を語る 239

汎発性硬皮症

一、—の1例、とくに脳下垂体移植の効果について 530

汎発性種痘疹

マ、ま

マハルゼン

一、—およびサルバルサンの効力比較に関する研究 511, 512

一、—療法 78

松原癌反応

一、皮膚科泌尿器科領域における—の応用と検討 775

ミ、み

水虫

一、—をめぐつて 263

一、いわゆる—の原因と治療について 150

一、—の治療法 937

メ、め

メサルモン

一、代謝性綜合ホルモン剤—錠の治験 1047

メタゾロン

一、—の皮膚疾患にたいする治験 876

メチアデカル

一、—注射による炎症性皮膚疾患の治療 700

一、—による皮膚疾患の治療 1009

メルカプト醋酸ソーダ

一、皮膚疾患にたいする—の治験 719

免疫

一、トリプシン—抗トリプシン抗体系の—化学的分析 1080

一、生体内の—現象について 660

一、—とくに抗菌—の本態に関する研究 649, 653

モ、も

モノフラシン

一、—・カーボワックス軟膏の治験 528

モニリア症

一、—、とくに本症と抗生物質との関係について

163

- 一、肺—の1例について 676
- 一、抗生物質による—の発生について 153

## モリアミン

- 一、皮膚科領域における—の治験 603

## 毛癩

- 一、寄生性— 252
- 一、狼瘡様—、とくにその病原体について 4

## ヤ, や

## 薬物療法

- 一、最近の— 338, 364

## 薬疹

- 一、—さまさま 755
- 一、薬剤アレルギー—、とくに—について 445
- 一、九大皮膚科60年間の—の統計 385

## ユ, ゆ

## 油症

- 一、—患者使用ライスオイルならびにカネクロール400の鶏における毒性試験 1143
- 一、—最近の問題をめぐって 451
- 一、—事件を顧みて 450
- 一、—の皮膚科学的症候論 444

## 疣贅

- 一、—に関する小統計 480

## 疣贅様表皮発育異常症

- 一、—について 618

## 遊走細胞

- 一、炎症性皮膚疾患における—について 837

## ヨ, よ

## 葉緑素

- 一、皮膚疾患にたいする—の応用 83

## ラ, ら

## ライスオイル

- 一、—中毒事件を顧みて 452

## ラジウム

- 一、—治療後の腫瘍形成について 136

## 癩

- 一、東印度、ことにジャワにおける—およびその対策状況について 87
- 一、—患者および近親者の血中ビタミンC量について 475

- 一、—患者および同居者の血中ビタミンAおよびカロチノイド量について 474

- 一、熱帯—患者ならびに同居者の血中ビタミン量について 90

- 一、ジャカルタ市タナハバン区内国民学校児童の—検診 476

- 一、—診断法として濃厚血滴塗抹法の検討 477

- 一、東印度における—に関する業績の総括 75

- 一、椰子油の鼠—に対する効果ならびに一菌培養に関する実験追補 60

- 一、—に対するグルゴールの治験 11

- 一、水牛—の一般ならびに人—の水牛接種試験について 69

- 一、—の血清反応について 797

- 一、福岡県における—の現状 1097

- 一、—の初感染巣について 76, 478

## リ, り

リール黒皮症 870

## リグラ状幼裂頭条虫症

- 一、—について 35, 549

## リブロン・ローション

- 一、—の使用経験、とくに色素異常性皮膚疾患について 914

良性非母斑性黒色上皮腫 1045

## 淋疾

- 一、最近の—化学療法にたいする単見 39

- 一、レオシリンによる急性—治験例 726

- 一、テトラサイクリン・メタ磷酸塩による急性—、軟下疳の治療 842

- 一、抗ペニシリン性—にたいするテラマイシン等の治験 595

- 一、Aureomycin Triple Sulfas の—に対する治験 174

- 一、バイシリン・ペニシリンV混合錠内服の皮膚疾患および—にたいする治験 810

- 一、—の化学療法、とくに治療中の再燃ならびに抗療性淋疾について 38

- 一、Kanamycin による—の治療 1113

## ル, る

## ルチン

- 一、皮膚疾患にたいする—剤の治験 645

- 一、—についての薬理学的研究 644



れ〜ろ

レ, れ

レスタミンA軟膏

一, 一の使用経験 847

レダマイシン

一, 皮膚科領域における一の検討 368

レックリングハウゼン氏病

一, 伴性優性遺伝を示せる一の2家系 482

レミダーム

一, 皮膚疾患に対する一の使用経験 1064

レントゲン

一, 一潰瘍の悪性変化 1072

一, 一皮膚潰瘍の外科的療法 176

冷蔵血液療法

一, 一に関する研究 670

冷蔵皮膚移植術

一, 一について 513

冷蔵皮膚移植療法

一, 一に関する研究 579, 583

一, 一の批判 133

ロ, ろ

老人性皮膚疾患 409

一, 一の統計的観察 243



## A

- Acanthosis nigricans  
 一, 胃腫瘍をともなつた一の2例 780
- Acanthosis nigricans benigna  
 一, 一の家族発生例 1158
- Acne dome lotion  
 一, 一および Cleanser の使用経験 1127
- Acrodermatitis enteropathica 209  
 一, 一について 208
- ACTH  
 一, 皮膚科領域における一, コーチゾンの使用法 197
- Actinomyces cutis 1089
- AH 611  
 一, 一注射液の2, 3皮膚疾患における治療成績 999
- Alopecia juvenilis  
 一, Beitrag zur Behandlung der — 215
- Aminodeoxy kanamycin  
 一, 皮膚科領域における一の検討 1145
- Anginin  
 一, 皮膚科領域における一の検討 1125
- Angioblastoma 1030
- Apocrine hydrocystoma 1127
- Atarax  
 一, 抗ヒスタミン系トランキライザー—の使用経験 1057
- 8-Azaguanin  
 一, 一による陰茎癌治療の1例 751
- AzunoI  
 一, 皮膚科領域における一軟膏の臨床治療 858

## B

- B複合剤  
 一, 新しい一の魅力 295
- Betamethasone  
 一, 皮膚科領域における一の使用経験 960
- Bleomycin  
 一, 皮膚科領域における一の研究 447  
 一, Clinical Study of — in Dermatology 448
- Bowen 病  
 一, 指間にみた一 996
- Brado  
 一, 皮膚疾患にたいする一の治験 895

## C

- C軟膏  
 一, 一および CS 軟膏の使用経験 862
- Candida  
 一, 肺結核患者における一属の検出とその菌学的研究 692, 803  
 一, マウスにおける一毒性のコーチゾンによる影響 697  
 一, 一属の薬剤耐性に関する実験的研究 850
- Candidiasis  
 一, Dermatological — 307  
 一, Systemic — Complicated with Leukemia 306
- Calcinosis cutis universalis 282, 888
- Carcinoma basocellulare adenoides 1016
- Celestamine sustained release capsules  
 一, 一の臨床治験 1109
- Cepharanthin  
 一, 帯状疱疹に対する一内服治験 1150
- Cephalexin  
 一, 皮膚科領域における一の検討 1144
- Cephalosporin C  
 一, 合成一の皮膚科領域における検討 1067
- Chalazion 1027
- Chlorpromazine  
 一, 一の梅毒その他2, 3の感染症に及ぼす影響 830
- Chymar 軟膏  
 一, 一の治験 950
- Clear cell myoepithelioma 998
- Contomin  
 一, 皮膚疾患にたいする一, Hiberna, —Hiberna 軟膏の治験 798

## D

- Dermatitis  
 一, Akute — durch den giftigen Nachtfalter 253
- Dermatofibrom 930
- Dermopan  
 一, On the Effectiveness of — to Haemangiomas and Keloids and of the Grenz Ray Therapy to Skin Diseases 449  
 一, 超軟レ線—療法について 883  
 一, 超軟レ線—療法に関する実験的研究 940

## D~L

- DF, 72  
一, 皮膚科領域における一の使用経験 1058
- Dimethylsulfoxide  
一, 皮膚科領域における一の検討 397
- Doxycycline  
一, 皮膚科領域における一の実験的ならびに臨床的検討 1129
- DQ 308  
一, 一感染性皮膚疾患に対する治験 897
- Drenison  
一, 一cream, ointment, その他による皮膚疾患の治験 976

## E

- E 170-001  
一, 2, 3皮膚疾患に対する一の使用経験 1080
- ECHO ウイルス  
一, 一型2によると思われる発疹症の1例 396
- Eksalb  
一, 一による皮膚疾患の治療 927
- Erythrodermie congenitale ichthyosiforme 924
- Estergel  
一, 新薬剤一について 1062
- Eurax 軟膏  
一, 皮膚科領域における一の治験 792
- Eurax-Hydrocortisone 軟膏  
一, 一による皮膚疾患の治療 882

## F

- F.I. 6341  
一, 副腎皮質ステロイド外用剤一軟膏の効果 1074
- FK-610  
一, 一軟膏の白癬に対する治療効果 1092
- Flnocortolne  
一, 副腎皮質ホルモン外用剤一軟膏の使用経験 1066
- Flumethasone  
一, 副腎皮質ホルモン外用剤一軟膏の使用経験 1050
- FTA Test  
一, 一に関する研究 969, 1077  
一, 梅毒血清反応の検討とくに一について 333

## G

- Granuloma pyogenicum 1037
- Griseofulvin  
一, Study on Fine Particle — 344

- 一, 一その白癬にたいする効果について 277  
一, 一について 289  
一, 微粒子一について 342, 343

## H

- Haemangioma verrucosum 917
- Hautkrebs  
一, Der therapeutische Erfolge von Antikrebsmedikamenten bei — 357
- Herpes simplex virus  
一, Depression of Acquired Resistance against — infection in neonatally Thymectonized Mice 1104
- Homochlorcyclizine  
一, 一による皮膚疾患の治験 1048
- HS-592  
一, 抗ヒスタミン剤一の使用経験 1130  
一, 抗ヒスタミン剤一シロップの使用経験 1138

## I

- Incontinentia pigmenti  
一, 一について 232
- Interdigital athlete's foot  
一, Ecological Study of — 1156
- Irgapyrin  
一, 一の皮膚科的臨牀経験 683

## K

- K-APL  
一, 外用止痒剤一の使用経験 1112
- Kanamycin  
一, 皮膚化膿性疾患ならびに尿路感染症にたいする一の治験 1000
- Klippel-Weber 症  
一, 一について 659
- Kveim 反応  
一, ザルコイドーシス, とくにその一について 323  
一, 一を行つた10例の検討 351
- Kynex  
一, 数種の皮膚疾患および性病にたいする一の治効 809

## L

- Lepromatous leprosy 1133
- Lichen nitidus

一、顔面に発生した一 1002

### Lincomycin

一、皮膚科領域における一の検討 1040

### LT-36

一、一の臨床成績について 1165

Lymphangioma circumscriptum 1011

## M

Male pattern baldness 1086

Malignant skin tumors

一、Chemotherapy of — by Bleomycin 454

Melanomalignom 947

Methylcobalamin

一、皮膚疾患に対する一の使用経験 1146

4-Methoxy-6-Sulfanilamido-Pyrimidine

一、一の皮膚化膿性疾患にたいする効果について 964

Moniliasis

一、Systemic — Complicated with Leukaemia  
245

一、Statistical Observation of — in the Field of  
Dermatology 246, 275

Morphoea 症例 910

Multiple Superficial basal cell epithelioma 1053

Myxotrichum Kunze

一、一による斑状落屑性白癬 56, 57

## N

Naevus epitheliomatosus sebaceus capitis Wolters  
1106

Naevus lipomatosus cutaneus superficialis Hof-  
fman-Zurhelle 1121

Naphthiomate-N

一、Effect of — and Naphthiomate-T on Tricho-  
phytosis 985

Necrobiosis lipoidica

一、一について 962

Nevoxantho-endothelioma 978

## O

Okilon

一、一軟膏による皮膚疾患の治療 980

ONLE

一、皮膚科領域における不飽和脂肪酸一の使用経験  
1022

ONVC-1

一、一注射液の皮膚疾患への使用経験 1033

## P

P<sub>32</sub>

一、一による血管腫その他の表在性治療について 785

Pachydermatocele 938

Penis tuberculid 1008

Periarteritis nodosa cutanea benigna 974

Periodontal diseases

一、一 and skin diseases 320

Phenoxypropyl penicillin

一、一および Aminobenzyl penicillin の皮膚科領  
域における使用経験 346

Pituitary gland

一、Transplantation of the — for Treatment of  
Alopecia 588

Polyodin

一、一軟膏、液の臨床使用経験 1166

Pseudopelade Brocq 1139

Pseudoxanthoma elasticum

一、一に併発した Elastosis perforans 986

Psychosomatic aspects

一、Some Experimental Observations of — of  
Allergic Skin Disorders 422

Psychosomatic dermatology 432

Psychosomatique

一、Étude — des affections cutanées dites al-  
lergiques 375

Pyoderma gangrenosum

一、一の1例 1017

## R

Rifampicin

一、皮膚科領域における一の効果 459

Reticulosarcoma cutis 953

RPCF テスト 981

RS 1401 AT

一、一の治験 932

## S

Skin cancer

一、Therapeutic Effect of Anticancer Drugs on  
— 352

一、Chemotherapy in Human — 392

一、Mitomycin C in the Treatment of — 419

## S~Z

### SLE

—, —の抗核因子 1024

### Subcutaneous fibrosarcoma 1019

### Syphilis

—, Treatment and Prevention of — by Antibiotics 164, 305

—, Some Problems on Seroresistant — 316

—, Oral Treatment of — with Achromycin 724, 923

### Sycosis lupoides Brocq

—, Über den Erreger der — 5

## T

### Thymectomy

—, Effect of the — on experimental virus infections of mice 1062

### Toxic epidermal necrolysis 1063

—, —の1例 1147

### T.P.I Test

—, —に関する小経験 195

—, —について 972

### Trichophyton

—, Characteristics of the Scrotal Skin for the Infection of — 220, 296

### Trypure novo

—, 皮膚科領域における壊死物質融解酵素剤—の使用経験 801

## V

### Vaccina generalisata 942

### Variotin

—, Clinical Effect of — on Dermatomycosis 881

### VDRL

—, —について 623

## W

### War melanosis 567

### Warthin's tumor 1151

## Z

### Zema 軟膏

—, 皮膚疾患に対する—の治験 904

# 人名索引

\* 印は著書

樋口謙太郎 梅毒のペニシリン療法 \*1, 92, 105, 脱毛症の療法 \*2, 皮膚病性病学 \*3, 軟膏療法 \*4, \*6, 113, 皮膚と美容 \*5, 皮膚科学 \*7, 副腎皮質ホルモン療法 \*8, 257, 278, 真菌病学 \*9, 新皮膚科学 \*10, 皮膚科学特論 \*11, 蕁麻疹の治療 \*12, 皮膚病アトラス \*13, 鞏皮症, 皮膚萎縮症, 皮膚形成異常症 \*14, 外科学総論 \*15, 口腔病変 \*16, 169, 皮膚カンジダ症 \*17, \*22, 243, 307, 429, 梅毒の一般 \*18, 職業性皮膚病 \*19, 291, 分芽菌症 \*20, 抗生物質駆梅毒療法 \*21, 小児科学 \*23, \*24, 局所薬物療法 \*25, 表在性皮膚酵母菌症 18, 17, 18, 病原性糸状菌とその疾患 54, 病原酵母菌の動物接種 19, 20, 色素と酵母菌 25, 健康人糞便中の酵母菌 8, 母子の唾液, 糞便中の酵母菌 21, 消化管内酵母菌 45, 酵母菌性間擦疹 2, 酵母菌性指趾間糜爛症 9, 酵母菌性肛周湿疹 10, 乳児寄生菌性紅斑 3, 99, 狼瘡様毛瘡とその病原体 4, 5, 渦状癣 13, 頑癬 55, *Myxotrichum Kunze* による環状落屑性白癬 56, 57, 皮膚酵母菌とビタミンB 66, 先天性対側性色素異常症 26, 後天性多発性斑状血管拡張症 27, 蕁麻疹性紫斑 33, 急性紅斑性狼瘡 22, 性病の現段階 \*26, 脱毛症候よりみた皮膚病の診断と治療 \*27, 抗スピロヘータ薬, 駆梅毒療法 \*28, 蕁麻疹 \*29, 332, 400, 413, 434, 駆梅毒療法と梅毒の治癒判定 \*30, 皮膚真菌症の治療 \*31, 327, 348, 痒疹, 薬物療法 \*32, トリコチロマニー 28, 皮膚内骨形成 41, サットン白斑 34, 遠心性環状紅斑 29, 点状紅斑 58, リグラ状幼裂頭糸虫症 35, 非定型的痘瘡疹 36, 乳嚙状潰瘍性膿皮症 42, 46, 痘瘡状急性膿疱症 47, 陰茎エリトロプラジー 23, 後天性癒着性包茎 37, 長江浮腫 59, 皮膚レイシユマニア症 71, 熱帯潰瘍 72, 栄養失調症と皮膚変化 73, 火焼輪泉液 6, 鉱泉性皮膚炎 14, ホルムアルデヒド高張葡萄糖液 48, 皆見式爪削器 15, ズダバードの応用 30, 小児ストロフルスとミノファーゲンC 49, 水銀燻蒸療法とその中毒 50, 竹乾溜液, 竹タール 74, 癩とグルゴール 11, 椰子油と鼠癬 60, 東印度の癩 67, 75, 水牛癩 69, 癩の初感染巣 76, 大学生の梅毒反応検査 51, 小野氏梅毒着色反応 61, 重症サルバルサン疹 43, アグラヌロチトーゼ 31, 淋疾の化学療法 38, 39, 性病のズルホンアミド療法 52, 性

病の化学療法 70, プロタルゴール過敏症 77, 閉鎖性腎結核 40, 胎生的腎混合腫瘍 44, 腎良性混合腫瘍 24, ウラヒス瘻 62, 重複腎 63, 囊腫腎 64, 先天性軸捻転腎 65, ジャワの皮膚病および性病 68, 湿疹の統計 7, 12, 健康保険 1, 強姦致傷事件 32, 古湯および熊の川温泉 53, マハルゼン療法 78, サルバルサン自家血液溶媒法 78, 79, 116, 病原糸状菌とその疾患 80, 81, 腎結核 82, 皮膚疾患と葉緑素 83, 抗ヒスタミン剤 84, 111, 112, 梅毒のペニシリン療法 85, 92, 夏期皮膚疾患 86, 236, 駆梅毒療法の趨勢 87, 皮膚疾患と尿酸代謝 88, 新外用薬 89, 熱帯癩患者のビタミン量 90, 皮膚の格子線維 91, デルモーゲン 93, 新化学療法剤と皮膚結核症 94, 痒疹と止痒剤 95, 脳下垂体移植と禿頭 96, 97, 脳下垂体移植 98, ブック良性類肉腫 100, 駆梅毒主薬としてのサルバルサンとマハルゼン 101, 簡易梅毒反応検査法 102, 鞏皮症 103, 梅毒と類肉腫およびエリテマトーデス 104, 慢性蕁麻疹 106, ペニシリンと性病 107, ビオゲラチン 108, 内分泌腺移植療法 109, 130, 白癬菌のプレオモルフィー 110, 限局性硬皮症 114, 尋常膿瘡 115, 脳下垂体と前葉ホルモン 117, 脱毛症と治療 118, 抗生物質と性病 119, 簡易梅毒反応検査法 120, ソルミノール 121, 小児湿疹 122, グアノフラシン眼瞼白斑 123, 足菌腫 124, 凍傷と凍瘡 125, 冷蔵皮膚と内分泌腺移植療法 126, 梅毒と肺結核 127, 皮膚病の温泉療法 128, 201, 225, カージオライピン抗原 129, 色素失調症 131, 232, 皮膚科領域の治療法の趨勢 132, 冷蔵皮膚移植の批判 133, 尋常白癬の治療 134, 坑内足部皮膚炎 135, 312, ラジウム治療後の腫瘍形成 136, 新軟膏基剤 137, 皮膚結核と最新化学療法 138, 白癬治療法とくにウンデチレン酸 139, 梅毒軟下疳のクロロマイセチン液法 140, 発疹よりみた伝染性皮膚病 141, ビールス性皮膚疾患 142, 真菌 143, 抗生物質による梅毒の治療 144, 164, 尋常瘡瘡の成因と治療 145, 多発性神経性皮膚壊疽 146, 皮泌科領域のビタミン 147, 臓器療法, ホルモン療法 148, 白癬とニコチン軟膏 149, 水虫の原因と治療 150, 皮膚疾患とビタミンA 151, 白癬と逆性石鹼 152, 抗生物質とモニリア症 153, 163, 畢上体のホルモン様作用 154, 色素母斑, 色素沈着症

# 人 名 索 引

の治療 155, 白癬の治療 156, 178, 205, 260, 軟下疳の抗生剤療法 157, 175, 梅毒の治療 158, 407, 430, 皮膚科領域の神経症 159, 皮膚腫瘍 160, プロセリンと皮膚疾患 161, 軟下疳とアイロタイシン 162, 抗生物質と化学療法 165, 新抗生物質と性病 166, 173, 抗療梅毒 167, 170, 210, 330, 皮膚結核の化学療法 168, ナイトロゼン・マスタード皮膚炎 171, カンジダとその疾患 172, Aureomycin Triple Sulfas と淋疾 174, レントゲン皮膚潰瘍の外科的療法 176, 壮年性脱毛症の治療 177, 190, 215, 233, 皮膚科領域のビタミン療法 179, ビールス性皮膚疾患の抗生物質療法 180, ビタミン B<sub>12</sub> 181, 187, 皮膚の角化形成 182, 絆創膏皮膚炎 183, 抗生物質の功罪 184, 脳下垂体埋没療法 185, パラマイシン軟膏 186, アレルギー性皮膚疾患 188, 尋常乾癬の治療 189, 脱毛症とホルモン 191, 抗療性性病 192, 掻痒の治療 193, 皮膚結核最近の推移 194, T.P.I テスト 195, 皮膚疾患と脂溶性ビタミン 196, ACTH とコルチゾンの使用法 197, コールドパーマ障害 198, 梅毒および性病の変貌 199, 治療の進歩による疾病の変貌 200, プレドニン, プレドニソロン 202, 毒蛾皮膚炎 203, 204, 250, 253, ペニシリン・アレルギー 206, 207, Acrodermatitis enteropathica 208, 209, 色素問題の検討 211, 皮膚 pH 212, 皮泌科の今昔 213, 尋常座瘡 214, プレドニン軟膏 216, 抗療性白癬 217, 尋常座瘡のホルモン療法 218, カンジダ症の統計 219, 246, 275, 白癬罹患に関する陰囊皮膚の特異性 220, 296, 内服美容保健薬 221, 月経疹と月経前緊張症 222, 掻痒 223, 340, 性病の諸問題 224, ドイツ医学かアメリカ医学か 226, 欧米の医界 227, 欧米の白癬菌症研究 228, 欧米の皮膚美容医学 229, 欧米の売春と性病 230, ドイツの社会医療制度 231, 真菌症の化学療法 234, 235, ダーマトームによる植皮術 237, 皮膚結核の統計と治療 238, 保険の問題 239, 医療制度 240, オレアンドマイシンと性病 241, 外国医学 242, 老人性皮膚疾患の統計 243, 湿疹の局所療法 244, 汎発性カンジダ症 245, 306, 欧米の形成外科 247, 医学と文学 248, 葡萄球菌の耐性 249, カンジダ症 250, 皮膚真菌症の発症病因 251, 寄生性毛癢 252, 骨移植 254, マイトマイシンと皮膚癌 255, 性病対策 256, 形成外科の将来 258, 糸状菌症の治療 259, プレグナンジオールの諸問題 261, 病原糸状菌の電子顕微鏡像 262, 水虫をめぐって 263, 難治性汗疱状白癬の療法 264, 抗療性梅毒の治

療 265, 皮膚科の臨床を聞く 266, 局所療法 267, 鞏皮症 268, 抗療梅毒の臨床検査成績 269, 抗療性梅毒の実験的研究 270, 抗療梅毒の諸問題 271, 316, 局所療法管見 272, 抗療梅毒の治療成績 273, 植毛術とその臨床的方面 274, 学童の皮膚病 276, Griseofulvin の効果 277, 糸状菌症の外用療法 279, パントテノール含有 B 群複合注の応用 280, クロモマイシンと皮膚癌 281, 汎発性皮膚石灰沈着症 282, パントテン酸 283, 309, 白癬症の薬物療法 284, 皮膚科学会の展望 285, 肛門周囲の皮膚疾患の治療 286, 掻痒症 287, グリセオフルビンについて 288, 289, 299, グリセオフルビン治療の問題 290, ウイルス学研究の趨勢 292, ステロイド抗ヒ剤 293, 顔面播種状粟粒性狼瘡の治療 294, B 複合剤 295, 欧米の皮膚科学と日本の現状 297, 湿疹の管理 298, ヒスタミン 300, グリセオフルビン療法 301, グリセオフルビンを中心として 302, 最近の真菌症研究 303, 抗療梅毒の研究 304, 梅毒の治療と予防 305, 化粧品皮膚障碍の治療 308, 職業性皮膚疾患 310, 皮膚真菌症 311, 風土病性皮膚疾患 313, プレドニン 314, スキン・テスト 315, 湿疹, 接触皮膚炎の外用療法 317, 耐性ブドウ球菌感染症の処置 318, クロモマイシンと皮膚癌 319, 歯周症と皮膚疾患 320, 真菌症の治療 321, 汎発性種痘疹 322, ザルコイドーグスと Kveim 反応 323, 小児乾燥型湿疹 324, 酵素療法 325, アレルギー 326, 慢性蕁麻疹の療法 328, 蕁麻疹の統計と諸テスト所見 329, 肛門掻痒症の治療 331, FTA テスト 333, 老人の梅毒 334, 抗白癬剤 335, 再発性女子顔面紅斑 336, ブリック・テストと皮内反応の比較 337, 最近の薬物療法 338, 364, 円形脱毛症の治療 339, 蕁麻疹の問題 341, 微粒子グリセオフルビン 342, 343, 344, 梅毒の動態 345, Phenoxypropyl Penicillin と Aminobenzyl Penicillin 346, ブドウ球菌感染症の問題 347, 化学療法の進歩 349, 皮膚癌の化学療法 350, 376, 378, 381, 399, Kveim 反応の検討 351, 抗癌剤の治療成績 352, 357, 内服用ペニシリンの効果 353, 梅毒血清反応と駆梅毒療法 354, 最近の顕性梅毒 355, 難治梅毒の治療 356, 蕁麻疹の治療 358, スピロヘータの検査法 359, 皮膚反応 360, 不明熱と皮膚疾患 361, 最近の梅毒 362, 394, 395, 425, 433, プラスミンの研究 363, 皮膚疾患の食餌療法 365, 駆梅毒療法 366, 黒痣の治療法 367, レダマイシン 368, みずむし 369, 膿皮症の問題 370, 顎口虫症 371, 口腔と口



辺の皮膚科的病変 372, 抗生物質選択上の注意事項 373, 梅毒の化学療法 374, アレルギー性皮膚疾患と精神身体医学 375, 顕症梅毒の治療 377, 382, *Sporotrichum schenkii* と螢光抗体法の応用 379, 自己免疫とエリテマトーデス 380, 顕症梅毒の現況 383, 早期梅毒と新しい抗生物質 384, 蕁疹の統計 385, 皮膚病治療の考え方 386, 早期顕症梅毒の治療 387, 真菌症とスポロトリコージス 388, 抜毛と毛髪の手入れ 389, 円形脱毛症 390, 最新治療 391, 頭頸部癌の化学療法 392, 慢性湿疹の治療と管理 393, ECHOウィルス型2による発疹症 396, Dimethylsulfomide 397, 梅毒 398, 440, じんま疹とアレルギー 401, 院内感染 402, 水疱症と欧米の知見 403, 乾癬の種々相 404, 皮膚の pH と中和能 405, 進行性手掌角皮症の治療 406, 湿疹の予後 408, 老人性皮膚疾患 409, 小児湿疹の推移 410, 帯状疱疹と湿疹 411, 皮膚癌の治療成績 412, 医療制度 414, 梅毒患者の管理 415, ハゲの治療 416, 皮膚疾患の地理病理学的検討 417, 梅毒の動向 418, マイトマイシン C と皮膚癌 419, 小児湿疹の問題 420, かゆみ 421, カナマイシン 423, 爪の異常と疾患 424, 蕁疹 426, 皮膚科における精神身体医学 427, カナマイシンと梅毒の治療 428, 足白癬の局所因子 431, 精神身体皮膚病 432, 接触皮膚炎 435, じんましんの原因と治療 436, プレオマイシンと癌治療 437, 炎症性皮膚疾患とプラスミン 438, 癌化学療法 439, 紅斑性狼瘡 441, 脱毛の臨床 442, 皮膚軟レ線とケロイド, 血管腫に対する効果 443, 449, 458, 油症の皮膚科学的症候論 444, 薬剤アレルギーと蕁疹 445, 皮膚癌とプレオマイシンの効果 446, Bleomycin の研究 447, 448, 油症事件 450, 油症最近の問題 451, ライスオイル中毒事件 452, 皮膚科の教育 453, プレオマイシンと皮膚悪性腫瘍 454, アレルギー慢性蕁麻疹の治療 455, 虫さされとかゆみ 456, 湿疹 457, Refampicin 459, 梅毒と他の性病 460

## あ

鯨坂 元伯 冷蔵血液療法 670  
 青木ツタノ 梅毒反応 1152  
 旭 正一 気象と皮膚疾患 1029, 家族性良性天疱瘡 1031, トリプシン—抗トリプシン抗体系の免疫化学的分析 1080, 皮膚感作抗体 1098, リブロン・アクネ 1111, Dysgammaglobulinemia Type I 1122  
 麻生 孝 白癬と逆性石鱗 152, T.P.I. テスト

195, 白癬とオロナイン 647, 性病の統計 678, 松原痛反応 775, 梅毒血清反応の統計 781  
 安部 英一 強力ポポと白癬 815, Micrurgie と真菌 839  
 阿部 董 痘瘡状急性膿疱症 47, 小児ストロフルスとミノファーゲン C 49  
 阿部 志朗 老人性皮膚疾患の統計 243, ビオチン 783, 爪白癬 832  
 天児 民和 外科学総論 \*15  
 天野 高彰 ネオレスタミン 639, 対馬の皮膚病 836, ニコチン酸 852, シノミン 859  
 荒川 忠良 急性紅斑性狼瘡 22, 膿疱疹の年次的変動 503  
 荒木 明節 梅毒血清反応の統計 781, P<sup>32</sup>と血管腫 785  
 安藤 俊生 サルバルサン溶媒としての自家血液 79, 静動脈血間の梅毒反応の差異 481, 抗ヒスタミン剤 483

## い

飯野 治彦 泥土皮膚炎 672  
 石井 義人 プロタルゴール過敏症 77, 静動脈血間の梅毒反応の差異 481  
 石沢 靖之 抗療梅毒の臨床検査成績 269  
 石津 芳和 Cepharanthin 1150  
 一木象二郎 尋常膿瘡 115, 517, 531, 576  
 伊藤 衛門 酵母菌のビタミン B 含有量 66  
 伊豆統一郎 Granuloma pyogenicum 1037  
 井上 浩一 スキン・テスト 315, 強力ベネグサンと白癬 765, 低周直角脈波療法 811, ベルファーゲン H 853, グリチロン錠 846, 抗白癬剤の併用療法 864, Acromegalie をともなう脳回状皮膚 885, ウェバー・クリスチャン病 894, リブロン・ローション 914, ケナコルト A スプレー 968  
 井上 忠彦 長江浮腫 59, ウラヒス瘻 62, 囊腫腎 64, 精液腫 468  
 井口 新 T.P.I. テスト 195, サンドペーパー療法 675, イルガピリン 683, ネオドリン軟膏 702, 局所麻酔薬カロカイン 710  
 井口 司 腎結核の統計 485  
 岩井 達士 ニコチン酸 852  
 岩崎 博 分芽菌症 \*20, 皮膚 Candida 症 \*22, 721, 多発性神経性皮膚壞疽 146, 抗生物質によるモニリア症の発生 153, 163, 抗生物質と梅毒 164, カンジダとそれによる疾患 172, 白血病と汎発性カ

## い〜う

ンジダ症 245, 776, 梅毒の治療と予防 305, 汎発性カンジダ症 306, 円板状エリテマトーデス 554, 寒の地獄冷泉, 星生温泉, 中野温泉 571, グリンポール 589, 皮膚疾患と合成ビタミンA 596, 先天梅毒 598, 肺モニリア症 676, クロルテトラサイクリンと梅毒 691, 699, *Candida* 毒性とコーチゾン 697, 704, 痒痒症の心理的因子 706, アクロマイシンと梅毒 709, 724, 作為的皮膚疾患 733, 線糸皮膚炎 741, トリコマイシン内服錠 759, アクロマイシン 923

## う

植松 一男 皮膚 pH 212, マイトマイシン C と皮膚癌 255, 難治性汗疱状白癬の療法 264, 糸状菌症の外用療法 279, クロモマイシンと皮膚癌 281, 319, 白癬症の薬物療法 284, グリセオフルビン治療の問題 290, グリセオフルビン療法 301, グリセオフルビンを中心として 302, 真菌症の治療 321, 皮膚真菌症の治療 327, 抗白癬剤 335, 微粒子 Griseofulvin 342, 343, 344, 967, 抗癌剤の治療成績 352, アクサーゲル・アクサー Z 768, ビオチン 783, セリア注 791, グロンサン・ブドー糖注 806, Kynex 809, 火薬皮膚炎 814, 強力ボボと白癬 815, 実験白癬とビタミン・ホルモン 822, 真菌染色法 826, アトピー皮膚炎 851, Psoriasis vaccine 841, ハイスタミン 845, シノミン 859, セフェランチンと円形脱毛症 860, 結節性紅斑の治療とその諸問題 869, オルガドロン 871, ケナコルト A 軟膏 872, スルキシシン 873, 学童の皮膚病の変遷 875, Variotin 881, Eurax-Hydrocortisone 軟膏 882, キャベジン U 884, バリオチン軟膏 899, チオクト酸 901, Zema 軟膏 904, アドクノンパスタ 907, 爪白癬の治療 909, 強力ボボ 913, 水野・高田培地 919, ピアン 922, ビタミン U 軟膏 928, エスピー・ゲルン 935, 水虫の治療 937, ヴェリダーム・メドロール 952, Drenison cream, ointment 976, 白癬菌の Acridine orange 染色 983, 白癬菌の直接鏡検と Acridine orange 染色 984, Naphthiomate-N と Naphthiomate-T 985, MPO 992, グリセオフルビンの研究 1003, セパリン軟膏, チンキ 1005, ナフチオメート N, T チンキ 1006, メチアデカル 1009

内田 潔 壮年性脱毛症の治療 177, 性病の統計 678, メルカプト錯酸ソーダ 719, 壮年性脱毛症 754  
梅津竜一郎 坑内足部皮膚炎 577, 分芽菌の発毛効果

681, 673, 713, 717  
浦橋 勝彦 脳下垂体移植と脱毛症 97, 内分泌腺移植療法 109, 130, 557, 578, プロセリン 161, 620, 脱毛症とキハノール 519, 胎生性軟骨萎縮症 580, ベラグラ精神病 590, 内分泌腺器移植手技 616  
占部 慎二 Nevoxantho-endothelioma 978, 代謝障害性疾患の統計 1100  
占部 治邦 真菌病学 \*9, 抗生物質駆梅毒療法 \*21, 164, 小児科学 \*24, 性病の現段階 \*26, 皮膚真菌症の治療 \*31, 足菌腫 124, 色素失調症 131, 軟下疳の抗生物質療法 157, 軟下疳とアイロタイシン 162, 新抗生物質による性病の治療 166, Aureomycin Triple Sulfas と淋疾 174, ビールス性皮膚疾患の抗生物質療法 180, 皮膚結核の推移 194, 梅毒および性病の変貌 199, 抗療性白癬 217, 白癬罹患と陰囊皮膚 220, ダーマトームによる植皮術 237, 皮膚結核の統計と治療 238, オレアンドマイシンと性病 241, 老人性皮膚疾患 243, 毒蛾皮膚炎 253, カンジダ症の統計 246, 275, 病原系状菌の電子顕微鏡像 262, 抗療梅毒の臨床検査成績 269, 抗療梅毒の治療成績 273, 学童の皮膚病 276, 白癬の感染と陰囊皮膚の特異性 296, 梅毒の治療と予防 305, 皮膚カンジダ症 307, 抗療梅毒の諸問題 316, 児童の皮膚病 553, 病原系状菌の抗菌作用 555, ヒデゾールと白癬 564, 寒の地獄冷泉, 星生温泉, 中野温泉 571, 先天梅毒 598, 陰囊皮膚白癬 606, テラマイシンと梅毒 610, 668, 689, 頭部白癬 614, 新湯温泉 617, ローション基剤 665, 泥土皮膚炎 672, バイシリンと性病 679, 毳毛部爪白癬 688, 小児湿疹とコーチゾン 696, テラマイシンの作用機序 701, アクロマイシンと梅毒 709, 723, 梅毒血清診断法 722, レオシリンと急性淋疾 726, アイロタイシン, マグナマイシンによる駆梅毒実験 727, アイロタイシンと梅毒 729, 皮膚科学における治療法の進歩 734, 夏期皮膚疾患の治療 744, 皮膚結核の化学療法 753, 古湯, 熊の川温泉 758, アクサーゲル, アクサー Z 768, ビオチン 783, Eurax 軟膏 792, 植毛術 805, 白癬 816, 皮膚科領域の内用剤 825, アトピー皮膚炎 851, 梅毒血清反応 878, テトラサイクリン・メタリン酸塩 842, 副腎皮質ホルモン療法の後療法 866, 結節性紅斑の治療とその諸問題 869, 病原系状菌の電子顕微鏡学的観察 874, 学童の皮膚病の変遷 875, 真菌検査法 877, ヒドロクサン 898, バイシリン V<sub>2</sub>錠 902, アクロマイシン 923

## え

- 江口 昭二 ペニシリン・アレルギー 206, 抗療梅毒の臨床検査成績 269, 皮膚結核とネオイスコチン 716, イブシロン 737, 梅毒血清反応の統計 781, ペニシリンV内服錠 790, バイシリン・ペニシリンV混合錠 810, ペニシリン皮膚反応 838, Azunoi 軟膏 858, ポララミン複合錠 920, アレルギー性細胞脈炎 1054
- 江口 広久 RS 1401 AT 932
- 江本 侃一 鞏皮症 103, 限局性硬皮症 114, 尋常白斑の治療 134, 汎発性硬皮症と脳下垂体移植 530
- 遠城寺宗徳 小児科学 \*23

## お

- 大串 良士 格子線維 91, 495, 496, 掻痒と止痒剤 95, 成形性陰茎硬化症 486, 原発性剝脱性紅皮症 492, 色素異常症の格子線維 494, タウリン酸 504
- 大島 恒雄 テブロン, テブロンR 520, 私案第46軟膏 552, 坑内足部皮膚炎 381, 843
- 大橋 勝治 湿疹の統計 7, 12
- 大庭 寛 皮膚電気抵抗 703, 707
- 大曲 則之 湿疹, 皮膚炎群の統計 1137
- 岡 幸広 植毛術とその臨床的方面 274, スキン・テスト 315, Eurax-Hydrocortisone 軟膏 882, 植毛術の研究 911, 955, コンドロン 915, 副腎皮質ホルモン療法の長期観察 929, エスピー・ゲルン 935, 蕁麻疹の統計 943, 4-Methoxy-6-Sulfanilamido-Pyrimidine 964, 強力ミノファーゲンC 970, メラジニン 991, キモプシンバックル錠 1013
- 岡元健一郎 頭癬 55
- 奥野 勇喜 軟膏療法 \*4, 鞏皮症, 皮膚萎縮症, 皮膚形成異常症 \*14, 小児湿疹 122, 抗療梅毒 170, 血管性多形皮膚萎縮症 509, 陳久性潜伏梅毒 515, 大動脈弓注射療法 518, 特発性斑状皮膚萎縮症 543, 虫蝕様皮膚萎縮症 544, 汎発性後天性皮膚萎縮症 558, 眼瞼弛緩症 575, グリンポール 589, 興味ある症例 612, 顔面偏側萎縮症 635, 女子外陰部萎縮症 646, 免疫とくに抗菌免疫 649, 653, 皮膚科とビタミン 652, 色素性乾皮症 654, Klippel-Weber 症 659, 抗療梅毒 663, 性病の統計 678

## か

- 甲斐崎 勇 肺モニリア症 678, 肺結核と Candida 692, 803, カンジダ皮内反応 694, トリコマイシン

内服錠 759

- 加生 丈夫 ラジウム治療後の腫瘍形成 136, 強力ミノファーゲンC 565, 植毛術 622, VDRL 623, 泥土皮膚炎 672, 8-Azaguanine 695, 線維素溶解酵素 723
- 門 政嗣 小野氏梅毒著色反応 61
- 鎌田 理 グリセオフルビンの研究 1003
- 鎌田 義文 ビオゲラチン 108, グアノフラシン眼瞼白斑 123, 冷蔵皮膚移植療法 133, 579, 588, 冷蔵皮膚移植術 513, 色素性乾皮症 562, 痘瘡 581
- 蒲池八重子 水疱性疾患の統計 1116
- 金出明子(高良明子) デルモバンによる血管腫, ケロイドの治療 458, 水疱性疾患の統計 1116, Schweninger-Buzzi 型特発性斑状皮膚萎縮症 1148
- 河崎 可成 モリアミン 603, ペニシリンと性病予防 641, Klippel-Weber 症 659
- 河島 実 非定型的痘瘡疹 36

## き

- 菊池 和夫 抗ヒスタミン剤 111, 515, 525, 526, 527, 583, 593, 594, 皮膚腫瘍 160, マル 604, シンコルタの治療 609, 疣贅様表皮発育異常症 618, チョコラA 625, ネオレスタミン 639
- 菊池 武英 薬疹の統計 385, カナマイシンと梅毒の治療 428, TPHAテスト 1123, アセチルスピラマイシン 1142, 皮膚結核症の統計 1149, 梅毒反応 1152, ドレニゾンテープ 1163, ビブトラマイシン 1166
- 北村 憲一 梅毒のペニシリン療法 105, 584, 585, 抗療梅毒とコンムニン 563, 先天梅毒 588, シンコルタ 609, 疣贅様表皮発育異常症 618
- 北村 公一 皮膚カンジダ症 429, 足白癬の局所因子 431, ベンテロン 1015, M.P.O 軟膏 1039, ウンデシ酸ヨード 1059, 生毛部深在白癬 1060, Flonocortolne 軟膏 1066, 増殖性天疱瘡 1068, グリセオフルビンの局所皮内注射療法 1069, フェニール・11・ヨード・ウンデシノエートとその複合剤 1071, F.I. 6341 軟膏 1074, ケロイドとデキストラン硫酸剤の局注療法 1075, Coenzyme B<sub>12</sub> 1083, 頸部軟骨母斑 1087, 疣状白癬を合併せるカンジダ性肉芽腫 1090, 真菌症の統計 1091, 脱毛症の統計 1099, 動物寄生性疾患の統計 1107, 新ポリック液と軟膏 1108, リブロン・アクネ 1111, ポララミンクリーム 1114, 爪スコブラリオブシス症 1115, オバイリン 1120, TBK 液 1124, ピロエール軟膏 1126, オイ

## きへく

ラゾンD軟膏 1132, Siccanin 1134, フルピスタチンUF 500mg 1日1回投与 1135, Methylcobalamin 1146, Pimaricin 軟膏 1155, 星芒状小体のみられた白癬性肉芽腫 1165

木下 和之 痘瘡 581

清澄 寿 性病の統計 678

桐生 博光 乾燥血滴反応 505, トリコフィチン 547, 642, 児童の皮膚病 553, 石綿状癬 572, 梅毒凝集法 605, VDRL 623, 梅毒の陰蔽感染 681, 貧困者の梅毒 732

## く

国見 秀範 ビゼックス 666, 性病の統計 678

久保田利秋 腔内のカンジダ 777, 腔カンジダ症の研究 848

熊沢 浄一 Kanamycin 1113

栗田 諒一 Bleomycin の研究 447, 448, リファンピシジン 459, Trimethylpsoralen 1118, Aminodeoxy Kanamycin 1145

## こ

幸田 弘 FTA テスト 333, 梅毒の動態 345, 化学療法の進歩 349, 難治梅毒の治療 356, 最近の梅毒 362, 頸症梅毒の治療 377, Sporotrichum schenkkii と螢光抗体法の応用 379, 自己免疫とエリテマトーデス 380, 早期梅毒と新しい抗生物質 384, 早期頸症梅毒の治療 387, 真菌症とスポロトリコージス 388, 梅毒の動向 418, カナマイシンと梅毒の治療 428, 足白癬の局所因子 431, 炎症性皮膚疾患とプラスミン 438, コンドロン 915, ポララミン複合錠 920, RS1401 AT 932, タカリール 941, Vaccina generalisata 942, ゴム腫 958, FTA テストの研究 969, TPI テスト 972, RPCF テスト 981, 膠原病と急性エリテマトーデスの抗核因子 1025, エリテマトーデスの抗核因子 1028, 家族性良性天疱瘡 1031, エリスロシン 1034, 淋菌における螢光抗体法 1035, マトロマイシンT, シグママイシン 1038, 新鮮梅毒の年齢層と性別 1041, スピラマイシン 1049, アレルギー性細動脈炎 1054, 梅毒の統計 1076, FTAテストの研究 1077, Naevus epitheliomatosus sebaceus capitis Wolters 1106, Naevus lipomatosus cutaneus superficialis Hoffman-Zurhelle 1121, Dysgammaglobulinemia Type I 1122, Schweninger-Buzzi 型特発性斑状皮膚萎縮症 1148, 皮膚結核症の統計 1149, Warthin's Tumor 1151

郷野 博雄 ビタミンB<sub>12</sub> 181, モナフラシン・カーボワックス 528, ルチノンと凍瘡 551, ルチン 644, 645, 皮膚毛細管抵抗 655, 塚原温泉 757, 別府紺屋泥 764

合屋 長英 Dysgammaglobulinemia Type I 1122  
古賀 武 性病対策 256

小島 隆保 エラミン 621, 性病の統計 678

五島 忠安 耐性ブドウ球菌性感染症の処置 318, Phenoxypropyl Penicillin と Aminobenzyl Penicillin 346, ブドウ球菌感染症の問題 347, 内服用ペニシリンの効果 353, レダマイシン 368, 膿皮症の問題 370, 皮膚癌の化学療法 376, 378, 頭頸部癌の化学療法 392, ECHO ウィルス型2 396, 皮膚癌の治療成績 412, マイトマイシンCと皮膚癌 419, 葉疹 426, 癌化学療法 439, 油症の皮膚科学的症候論 444, Bleomycin の研究 447, 448, プレオマイシンと皮膚悪性腫瘍 454, ステロザン軟膏 856, Haemangioma verrucosum 917, Eksalb 927, ジメトキシフェニールペニシリン・アレルギー 934, プロピオン酸エリスロマイシンラウリル硫酸塩 951, 病原ブドウ球菌の研究 959, 4-Methylcxy-6-Sulfaryl amido-Pyrimidine 964, Periarthritis nodosa cutanea benigna 974, Kanamycin 1000, ハイビロックス注射液 1001, ビーゼット注射液 1014, Lincomycin 1040, 合成 Cephalosporin C 1067, ビタミンB<sub>2</sub> 酪酸エステル 1079, ビタメジン 1085, 癩の現状 1097, 悪性腫瘍と 5-Fluorourasil 1104, 病原ブドウ球菌と皮膚疾患 1109, グリメサゾン軟膏 1117, Trimethylpsoralen 1118, Anginin 1125, Doxycycline 1129, ジョサマイシン 1141, ライスオイルとカネクロール400の鶏における毒性試験 1143, Cephalixin 1144, Aminodeoxy Kanamycin 1145, 趾間白癬の生態学的研究 1156

後藤宏一郎 Actinomycosis Cutis 1089

小松 茂公 色素母斑, 色素沈着症の治療 155, 児童の皮膚病 553

小宗 義之 Dimethylsulforide 397, 全身性エリテマトーデスと汎発性鞏皮症の副腎皮質ホルモン療法 1020, グリコトロン軟膏 1052, DF 72 1058, Estagel 1061, Flincortolne 軟膏 1066, 0.05% セファランチン外用液 1078, ピロミジン錠 1081, 疣状白癬を合併せるカンジダ性肉芽腫 1090, 角化症の統計 1093

近藤 湘子 Polyiodin 軟膏と液 1164

権藤 健彦 シンコルタの治験 609, サンドペーパー

療法 675, 色素沈着症とハイドロキノン 718, 尋常  
白斑の局所療法 747

## さ

酒井 進 皮膚疾患と葉緑素 83, 竹乾溜液, 竹ター  
ール 74

酒井 孝 ザルコイドーゼスと Kveim 反応 323

榊原 三広 非定型的痘瘡疹 36

坂本 公孝 8-Azaguanine 695, 局所麻酔薬カロカ  
イン 710

佐藤 一夫 皮膚と美容 \*5, 軟下疳と抗生物質 157,  
693, 軟下疳とアイロタイシン 162, 抗生物質と性病  
166, 173, Aureomycin Triple Sulfas と淋疾 174,  
軟下疳 175, 650, レントゲン潰瘍の手術療法 176,  
ビールス性皮膚疾患の抗生物質療法 180, パラマイ  
シン軟膏 186, コールドパーマ障害 198, 750, バ  
イシリンと性病 679, 鼻翼欠損整形手術 743,  
Kynex 809

佐藤 克彦 Dimethylsulforide 397, プロピオン酸エ  
リスロマイシンラウリル硫酸塩 951, グリセオフル  
ピンの研究 1003, メチアデカル 1009, Lymphan-  
gioma circumscriptum 1011, 消炎剤の実験的浮腫  
と血管透過性に及ぼす影響 1012, 不飽和脂肪酸  
ONLE 1022, ONLE-20 1023, ノカルジア症  
1032, ポララミンクリーム 1056, Atarax 1057

佐野 琉治 腎盂乳頭腫 465, 腎臓石症例 467, 精液  
腫 468

サルトノ 下腿潰瘍の治療 470

## し

重松 信昭 ザルコイドーゼスと Kveim 反応 323,  
Kveim 反応の検討 351

篠 力 Pseudopelade Brocq 1139

ジュアリー フランベシア 472

白木 良男 ビタミン B<sub>2</sub>, B<sub>6</sub> 574, パス, チビオンと  
皮膚結核 597, 剥脱性紅皮症 636, 女子外陰部萎縮  
症 646, 免疫とくに抗菌免疫 649, 653, 色素性乾  
皮症 654, 生体内免疫現象 660

白水 玄明 Chalazion 1027

## す

末永 義則 足白癬の局所因子 431, デルモパンによ  
る血管腫, ケロイドの治療 458, ビタメジン 1085,  
爪スコブテリオブシス症 1115, TBK 液 1124, ピ  
ロエール軟膏 1126, HS-592 1130, オイラゾン D

軟膏 1132, Siccanin 1134, フルビスタチン UF  
500mg 1日1回投与 1135, HS 592 シロップ 1138,  
Gas chromatography によるグリセオフルピンの定  
量 1162

菅井 正憲 ズダバード 30

鈴木 勝久 瘢痕瘡 463, 紅斑性狼瘡瘡 464, 副睾丸  
結核 469

朱雀 直道 口腔癌と分芽菌 559

隅田 松子 Schweninger-Buzzi 型 特発性斑状皮膚萎  
縮症 1148

## せ

仙田 柳虎 頭髪部毛渦 256

## そ

曾田 豊二 中耳根治手術後に生じた脱毛症 931

## た

高井 俊夫 小児科学 \*24

高木 憲三 白癬罹患に関する陰囊皮膚特異性 220,  
296, 556, 562, 567, 568, リバノール皮膚炎 501,  
炭塵皮膚炎 575, バイシリン V<sub>2</sub>錠 902

高阪義一郎 補体を基体とした梅毒の血清学的研究 597

田崎 高伸 実験的ウイルス感染と胸腺摘出 1062, レ  
ントゲン潰瘍の悪性変化 1072, ビタメジン 1085,  
蛍光抗体法と組織培養法による単純疱疹ウイルスの検  
出 1088, 実験的ウイルス感染と免疫 1103, 湿疹,  
皮膚炎群の統計 1137, 単純疱疹の実験的研究 1153

高野 広英 新しい軟膏基剤 137, 白癬とニコチン軟  
膏 149, 色素母斑, 色素沈着症の治療 155, 皮膚腫  
瘍 160, 皮膚結核の推移 194, 月経疹 222, 水溶  
性軟膏基剤 392, 尋常狼瘡 397, ローション基剤  
455, 尋常瘡瘡とロバール 504, ビタミン A, D 外用  
療法 520, 軟膏使用と社会保険 552, ペニシリン V  
内服錠 579, 新型軟膏 582, 583, 584, バイシリン  
・ペニシリン V 混合錠内服 599

高橋 恭子(安川恭子) リファンピシリン 459

高森 通夫 竹乾溜液, 竹ターール 74, サルバルサン溶  
媒としての自家血液 79, 恥垢中スピロヘータと紡錘  
状桿菌 260, 静動脈血間の梅毒反応の差異 262

竹田 忠雄 疣贅の統計 480, 色素性乾皮症 484

田代 勝彦(浦橋勝彦) 円板状エリテマトーデスとビタ  
ミン K 711

谷口嘉久弥 先天性軸捻転腎 65, 尿路結石 462, 紅  
斑性狼瘡瘡 464, 腎盂乳頭腫 465, レックリングハ  
ウゼン病の家系 482

## たへと

- 玉井 恭子 8-Azaguanine と陰萎癌 751  
玉井 輝雄 性病対策 256  
多山 博 ACTH, コーチゾンの使用法 197, 寄生性毛癬 252, Griseofulvin の効果 277, 肛門周囲の皮膚疾患の治療 286, 白癬とホスカ・コーワ 658, 泥土皮膚炎 672, 皮膚糸状菌症とマーゾニン 686, 白癬とトリコマイシン 705, 尋常瘡癩とロパール 715, 梅毒血清診断法 722, 皮膚糸状菌症とアルバー軟膏 746, 古湯, 熊の川温泉 758, 強力ベネグサンと白癬 765, PMH 軟膏と皮膚真菌症 769, PMH 軟膏と色素沈着症 788, ベナカル B<sub>6</sub> 789, セム軟膏 821, 猩紅色菌 835  
樽見 幸郎 サンリバー 521, パス, チビオンと皮膚結核 597  
タン・エン・チー 熱帯潰瘍 471

## つ

- 津田 露 皮膚 pH 212, 740, 皮膚の中和能 749  
津田 正明 トリコマイシン内服錠 759  
坪井 尚 足菌腫 124, 白癬の治療 139, 178, 梅毒, 軟下疳とクロロマイセチン 140, 白癬とニコチン軟膏 149, 水虫の原因と治療 150, 白癬と逆性石鹼 152, 抗生物質と梅毒 164, ナイトロゼン・マスタートード皮膚炎 171, 絆創膏皮膚炎 183, 尋常乾癬の治療 189, ペニシリン・アレルギー 206, 夏期皮膚疾患 235, カンジダ症 250, 難治性汗泡状白癬の療法 264, Griseofulvin の効果 277, 糸状菌症の外用療法 279, 白癬症の薬物療法 284, グリセオフルビン治療の問題 290, グリセオフルビン療法 301, グリセオフルビンを中心として 302, 梅毒の治療と予防 305, ヒデゾールと白癬 564, 寒の地獄冷泉, 星生温泉, 中野温泉 571, 痘瘡 581, チェルズース禿瘡 587, 先天梅毒 598, 陰囊皮膚白癬 606, 職業性湿疹 613, プリングル病 630, 白癬とオロナイン 647, 白癬とウンデシレン酸アルコール溶液 651, 白癬とホスカ・コーワ 658, クロランフェニコールと梅毒 671, 677, 690, アスナロンと白癬 682, 皮膚糸状菌症とマーゾニン 686, アイロタイシンと梅毒 729, 気象と皮膚疾患 772, 療痕性皮膚疾患とコンドロイチン 784, セリア注 791, ニコチン酸 852, トリコクリームとローション 857, はたけ 863, C および CS 軟膏 862, パント錠 854, 副腎皮質ホルモン療法の後療法 866, 円柱腫 867, メタゾロン 876, デカドロン 880, チオクト酸 901, 爪白癬の治療 909

- 局 幹夫 デルモーゲンチンキ 656, 線維素溶解酵素 723, 802, 8-Azaguanine と陰萎癌 751, 梅毒血清反応の統計 781, チョコラ・ビオ B B 813  
津留 寿 糞便中の酵母菌 8

## と

- 土井 羊吉 皮膚レイシュマニア症 71, 先天性軸捻転腎 65, 簡易梅毒検査法 498, 睾丸回転症 507, 皮膚有棘顎口虫症 510, T.B.I 中毒疹 560, 性病統計 561, 梅毒診断法 569  
時枝 正昭 ケナコルト A 軟膏 872  
徳永 博己 カンジダ症 172, 721, 毒蛾皮膚炎 203, 老人性皮膚疾患の統計 243, 葡萄球菌の耐性 249, 泥土皮膚炎 672, Candida 毒性とコーチゾン 697, 704, 尿路カンジダ症 728, 古湯, 熊の川温泉 758, トリコマイシン内服錠 759, 気象と皮膚疾患 772, Chlorpromazine と感染症 830, ステロザン軟膏 856, 学童の皮膚病の変遷 875, ヒドロロンサン 898  
利谷 昭治 カンジダ症 172, 250, 721, 絆創膏皮膚炎 183, 尋常瘡癩のホルモン療法 218, カンジダ症の統計 219, 246, 275, 植毛術とその臨床的方面 274, 皮膚カンジダ症 307, 乾癬の種々相 404, デルモパンによる血管腫, ケロイドの治療 458, 肺モニリア症 676, アスナロンと白癬 682, カンジダ皮内反応 694, 皮膚結核とネオイスコチン 716, 皮膚糸状菌症とアルバー軟膏 746, 古湯, 熊野川温泉 758, トリコマイシン内服錠 759, PMH 軟膏と皮膚真菌症 769, PMH 軟膏と色素沈着症 788, ベナカル B<sub>6</sub> 789, エマホルム 804, 泉浴と皮膚機能 831, 瘡癩とジオール 855, ニコチン酸 852, エマ軟膏 865, 副腎皮質ホルモン療法の後療法 866, メタゾロン 876, デカドロン 880, 皮膚病と温泉治療 1082, 汎発性膿疱性乾癬 1095, ピロミジン 1102, リプロン・アクネ 1111, Cepharanthin 1150, 面皰母斑 1157  
都外川幸雄 化学療法の進歩 349, 難治梅毒の治療 356, スピロヘータの検査法 359, 最近の梅毒 362, 顕症梅毒の治療 377, Sporotrichum Schenkii と螢光抗体法の応用 379, 自己免疫とエリテマトーデス 380, 真菌症とスポロトリコジス 388, 梅毒の動向 418, カナマイシンと梅毒の治療 428, デルモパンによる血管腫, ケロイドの治療 458, TPI テスト 972, RPCF テスト 981, メチアデカル 1009, プリモボランとプリモボラン・デポー 1010, Subcutaneous Fibrosarcoma 1019, 膠原病と急性

エリテマトーデスの抗核因子 1025, エリテマトーデスの抗核因子 1028, エリスロシン 1034, マトロマイシン T, シグママイシン 1038, 乳房のペーজেット病 1046, スピラマイシン 1049, Estergel 1061, 合成 Cephalosporin C 1067, 梅毒の統計 1076, 代謝障害性疾患の統計 1100, Kanamycin 1113, Trimethylpsoralen 1118, TPHA テスト 1123, アセチルスピラマイシン 1142, 皮膚結核症の統計 1149, ビブラマイシン 1166

富川 博 ザルコイドーシスと Kveim 反応 323,

蕁麻疹の統計 943

友田 正信 外科学総論 \*15

## な

永井 琢郎 メルカプト錯酸ソーダ 719, ミカロン 742, 皮膚白血病 739, 別府白湯温泉 756

永瀬 泰三 モナフラシン・カーボワックス 528, いも類蛋白質のアミノ酸組成 800

永嶋 哲二 Angioblastoma 1030

中垣 謙一 皮膚疾患の地理病理学的検討 417, デルモバンによる血管腫, ケロイドの治療 458, レミダーム 1084, セレスタミン 1065, 悪性腫瘍と 5-Fluorourasil 1104, Celestamine Sustained Release Capsules 1109, 水疱性疾患の統計 1116, グリメサゾン軟膏 1117, 8599-RP 1119, 気象の皮膚感染症に及ぼす影響 1161, ドレニゾンテープ 1163

中川 俊二 皮膚科における精神身体医学 427

中島 権一 Multiple superficial basal cell epithelioma 1053

中尾 泰三 胎生性軟骨萎縮症 580, ベラグラ精神病 590, フグ中毒と乾癩 611, デルモーゲンチンキ 656, 無辜梅毒 661, 油性ペニシリンと輸血梅毒 680, レオンリンと急性淋疾 726

中野 進 カンジダ症の統計 219, 夏季皮膚疾患 235, 抗療梅毒の臨床検査成績 269, 抗療梅毒の治療成績 273, Griseofulvin の効果 277, グリセオフルビン治療の問題 290, グラマイシン軟膏 738, エリテマトーデスの統計 746, 胃癌の皮膚転移例 766, ウルソデゾキシコール酸 770, 鞏皮症の成形手術 771, 痤瘡とシナホリン錠 774, 白血病と汎発性カンジダ症 776, 梅毒血清反応の統計 781, 瘢痕性皮膚疾患とコンドロイチン 784, 尋常痤瘡とヴィーナス錠 796, 皮膚科領域の内用剤 825, ペニシリンの副作用の予防 833, はたけ 863, アレルギー検査法 879, パント錠 854, C および C S 軟膏 862, オイ

ナール 844, 皮膚ブレーニング法 861, 副腎皮質ホルモン療法の後療法 866, 円柱腫 867, オロトサン 868, リール黒皮症 870, オルガドロン 871, 病原糸状菌の電子顕微鏡学的観察 874, メタゾロン 876, デカドロン 880, パントール 889, 900, パールファイン軟膏 892, ヒルドイド軟膏 903, ハイスタミン R 912, バリダ反応 925, あせも, とびひの治療 926, 副腎皮質ホルモン療法の長期観察 929

中野 拓 壮年性脱毛症の治療 177, リグラ状幼裂頭条虫症 549

中溝 慶生 塚原温泉 757, 鉱泉性皮膚炎 760, 別府紺屋泥 764, 気象と皮膚疾患 1029, 蛋白同化ステロイドと副腎皮質ホルモンとの併用療法 1042, 多形滲出性紅斑と気象, 皮内反応 1051

中牟田秀孝 皮膚癌の統計 725, 8-Azaguanine と陰茎癌 751, 皮膚癌の組織学的研究 799

中山 晴道 軟膏療法 \*4, 新外用薬 89, 膿疱疹 548

中山 靖佐 白癬とニコチン軟膏 149, 血清鑑模様 514, 533, 534, 535, 536, 537, 538, T.B.1. 中毒疹 560, 性病統計 561

鍋島 新一 栄養失調症の皮膚変化 73

## に

西 忠臣 乳児寄生菌性紅斑 99

西尾 一方 真菌病学 \*9, Predonine, Predonisolone 202, プレドニン軟膏 216, ダーマトームによる植皮術 237, Incontinentia pigmenti 232, 汎発性種痘疹 322, 水疱症と欧米の知見 403, 白癬とトリコマイシン軟膏 705, ハイドロコチゾン局所療法 714, 慢性皮膚疾患と胎盤漿 720, 白癬と赤平軟膏 736, 皮膚白血病 739, 松原癌反応 775, Acanthosis nigricans 780, 低周角脈波療法 811, カルチノフィリン 817, 鼠径表皮菌の産生する抗生物質 827, 828, 829, Vistrin 849, Acromegalie をともなう脳回状皮膚 885, 汎発性皮膚石灰沈着症 888, 若年者にきた基底細胞癌 890, 肺転移をきたした腺癌 893, ウェパー・クリスチャン病 894, Brado 895, 紅色肥厚症 905, シーズン錠 908, Morphoea 症 910, 脱毛症の治療 916, Haemangioma verrucosum 917, 水野・高田培地 919, Erythrodermie congenitale ichthyosiforme 924, 副腎皮質ホルモン療法の長期観察 929, Vaccina generalisata 942, Melanomalignom 947, Reticulosarcoma cutis 953, 異物沈着 956, 多発性皮膚平滑筋腫 961,

に〜ひ

Necrobiosis lipidica 962, ビクラザルベ 966, Periarthritis nodosa cutanea benigna 974, Nevoxantho-endothelioma 978, Pseudoxanthoma elasticum に併発した Elastosis Perforans 986, 汎発性帯状疱疹 995, 指間にみた Bowen 病 996, Clear cell myoepithelioma 998, 顔面に発生した Lichen nitidus 1002, Penis tuberculid 1008, Lymphangioma circumscriptum 1011, Carcinoma basocellulare adenoides 1016, Subcutaneous Fibrosarcoma 1019, ケロイドの治療 1026, Chalazion 1027, Angioblastoma 1030, ノカルジア症 1032, Granuloma pyogenicum 1037, 良性非母斑性黒色上皮腫 1045, 乳房のペーজেット病 1046, Multiple superficial basal cell epithelioma 1053, レントゲン潰瘍の悪性変化 1072, 細胞浸潤の様式 1096, Naevus epitheliomatosus sebaceus capitis Wolters 1106, Naevus lipomatosus cutaneus superficialis Hoffman-Zurhelle 1121, Apocrine Hidrocystoma 1136, Pseudopelade Brocq 1139, Warthin's Tumor 1151, 皮膚腫瘍, とくに病理組織を中心として 1159  
西尾 武 皮膚結核症の統計 1149, 梅毒反応 1152, ビブラマイシン 1166  
西園 泰久 円板状エリテマトーデスとビタミンK 711, 坑内労働とビタミン B<sub>2</sub> 代謝 807  
西原 肇 重複腎 63

## の

納富 昭光 足白癬の局所因子 431  
野田 治雄 ソルミノール 121, 大動脈弓注射療法 518, 伝染性軟腫の研究 891  
野津 徹 Anginin 1125, 脈なし病に合併した壞疽性膿皮症 1131  
野間 祐輔 梅毒のペニシリン療法 85, 慢性蕁麻疹 106, 軟膏療法 113, 新しい軟膏基剤 137, 女子顔面黒皮症 489, 567, モナフラシン・カーボワックス軟膏 528, 親水軟膏 529, 皮膚科領域の検査法 556, アレルギー検査法 570, 痘瘡 581, 586, 水溶性軟膏基剤 602, 薬疹 755  
野見山主計 剥脱性紅皮症 636

## は

波多野裕敏 新潟温泉 617  
蜂須賀茂彦 抗ヒスタミン剤 84, 皮膚病の温泉療法 128, 腸内細菌ワクチンと蕁麻疹 491, 別府紺屋地獄

泥 532  
花岡 宏和 Polyodin 軟膏と液 1164  
花田 豊 新抗生物質による性病の治療 166, 抗ヒスタミン剤 483, ペニシリンの体液, 組織内濃度 628, 669  
馬場 真澄 白癬とトリコマイシン軟膏 705  
林 敢為 性病の統計 678  
原 恒彦 アクロマイシンと梅毒 709, 923, 慢性皮膚疾患と胎盤漿 720  
原 宣之 副腎皮質ホルモン療法 \*8, グリセオフルビン療法 301, 抗白癬剤 335, 微粒子 Griseofulvin 342, 343, 薬疹の統計 385, Dimethylsulfoxide 397, 汎発性皮膚石灰沈着症 888, 複合ハービタ顆粒 933, 複合ハービタ 939, Betamethasone 960, 白癬菌の直接鏡検と Acridine orange 染色法 984, 弾力線維性仮性黄色腫に合併した Elastosis perforans serpiginosa 987, 時計バンド皮膚炎 988, SQB 軟膏 993, ベンチロン 1015, Aristocort diacetate 1018, 全身性エリテマトーデスと汎発性鞏皮症の副腎皮質ホルモン療法 1020, 不飽和脂肪酸 ONLE 1022, ONLE-20 1023, 内用薬ベトネゾール 1043, 外用剤ベトネゾール 1044, メサルモン錠 1047, Flumethasone 軟膏 1050, グリコートン軟膏 1052, ポラミンクリーム 1056, Atarax 1057, DF 72 1058, ウンデシン酸ヨード 1059, 生毛部深在白癬 1060, Estergel 1061, Toxic epidermal necrolysis 1063, Flncortolne 軟膏 1066, フェニール・11・ヨード・ウンデシノエートとその複合剤 1071, F.I.6341 軟膏 1074, 皮膚反応と NAPP 1084, Male Pattern Baldness 1086, 頸部軟骨母斑 1087, Actinomyces Cutis 1089, 疣状白癬を合併せるカンジダ性肉芽腫1090, 角化症の統計 1093, 真菌研究に関する螢光顕微鏡法の応用 1101, Acne Deme lotion と Cleanser 1127  
原田 暢三 分芽菌性指趾間癩爛症 566, 599, 632, 708, 両側性帯状疱疹 637

## ひ

稗田 一夫 サルバルサン自家血液溶媒法 116, サルバルサンの血液凝固阻止作用 508  
東 健一 足部坑内皮膚炎 546  
樋口 成幸 簡易梅毒反応検査法 120, 膿疱疹の年次的変動 503, リグラ状幼裂頭条虫症 549  
日高 正昭 Kanamycin 1113  
兵働 貞夫 痘瘡 581



平田 晴夫 色素失調症 131  
 平山 典輔 レックリングハウゼン病の家系 482  
 弘中 哲也 新化学療法剤と皮膚結核 94, ブック良性  
 類肉腫 100, 色素失調症 131, 職業性痤瘡様皮膚症  
 状 488, 化学薬品性皮膚障害 506

## ふ

伝 祖恭 クロロフィリン・ポタシウムの治験 698,  
 バイシリン・ペニシリンV混合錠 810, 鞏皮症の成  
 形手術 771, 梅毒血清反応の統計 781, 癩痕性皮膚  
 疾患とコンドロイチン 784, ペニシリンV内服錠  
 790, Contomin, Hiberna, Contomin-Hiberna 軟  
 膏 798, クロロフィリン・ポタシウムの研究 819,  
 823  
 福田 正博 梅毒反応 1152  
 福永 武志 内用薬ベトネゾール 1043, 外用剤ベトネ  
 ズール 1044, メサルモン錠 1047, Flumethasone  
 軟膏 1050, グリコートン軟膏 1052  
 藤 豊 白癬の感染源 812, 自衛隊の白癬 818  
 藤野 博 ブック類肉腫とエリテマトーデス 104  
 淵 曠二 ハイピロックス注射液 1001, ビーゼット  
 注射液 1014, 全身性エリテマトーデスと汎発性掌皮  
 症の副腎皮質ホルモン療法 1020, ヒルクリーム 1036  
 古川 幸 鞏上体のホルモン様作用 154, 小児湿疹  
 619, 鞏上体の機能 629  
 古河 昭司 肘窩下溝 761  
 ブンジャミン ノルウエー疥癬 473, 癩患者のビタミ  
 ンA, カルチノイド量 474, 癩患者のビタミンC量  
 475, 癩検疹 476, 癩診断法 477, 癩の初感染巣 478

## ほ

朴 己出(光本重信)先天性対側性色素異常症 26, 蕁  
 麻疹性紫斑 33, トリコチロマニー 28, サットン白  
 斑 34, 遠心性圏状紅斑 29, 後天性癒着性包茎  
 37, アグラスロチトーゼ 31, 淋疾の化学療法 38,  
 胎生的腎臓混合腫瘍 24  
 星本 亨淳 リグラ状幼裂頭糸虫症 35, 顔面乳嘴状潰  
 瘍性膿皮症 42, 小児ストロフルスとミノファージェン  
 C 49, 水銀燻蒸療法 50

## ま

前原 東作 頑癬 55  
 前原 裕 抗ペニシリン性淋疾 595  
 真崎 光雄 抗ペニシリン性淋疾 595, 緒方定量法  
 601, 615, 633, 638, 624

増山 守 ヒドラジッド 626, プリングル病 630  
 松崎 統 Apocrine Hidrocystoma 1136  
 松田 正三 歯周症と皮膚疾患 320, ビールス性皮膚  
 疾患 142, 痘瘡 581, 尿路カンジダ症 728  
 松田 訓行 円板状エリテマトーデスとビタミンK  
 711, コールドパーマ障害 750, Candida 属の薬剤耐  
 性 850  
 松村 武正 スキン・テスト 315, ザルコイドー  
 ジスとKveim 反応 323, 蕁麻疹の統計と諸テスト所見  
 329, ブリック・テスト 337, シノミン軟膏 918,  
 蕁麻疹の統計 943, アレルゲン・エキスによる皮内  
 反応 948, 979, 997, 1004, AH 611 999, 蕁麻疹  
 治療 1055, ポララミンクリーム 1056, 混合アレル  
 ゲン・エキスによる皮内反応 1070  
 松本 亀雄 鈹泉性皮膚炎 14  
 松本 忠 児童の皮膚病 553  
 松本 忠彦 Toxic Epidermal Necrolysis Lyell  
 1147, Polyiodin 軟膏と液 1164  
 丸岡 和也 薬疹の統計 385, Dimethylsulfoxide  
 397, Pyoderma gangrenosum 1017, ビルスミン  
 1021, 内用薬ベトネゾール 1043, 外用剤ベトネゾ  
 ール 1044, メサルモン錠 1047, Flumethasone 軟膏  
 1050, フェニール・11・ヨード・ウンデシノエートとそ  
 の複合剤1071, 0.05%セフェラチン外用液 1078, ビ  
 ロミジン錠 1081, 皮膚反応とNAPP 1084, 角化症  
 の統計 1093  
 丸岡 紀元 職業性皮膚病 \*19

## み

三上 正夫 Dysgammaglobulinemia Type I 1122  
 右田 隆二 ヒルドイド軟膏 903, 淋菌における螢光  
 抗体法 1035  
 御厨 正夫 ゼム軟膏 821, エマ軟膏 865, Dermopan  
 療法 883, パールフェイン軟膏 892, 肺転移をきた  
 した腺癌 893, Morphoea 症 910, ハイスタミン  
 R 912, Erythrodermie congenitale ichthyosi-  
 forme 924, Dermopan 療法の実験的研究 940,  
 Chymar 軟膏 950, キモトリプシン軟膏とキモトリ  
 プシン注 963, コスモパンの皮膚科的応用 965  
 水野 守男 T.B.1 中毒疹 580, 性病統計 561  
 光本 重信 皮膚内骨形成 41, ホルムアルデヒド高張  
 葡萄糖液 48, ベラグラ 461  
 皆見紀久男 毒蛾皮膚炎 203, ペニシリン・アレルギー  
 206, 745, 抗療梅毒の臨床検査成績 269, 抗療  
 梅毒の治療成績 273, ザルコイドー  
 ジスとKveim 反

## み～や

応 323, FTA テスト 333, 梅毒の動態 345, 化学療法の進歩 349, Kveim の検討 351, 難治梅毒の治療 356, 最近の梅毒 362, *Sporotrichum schenkii* と蛍光抗体法の応用 379, 強力パニールチン 634, コーチゾン 648, 性病の統計 678, *Acanthosis nigricans* 780, 梅毒血清反応 781, 878, 945, P<sup>32</sup> と血管腫 785, ペニシリン V 混合錠 790, 810, 癩の血清反応 797, 火傷皮膚炎 814, プラスゲン L 824, アレルギー検査法 879, Azunol 軟膏 858, オイナール 844, グリチロン錠 846, 皮膚プレーニング法 861, リール黒皮症 870, ヒルドイド軟膏 903, パリダ反応 925, あせも, とびひの治療 926, 中耳根治手術後に生じた脱毛症 931, 水虫の治療 937, 脱毛症治療 944, 梅毒血清反応の統計的観察 954, Chymar 軟膏 950, 顔面黒色症 957, ゴム腫 958, キモトリブシン軟膏とキモトリブシン注 963, コスモパンの皮膚科的応用 965, 強力ミノファーゲン C 970, 掌蹠膿疱症 977, RPCF テスト 981, 白癬菌の Acridine orange 染色 983, 弾力線維性仮性黄色腫に合併した *Elastosis perforans serpiginosa* 987, プリモボランとプリモボラン・デポー 1010, キモブシンパッカル錠 1013, ビルスミン 1021, SLE の抗核因子 1024, 膠原病と急性エリテマトーデスの抗核因子 1025, エリテマトーデスの抗核因子 1028, 家族性良性天疱瘡 1031, エリスロシン 1034, 淋菌における蛍光抗体法 1035, ヒルクリーム 1036, マトロマイシン T, シグママイシン 1038, スピラマイシン 1049

皆見 省吾 皮膚病性病学 \*3, 酵母菌性間擦疹 2, 酵母菌性肛周湿疹 10, 狼瘡様毛瘡の病原体 4, 5, 渦状癬 13, 陰茎エリトロプラジー 23, 火焼輪知泉液 6, 皮膚科の臨床を聞く 266, 最近の顕症梅毒 355

三宅 博 外科学総論 \*15

宮崎 義男 *Acrodermatitis enteropathica* 208, ビフロキシシン 657, ビタミン B<sub>2</sub> 代謝 730, 735, 作為的皮膚疾患 733, 泥土皮膚炎 672, 性病の統計 678, ニコチン酸製剤と凍傷 752, 火傷皮膚炎 814

宮原 力 癩の現状 1097

## む

村上 邦夫 腋臭症の治療法 640

村上 義親 梅毒と肺結核 127

村本 修敬 *Phenoxypropyl Penicillin* と *Amino-benzyl Penicillin* 346, レダマイシン 368, 皮膚

癌の化学療法 378, マイトマイシン C と皮膚癌 419, カナマイシンと梅毒の治療 428, リフテンピシン 459, 紅色肥厚症 905, アドクノンパスタ 907, ペリアクチン 921, *Pachydermatocele* 938, 蕁麻疹の統計 943, *Kamamycin* 1000, 1113, ビルスミン 1021, *Lincomycin* 1040, *Homochlorcyclizine* 1048, 合成 *Cephalosporin C* 1067, ビタメジン 1085, 悪性腫瘍と 5-Fluorourasil 1104, *Doxycycline* 1129, ジョソマイシン 1141

村山 真平 ビタミン B<sub>12</sub> 181, 梅毒の抗生物質耐性獲得 762

村山 玄人 尋常痤瘡の成因と治療 145, 慢性乳嘴状潰瘍性膿皮症 490, 尋常痤瘡の統計 539, 尋常痤瘡 540, 541, 542, 573, 582, 592, 600, 608, 黒色表皮腫悪性型 545, チョコラ A 625

## も

持尾 長年 抗ヒスタミン剤 84, 脳迴転状頭皮 493, 皮膚疾患と尿酸 499, 500

望月 仁三 宗反応 487

百瀬 俊郎 尿路カンジダ症 728

森 良一 実験的ウィルス感染と胸腺摘出 1062, 蛍光抗体法と組織培養法による単純疱疹ウィルスの検出 1088, 実験的ウィルス感染と免疫 1103

森田 耕作 梅毒血清反応 878, TPHA テスト 1123, 梅毒反応 1152

森本 藤一 デルモーゲン 93, 白癬菌のプレオモルフィー 110, 522, 523, 524, 白癬の新薬 550, 痘瘡 581

師井 庸夫 グリセオフルビン治療の問題 290, 抗白癬剤 335, Kveim 反応の検討 351, パリオチン軟膏 899, シノミン軟膏 918, 中耳根治手術後に生じた脱毛症 931, 複合ハービタ顆粒 933, 複合ハービタ 939, 脱毛症治療 944, アンゲントール・ゼリー 971, グリチロン錠 975, コレトン 982, 白癬菌の呼吸に関する研究 989, 1%グリチルレチン軟膏 990, SQB 軟膏 993, ケロイドの治療 1007, *Carcinoma basocellulare adenoides* 1016

## や

安川 典宏 足白癬の局所因子 431, デルモパンによる血管腫, ケロイドの治療 458, 脈なし病に合併した壊疽性膿皮症 1131, 星芒状小体がみられた白癬性肉芽腫 1165

安田 勝 蕁麻疹の統計 385, 足白癬の局所因子 431,

- Coenzyme B<sub>12</sub> 1083, 皮膚反応と NAPP 1084, 新ポリック液と軟膏 1108, ホララミンクリーム 1114, 爪スコプラリオプシス症 1115, オバイリン 1120, TBK 液 1124, ピロエール軟膏 1126, 脈なし病に合併した壞疽性膿皮症 1131, オイラゾン D 軟膏 1132, フルビスタチンUF 500 mg 1日1回投与 1135, 足部白癬の発症に関係する生体側局所因子の研究 1140, 第2期梅毒疹 1154, ペラグラによる Transverse leukonychia 1160
- 安永 一弥 チョコラ・ピオBB 813
- 安元 健児 T.P.I. テスト 195, 泥土皮膚炎 672
- 矢永 正憲 抗ヒスタミン剤 474
- 矢野 豊 工場白癬 834, テトラサイクリン・メタリン酸塩 842, シノミン 859
- 矢幡 敬 抗白癬剤 335, 微粒子 Griseofulvin 342, 343, 344, 967, 黒痣の治療法 367, Eksalb 927, 副腎皮質ホルモン療法の長期観察 929, Necrobiosis lipoidica 962, プリモジアン錠 973, MPO 992, ケロイドの治療 1007, Pyoderma gangrenosum 1017, M.P.O 軟膏 1039, セレスタミン 1065, グリセオフルピンの局所皮内注射療法 1069, 真菌症の統計 1091, ピロニールニトリン製剤 1092, ダンパD軟膏 1094, 脱毛症の統計 1099, ピロミジン 1102, 植皮と植毛術 1105, 動物寄生性疾患の統計 1107, 新ポリック液と軟膏 1108, Celestamine Sustained Release Capsules 1109, リプロン・アタネ 1111
- 山崎 学 蕁疹の統計 385, Anginin 1125, トランサミン 1128, 脈なし病に合併した壞疽性膿皮症 1131
- 矢村 卓三 蕁麻疹の治療 \*12

## よ

- 吉住 正子 植毛術とその臨床的方面 274, グリセオフルピン治療の問題 290, ザルコイドーガスとKveim 反応 323, 抗白癬剤 335, Sporotrichum schenkii と螢光抗体法の応用 379, 真菌症とスポロトリコーガス 388, スルキシシン 873, Eurax-Hydrocortisone 軟膏 882, キャベジンU 884, 白癬アレルギーの研究 896, 946, バリオチン軟膏 899, チオクト酸 901, ZemA 軟膏 904, アドクノンパスタ 907, シーズン錠 908, 強力ポポ 913, 水野・高田培地 919, ビアン 922, ビタミンU軟膏 928, オクソラレン 936, 蕁麻疹の統計 943, 家族性良性天疱瘡 1031, ノカルジア症 1032, シービーエム注射液

- 1033, Sporotrichum Schenkii と螢光抗体法の実験的研究 1073, 汎発性膿疱性乾癬 1095, 湿疹, 皮膚炎群の統計 1137
- 吉田 正夫 梅毒のペニシリン療法 105, 皮膚結核の化学療法 168, 輸血梅毒感染防止 291, マハルゼンとサルバルサンの効力比較 511, 512, 強力ミノフェーゲンCと尋常座瘡 662
- 吉田 守男 抗療梅毒の臨床検査成績 269, Griseofulvin の効果 277, 抗療梅毒の諸問題 316, FTA テスト 333, Eurax 軟膏 792, Trypure Novo 801, プラスゲンL 824, レスタミンA軟膏 847, オレアンドマイシンと性病 840, セファランチンと円形脱毛症 860, 皮膚ブレーニング法 861, エマ軟膏 865, カナマイシン 886, アイロゾン 887, Brado 895, DQ 308, 897, バイシリン V<sub>2</sub>錠 902, 梅毒血清反応の人工的動揺 906, 949, バリダ反応 925, RS1401 AT 932, タカリール 941, ゴム腫 958, TPI テスト 972
- 吉永 博幸 蛋白同化ステロイドと副腎皮質ホルモンとの併用療法 1042, K-APL 1112, Lepromatous Leprosy 1133, 湿疹, 皮膚炎群の統計 1137, Acanthosis nigricans benigna の家族例 1158
- 吉松 孝治 抗生物質と多形滲出性紅斑様疹 664, チフォミン, ビタミンB<sub>2</sub>の局所注射療法 674
- 吉峯 秀隆 梅毒の抗ペニシリン性獲得と無症状感染 643, 685, 梅毒の無症状感染例 687
- 芳野 隆 Vistrin 849

## り

- 劉 宗輝 バイシリン・ペニシリンV混合錠 810, シスカル 820, オイナール 844, 炎症性皮膚疾患の遊走細胞 837

## わ

- 分山 宏道 良性非母斑性黒色上皮腫 1045
- 和田 竜男 白癬とウンデシレン酸アルコール溶液 651, チスカル, メチカル 667, 小児湿疹とコーチゾン 696, メチアデカル 700, 局所麻酔薬カロカイン 710, ハイドロコーチゾン局所療法 714, アクサーゲル, アクサーZ 768, 梅毒血清反応の統計 781, 円形脱毛症の統計 782, 齒槽膿漏と皮膚疾患 787, チョコラ・ピオBB 813
- 和田 智来 椰子油と鼠癬 60, 癩の初感染巣76, 大学生の梅毒血清反応 51, 小野氏梅毒著色反応 61, 齒周症と皮膚疾患 320

わ

渡部智俱人 脳下垂体移植と脱毛症 97, 568, 乳児寄生菌性紅斑 89, 502, 脱毛症の治療 118, 分芽菌性腔外陰炎 497, 口腔癌と分芽菌 559, 家兎脳下垂体剔出法 627, 分芽菌の発毛効果 631



## 樋口教授と久留米大学との関係

布 施 四 郎

樋口教授が此の度、九大を勇退せられるのは実に淋しい感じがする。おもえば昭和17年末私が九州医専より南方診療団(図南会)の指導者として、スマトラへ出張するために其の留守役として、皮膚科泌尿器科の講義を、当時九大助教授の樋口氏にお願いした。翌18年樋口氏はジャバの医科大学で板垣学長の所へ教授として転任せられた。終戦となり私は21年復員して講師の荒川忠良博士と交替して久留米大学教授となり、翌年国立久留米病院長に転じた。私の後任として、再び復員中の樋口氏を国立大村病院より招き、久留米大学教授となって頂いた。23年皆見教授が九大を退いて開業せられたので、樋口氏が九大教授となられ、今日まで23年間勤続せられた。私は24年開業して今日に及んだ。

以上は戦争を中心としての小さな出来事ではあるが、2度も私の後任者としてよくつくして頂いたことを改めて感謝する。

樋口氏は寛大温厚で太っ腹の所は単なる学者としてだけでなく、人情に厚く、専門の学問は勿論、日本及び世界皮膚科学界に於て、又経営、社交、文筆に秀でて種

々なる業績を挙げていられる得がたき方である。

久留米大学も樋口教授の教え子なる故奥野勇喜教授、次に現在の占部治邦教授を推挙せられ次第に発展しつつある。

前述の如く樋口氏が久留米大学に2度も来て頂き、1度はジャバ大学教授として、次は九州大学教授として御栄転になったことはわれわれも気強く且つ愉快地思う次第である。

氏はかつて話の中で「自分は細く長く生きるよりも太く短かく生きたい」と云われたが今日になって過去を眺めて見ると「太く長く」生きて来られた事は誠に目出度いことである。

凡そ九大皮膚科の教授は初代旭教授が停年前に亡くなられ、2代皆見教授も途中で開業されている。独り樋口教授が初めて3代目として立派に御役目を果されて此の度勇退されることを見て誠に嬉しく今後も未長く益々御壮健に御多幸ならん事を衷心よりお祈り致します。

(大正12年卒・久留米市開業)

## 樋口教授の退官によせて

伊 藤 嘉 夫

このたび樋口教授には20余年の長い教官生活を無事まっとうされ九大を定年退官されることになった。定年退職は九大の内規に基ずくものとはいえ実に惜しい気がする。しかしこれで学問の分野とおさらばするわけではなく、いってみれば一応学問の還暦を迎えられたようなもので、まだまだ将来は長く古稀も喜寿もある。今後益々御元気で学会のため後進の指導に活躍されることと思う。これまでの教室における学問上の偉大な業績や外交手腕については十分知れわたっているところであるので今ことさら駄弁を要しないので割愛する。ただ一言追加するとすれば、その門下生に多数の優秀な学徒を養成されたことである。私などは戦前派の古い部類の人間であるせいか、門下生に有望な人材を育成することに大変な喜びと誇りを感じている。その点樋口教授は大変羨しい限りだと思っている。

それにつけても今日までの御苦勞は大変なことであっ

たと思う。ことに御苦勞といえは退官数年間に起った大学紛争がある。不幸にもその学園紛争の最盛期に遭遇され、心知れぬ心痛があったことと思う。私などは大学紛争の起る以前に退官したうえ、研究所という狭い殻の中に閉じこもって生活していた関係上紛争の真の姿は知る由もなく、又とやかく批判する資格も持ち合せてはいないが、とにかく大変御苦勞されたであろうことは察することができる。この際あわせてその勞をねぎらいたいと思う。

休話閑題、私個人としても又公的にも大変御世話になっているし御迷惑もかけ通しであったし、又想い出話しも枚挙にいとまのない程あるが紙面の関係上今回は割愛させて頂くが、ただこの機会を利用して改めて深謝の意を表します。ただ一つ樋口教授の性格の一端を知る事実として私の最も感心しているひとことを申し述べたい。

私は元来ズボラで無頓着な人間にでき上っているの

付

録

で、手紙の返事を書くのが大変きらいである。勿論自分の悪筆なことを知っているので自然無意識裡に返事をおくらせることになる。相手に取っては大変失礼なこと、そのため大事な要件も時には用をなさなくなることもさえある。その点樋口教授はどんなにお忙しい時でも折返しすぐ返事を書かれると見えて、一寸した用件をお頼みしても必ずと云ってよい程すぐさま返事を頂く。平常お忙しいことは常にスケジュールを携帯ノートに克明に記載しておられ、そのスケジュールに従って毎日を多忙にかかめぐっておられる事は十分わかっている、にもかかわらず返事だけは必ず書かれるのには感心させられる。樋口教授自身はごくあたりまえのことと思っておら

れるかも知れないが、私などはとてもできることではない。樋口教授の返事をいただくたびに自分に自身いつも反省するのであるが、なかなかこの習慣は身につかない。今後は樋口教授に真似てせいぜい返事だけはすぐ出すよう心掛けたいと思っている。

樋口教授の九大退官に当って何か思い出話を書くよとのことであつたが、とりとめもない自分勝手なことばかり書いて実にすまぬ事であるがお許しを得たいと思う。

(昭和5年卒・元九大教授、

現ステーションクリニック)

## 樋口教授独乙留学時代の思出

重 松 俊

1957年(昭32)8月私がウィーンの独乙泌尿器科学会50年祭に出席すべく、北廻りのヨーロッパ行き飛行機で、羽田空港をたち、アンカレッヂ、コペンハーゲン、フランクフルト、ミュンヘンと飛んで空港に降り、手紙で教授の出迎を御願ひして居たが、見えなくバスでターミナルまで行った。その時の心細いこと今でも忘られない。独乙語には自信を持って居たが、話してもさっぱり通ぜず、じっと腰かけて居たらホテルから番頭らしい男が迎えに来てくれた。室に落着いてから樋口教授を訪問すべく大学のクリニックを訪ねたところ、最初の処はここでないと言われ、教授の居るところを教えてくれた。外国はいつも門の扉が閉じられていて相当の力でおさなければ開かない。ここもそうで、受付には誰もおらず、階段を上った左手の室に誰か居るらしいので、そこでたずねた。女が出て来て Prof. 樋口は旅行しているという。帰りにはタクシーがどれやら分らず、少し暗くなりかけて益々心細く、樋口教授も罪人よと思つたことでした。やっとホテルまで帰り、気づかれてベットで眠っていると夜の8時頃だったろうか、チリチリと電話がなり、受話器をとるとなにやら女の声でよく分らないので、じっとしていると次に樋口教授が“オーイ”というのでホットした。今ウィーンから帰って君の手紙を見たところという。今夜は疲れているだろうからゆっくり休んで、明朝9時に迎えにくるからとのこと。やっと安心し、その夜は食事もせず眠ってしまった。翌朝教授は間違いなく迎えに来てくれて、電車賃、食事代など色々と教えて頂き、昼食、夕食を共にし、おいしい献立の事なども教へた。時には教室の食堂で昼食した

こともあつた。3日目にウィーンに出発し、学会が終つてから汽車でリンツ、ザルツブルグ、インスブルグなどチロール地方の秋を満喫し、再びインスブルグからミュンヘンに入ったらわざわざ駅まで出迎えてくれ、おまけに重い荷物まで手伝つて頂いた。そのうえカソリックの経営する清楚なホテルまで予約してくれていた。しかも宮原教授も同じホテルであつた。

ナチの残虐の跡ダツハウにも駐留米軍に勤めている韓国の医師の案内で教授と2人で行つた。もっとも教授は2度目なのでなかなか詳しく、色々と説明していただいた。ここに来て始めて私が山形県鶴岡市立病院勤務時代(昭15~17)に独乙語の会話を習っていたカソリックのアルベルト・ホルト神父(現南山大学学長)様より聞いていたことを思出し、その暴行の跡を見て教授と共に肌寒く感じたことでした。

又ミュンヘンの有名な十月祭の切符を買つて頂き、あるいはビール製造所の出し物を見物する席のいい場所を予約して頂き、その折撮影したフィルムを見る度に教授の事を思出すのである。

ルードビヒ二世の居城ノイシュワンシュタイン城にも観光バスで一緒にゆき、入口から間もなく大きい象牙の白鳥が置いてあつたのを記憶している。霧がかかって城からの遠望がきかず残念で、帰りに晴れて、城の全景が見え、それが見事に浮き出て、アルプスの峯が緑のすそを引いてまるでおとぎの国にいる様で教授と共に感心したことでした。この観光の途中ロツテンブフとウイースキルへに車が止り、後者は映画女優のマリア・セルの結婚式をあげたところとか、ルードビヒ二世は狂人でスタ

ーンバグ湖で投身自殺をはかったこともその折教授からきいたことで、観光するにもその予備の歴史に詳しいのに驚いた。

教授は相手にいやな顔一つされたことがないし、又おこった顔をされたこともない。外国にいたから親切にするということだけでなく、何処でも、いつでもニコニコしてられる。同じ教室で研究していたという関係ばかりではなく、関係のない人達にもそうである。教授と話していると暖かい春風がただようのである。私が23年前

久留米に帰るについても色々と蔭でお骨折り頂き、教授の後に坐ることが出来た。教授を知ってから36年の歳月が経ったが、本当に公的にも私的にも御世話になったが、未だに御恩返ししも出来ずにおり申し訳けなく感じている。樋口教授は教授としても人間としても第1級の人物で、今後の第2の人生の御活躍が期待されるだろうと思う。どうか御健康であってほしい。

(昭和7年卒・久大泌尿器科教授、現柳川病院長)

## 時間を浪費されぬ樋口先生

星 子 未知 男

樋口先生の停年の通知を受け、もうそんなお年令かと驚く程です。明るくお元気で、研究は勿論のこと、ゴルフにも麻雀にも少しも衰えを見られないからです。かって渡欧直前入院されました時、面会謝絶中にもかかわらず、お会いして下さいましたが、その時でさえ、明るく「飛行機の中か欧州で発病していたら命はなかったよ」と人ごとのように言っておられました。

先生に御世話になりました25年にもなります。国立大村病院、門司鉄道病院と20年の勤務生活も樋口教授がおられると思うと大船に乗った気持ちでのびのびと愉しく勤務出来ました。その間西日本連合地方会をはじめ方々の学会にお伴し、又九州の国鉄関係の学会にも、門司鉄道病院にも講演に来ていただきました。そしてゴルフ、マーチャンの相手を欠かしたこともない位です。

昭和27年の秋だったかと思います。弘前での東日本連合地方会に出席して、大和田湖観光からニベで北海道

まで足をのばした時でした。汽車の中でも船でも、よく食い、読み、よく眠り実にボンヤリと時間を過されることがありません。懇親会でも食い終わると、さっさとひと踊りされ旅館に帰るとマーチャン、3〜4戦やるとすぐ眠られキチキチと転換されるのに感心しました。常々明るく時には大胆不敵に思われることもあります。真は実に細心で慎重です。ゴルフでグリーン上のパットの時のあの慎重さにはシビレを切らす思いをしました。しかもとてもキチュウメンです。どんな依頼ごとをしてもすぐ御返事をいただきました。それでこそ本来の御研究は勿論のこと、随筆も書き続けられ、ゴルフにもマーチャンにも充分たのしまれることが出来られたと思います。

現職を去られても、研究にも余技にも、ゴルフにもマーチャンにも活躍されるとお祈りしています。

(昭和16年卒・東京都開業)

## 恩 師 退 官 を 憶 う

津 田 露

移し植えた梅を 此岸に育てよう  
退官の恩師が育てた梅林 咲く 花花  
眼をつおれば いよいよ 梅を恋しと思ふ  
遊学の師を偲ぶ時 この梅 若かった  
この梅 もう 50の年輪重ねました

太分郊外吉野在に臥竜梅という珍らしい梅林があります。太宰府の梅を移し植えたともいわれます。私は恩師樋口教授によって移し植えられた皮膚科医としての心を

私の人生に育てていこうと思っています。眼をつおればいよいよ恩師に依る医者へのひたむきな情熱がたぎるのを覚えます。

ドイツ游学の際、東京の病院見学の為に、3枚の紹介状をわざわざ航空便で送って下さったのも樋口教授でした。いたらぬ若かった私への御好情をいまだに忘れられません。その恩師もこの3月で退官なさいます。そう思えば私も、もう50の年輪を重ねることになりました。恩



師樋口教授が育てた梅林が、ますますその株をはり、その匂を増す事をお祈りします。

(昭和17年卒・大分市開業)

## 樋口先生の御退官に際して

百瀬俊郎

樋口教授の御退官もいよいよ旬日に迫って来ました。先生は終戦間もない昭和23年に久留米大教授より九州大学医学部皮膚科教室第3代教授として着任され、それより約23年間在職されたわけであります。私も昭和20年より泌尿器科教室助手として九州大学にいたわけで、その間先生よりいろいろ御指導を受けてきました。ここに改めて御礼申し上げます。一口に23年といいますが、世の中の変動とともに激動の時期でありました。先生はそれに対し常に卓越した順応性と適確な指導力を発揮され、今日に到ったわけであります。

学問的な業績は皆様方はよく知られていることと思えますので、ここでは省かせて頂きます。

先生の還暦の際に御存じの方もあると思いますが、一日一頁と題して先生の御印象について述べましたが、それは先生のほほと感心する程時間の無駄のない使い方であります。隣の部屋におりまして、その使い方も最近は何熱味をおびてきたと拝察しています。このことは

私にとって貴重な教えとして心に長くとどめておきたいと思っています。

先生は御健康そうではありますが、時々入院されて胆嚢の手術をされたり、現在は痛風および腎結石に罹患されています。しかしこれらを克服されて、日夜活躍されていますし、今後もますます御活躍されんことを御祈りする次第であります。腎結石の方は私の方の専門領域でありますので、時々診察させて頂いていますが、小さな結石が自然に排泄される程度のものであります。しかしまだ1~2個の小結石が右腎に残っておりますので、無事御退官ではございますが、まだまだ大学と縁が無くなったわけではありせんので、時々大学に来られて、われわれ後輩を激励して頂きたいと思えます。

最後に無事御退官を心から御祝い申し上げますとともに、今後御活躍を御祈り申し上げます。

(昭和20年卒・九大泌尿器科教授)

## 樋口教授のスケッチ

江本侃一

先生の筆になる随筆は「皮と泌」という雑誌の編集後記に始まり、種々の雑誌、新聞にそのときどきの随想を軽い筆の運びで書かれておられ、興味深く読んでいました。最近はその一部を纏められて「ひとりごと」という題の下で単行本を出された。その中に東中洲という一文の右下隅に中洲の橋から寸景のスケッチが掲載されている。今まで先生の画に関する話を聞いたこともないので驚いて見張った。何時の時代に画かれたものかな

あ？と想いながら見詰めていたが、これから一時代前の中洲の想い出が次々と浮かんてくる。

先生の筆になる随想は種々読ませていただきましたが、このスケッチのある一文は私にとっては始めてであり、印象的でもあり、先生のある一面も窺えるように思えた。

(昭和21年卒・浜の町病院泌尿器科部長)

## 先生とダンス

中 溝 慶 生

私が樋口先生に初めてお会いしたのは、昭和22年の夏頃だったと思う。卒業試験も終って、10月からのインターンまで暇をもてあましたので（私は9月卒業で、1年のインターンが開始された最初のクラスである）友人と一緒にインターン予定の国立大村病院へ、早目に出かけた時である。当時は終戦になって外地から引揚げられた優秀な先生方が集まっておられた。とくに大村病院の部長には教授級の人が多く、原爆をうけた長崎大学よりもスタッフが揃っているという噂であった。先生は皮膚泌尿器科部長で高森先生（延岡開業）と2人で40人位の入院患者をかかえておられた。ほとんどが梅毒、淋病の患者で、毎日尿道洗滌やブジーをやらされ、膀胱鏡がどうにか出来るようになった。その頃 Mapharsol の副作用防止の研究をしておられ、動脈血、静脈血で溶かして静注するという仕事をお手伝いしたように記憶している。学生時代戦災にあって、下宿を焼け出され、丸裸になって学校もろくに行かなかった私が最初に教えを乞

うた恩師であった。その後も不勉強で迷惑ばかりかけた全く不肖の弟子であるが、遊ぶ方だけは先生に負けない優秀な弟子になった。その最初はダンスである。終戦後でダンス熱が盛んになってきた時であって、田舎の病院で娯楽もなかったのも、夜になると講堂に電蓄を持ちこんで看護婦さんにダンスを教えて貰った。ダンス部長が樋口先生であり、独特なフォームで流れるように踊っておられるのをみて魅了されたことも、ダンスを覚える契機になった。その後先生は、久留米大学の教授になられてからも、大村病院のクリスマスパーティに来られて、きれいなショーをみせていただいた。先生は若い頃からスター的性格を持っておられたように思う。現在でも若々しい、スタミナの根源の1つはダンスであって、これからもあの独特な綺麗なフォームを何時までもわれわれの前に見せていただきたいと思う。

（昭和22年卒・九大温研皮膚科教授）

## 先生と私

大 島 恒 雄

私と樋口先生の出合は、自分では、入局の御挨拶に伺った時と思っている。当時の野間雄祐医局長に連れられて同級の白木君と二人して樋口先生のもとへ行った。当時昼食は木造の旧皮膚科泌尿器科教室の2階にあった医局で全員会食であったので、先生は先任の泌尿器科富川教授と共に黒板を背にして上席に坐られ、前に青い湯呑とアルミの弁当箱を置かれ、そのお菜に黄い卵焼きが入っていたのが、今でもうかんでくる。今と違い食糧事情が悪く、買出しとかやみ米が常識となっていた時節だから、全員持参の弁当で、時にはコッペパン一つにお茶という時もあった。今は白髪混った先生も、当時は鳥の濡羽色の髪を戴き、今よりもひき締った頬を動かしてお食事中であった。お口の動きがせるのをまって、医局長の紹介で一人づつななめ前から名乗って入局希望を申し述べ、これに若し先生から聴診器の無い医者は努力が大へんだぞとのお言葉があって、入局のお許しを受けた。

一度だけ先生の和服姿を拝見したことがある。九大に着任されて間もなく御尊父が死去され、そのお葬式に参上した時であった。黒の紋付羽織袴で正坐された先生は私にもていねいに挨拶された。亡くなられた泌尿器科の望月助教授と並んでお斎の膳につき、望月助教授が正坐のため私も膝をくずすわけにもゆかず困ったものであった。

近頃、西ドイツの故アデナウアー首相の様な頬の形になられたが、これも長寿の相と思い、古稀にも喜寿にも、はたまた当方さえ生きておれば先生の米寿の宴にも参列したいものである。

皆見名誉教授も富川名誉教授も御健在だし皮膚科関係は皆々長寿の相ありと思えます。あやかって私も健康に長寿をたのしみたいと思う。

（昭和23年卒・北九州市開業）

## ゴ　　ル　　フ　　放　　談

中　尾　泰　三

樋口先生 H.D. 24, 占部先生 H.D. 21, 小生万年30, 数年前久大皮膚科記念日前日, コースは小郡イン, たしか5番だったと思いますが, オーナー樋口先生第1打チヨロー, 占部先生の御1打, 山腹に激突結果O.B., 小生のみ無事大空に弧をえがき直線約150近くにダウン, 樋口先生言はく, 中尾君はカッコウは悪いがよく飛ばな一, 占部先生小生と顔を合せ苦笑す。諸兄御承知の事と

思いますが樋口先生独特なホーム。人呼んで二段構えグゴール(グリーン)近くまで小生第1着, 2着占部先生, 3着樋口先生。最後のアプローチ樋口先生ワンパターケン内ピンそばにオン, 占部先生エッジ近くに突入, 数回の努力の結果オン, スリーパター。結果, 小生万年30の実力発揮す, 樋口先生ニタリと微笑む。

(昭和23年卒・佐賀市開業, 故人)

## 樋　口　先　生　の　退　官　に　想　う

坂　本　公　孝

樋口先生は本年3月をもって, めでたく定年退官されるという。

私自身, 直属した教室にいない気安さも手伝ってか, 今では物わがりの良いおじさんの存在である先生も, 入局当時の怖さといったらまた格別であった。教授室の扉を叩くとさっと血の気がひき, 背筋が寒くなるのはいつものこと, あの低音で指示される言葉の意味も充分理解しないまま, そそくさと引きさがったことも2, 3に止らない。今にして思えば, 当時の先生は, 青雲の志に燃えてカムバックしたばかりの新進教授であったわけで, 私共新参がその熱気にあてられたのはむしろ当然といえよう。

その後私は, 勝手に泌尿器科専攻と称して, 先生の傘下から離れていったが, 隣家に居候した道楽息子のような一種の後めたさを感じないでもなかった。しかし先生は, 文字どおりの太っ腹で, 私のわがままを見過して下さったばかりか, 常に暖いご配慮を賜わった。とうとう大きな借りを背負ったまま先生のご退官をむかえたというのが, 私の卒直な感慨である。

先生から直接ご指導願った期間は短かったとはいえ、

同じ屋根の下で常に先生の声咳に接することが出来たのは, 私にとって誠に幸運であった。むしろある意味では, 富川, 百瀬両先生以上に無言のご教示を頂いたといっても過言ではない。先生の日常は常に前進, 止まることを知らなかった。あの忙しきでつぎつぎに多数業績のをあげられていった秘訣は何か, これはいつか先生にお尋ねしたい事柄の1つであった。ある日ふと, 片すみに遠慮がちに載せられた随想が目にとまった。そこには, 先生が1つの仕事を完成させる苦しみと喜びが素直に語られていた。それまで千軍万馬の古強者にみえた先生のプロフィールに, 人間樋口としての苦悩が刻まれていた。それがまた, 大きな障壁を前に呻吟していた私に, 形容し難い心の安らぎを与えてくれた。

今私は, 始めて門を叩いた頃の先生の年令に迫ろうとしている。静かに自らを省みる時, 今さらながら先生の偉大さに感嘆すると共に, 一門の末席に名をつらね得た有難さをしみじみと味わっている。

先生のご健康と, ますますのご発展を心からお祈りして筆を擱く。

(昭和24年卒・九大泌尿器科助教授, 現福大教授)

# いろいろ あらあな

松 崎 統

樋口教授の思い出は多いのですが、突然なにか書けといわれるとなかなかまとまらないものです。とくに隨筆の達人に関するのですから……。

先生と初めてお話できたのはヨーロッパから帰国された年の秋、鹿児島で一杯やり乍らドイツの魚 Trout のことについてだったと思います。まもなく別府に赴任して大分地方会の時ソビエトの教本を抄読したことがありますが、“君は引揚者か？”と聞かれたこともあります。その後は公私ともに御世話をかけたというより度々御迷惑をお掛けしたというほうが妥当かもしれません。まず第1番目に頭に浮かぶのは階段転落事件。すでに時効になったので印刷になっても平気？ですが、40年11月23日夜、博多“つた”の2階の階段から1階まで落下、後頭部をブチ割り3〜4針縫合されて九大の新装なった7階にかつき込まれました。手術は料亭の一室で占部医院より運ばれた器具で行なわれ、どうせ酔ってるからというので麻酔なしだったそうです。かなり痛かったのでしょうワメいたのをかすかに憶えております。翌日先生が廻診の途中来られて、“熱さえ出なければいいさ”と慰まていただきましたが、口の中も切れ、唇も縫ってあり全身打撲で寝返りもうてぬ有様で“すみません”と一口いうのがやっとでした。おかげ様で傷も残らず、後遺症ありません。このあとよく“君、階段があるよ”とひやかされました。この事故の後しばらくは11月23日の福岡地方会での酒はつつしみ、学会だけ出てさっさと帰りましたが、昨年、先生の主宰される最終地方会に久しぶりでフルに盃を重ねました。36年秋、上京途中の特急の中でやはり酔っぱらい、先生に“君、もう若くないよ”といわれたのを思い出します。

学問の話は今回は止めということにして、2、3雑文をもって責をはたしたいと思います。

食べものことども

ふぐ：ふぐさしは別府にかぎるということ。博多の割烹で先生が公然と発言されたものです。たしかにキモと

カボスのないふぐさしは情無いものです。そしてふぐぢりは——。

ハゲ(カワハギ)：別府でチリをつつくなら、高価なふぐよりはハゲが美味ということは先生も先刻御承知。類似のものでもウマズラはかなり味が落ちるようです。

ねぼけ：樋口先生が別府に来られたときのレギュラーコースの一つです。普通の居酒屋ですが、キップのよいバアさんが切り盛りしていて、すでにねぼけを知らぬものはモグリの皮膚科医というほど東京、東北、北海道にいたるまで知られたところ。酒宴を抜け出してねぼけでうどんを一杯というのが先生のコースです。先生のうどんを横目にみて、私はイモ焼酎を追加するのが常です。皮膚科だといえばバアさんのサービスも格別だと思いますのでどうぞ——。

Recreation のことども

ゴルフ：はじめて先生とパートナーとなり1番ホールでティーショット。“変な格好でも飛ぶなあ”といわれました。が当時の先生のスイングも波にゆれる舟のようであました(ごめんなさい)。一緒に廻るときは誠に愉快なんですが一組後にスタートしますとグリーンのそばで待ち伏せで、イクラダ?! と聞かれるのはスコアの悪いときは全くクサります。しかしゴルフの時の先生は実にテンシンランマンで嬉しくなります。

麻雀：いつでしたかピンチヒッターでお付き合い。どうも配パイが悪くて一向あがれない。“君！少しあがれよ！”勝ちすぎて文句をいわれたことはありますが、てんで沈んでいておこられたのは初めて。そこで都々逸を一つ。

ひょいとぐちもでるさ

けんたうしょにも

こなてばいじゃ

くろうする

(昭和25年卒・国立別府病院皮膚科医長)

## 思 い 出

皆 見 紀 久 男

光陰矢の如しというが、現在の今切実に感ずる。とうとう3月いっぱいまでわが恩師樋口教授が満63才の停年を迎えられる。私が九大を卒業したのが、昭和26年であり、それ以来20年間、樋口教授の御指導、お世話になっている。この間、私にとって記憶の生々しく思い出されることは、数多い中でとくに福岡で行なわれた皮膚科学会、化学療法学会、医真菌学会の総会である。とくに医真菌学会はクルズスを学会の前に企画され、真菌学会の権威者の講義実習を依頼し、多数の聴講生を集めて行なわれた。この大事業は樋口教授ならではの画期的な計画であり、この学会の前にも後にも再度計画されたことがない。しかしわれわれ未熟なものにとって準備がはかばかしく進まず、樋口教授もいささかご心配の様子であり、占部教授の御援助とともに、とにかくクルズス直前に準備が成し終えたものだった。この当時、直接のクルズスの責任者であった吉住博士が、分娩直前の身体で最後まで頑張っていた姿が目につく。私も真菌の螢光抗体法のシンポジウムの世話をしていたので、この学会の経過がとくに記憶に残っている。またこの年に樋口教授のお世話によって私はレダリーのフェローシップとして、真菌学会の翌日にアメリカに出発する予定であり、この

シンポジウムが終了してから、一人で教室に帰り、あらためて自分の部屋の整理をしていた時の気持も感無量のものがあったことを、今でも時々思い出す。話が前後するが、私は九大をやめて操院長の浜の町病院に就職して2カ年後に、久留米大学の奥野教授が胃痛で死亡され、占部助教授が後任の教授になられたために、私は思いがけなく九大の助教授として再就職したのは昭和36年であった。その後樋口教授は再度の洋行がきまり、まさに出発されんとする前日に突然腹痛で休まれ、第1外科の成富講師に診察してもらい、胆石症、胆嚢炎としてすぐ入院、手術をされたが、全く危機一発、もし外国に出発されての発病であったら大変なことになったものと今更ながら不幸中の幸と思っている。私がアメリカに昭和40年に留学している間に、樋口教授のお世話により鹿児島大学皮膚科教授に御推薦賜わり、帰国後、昭和41年1月に就任して以来毎年鹿児島地方会に樋口教授のお出でを願い、会に大きな力をつけていただいているが、私自身5年を終った今日を省みて、脊のびばかりした無能教授としか考えられず、全く樋口教授の偉大さにふれるこの頃である。

(昭和26年卒・鹿大皮膚科教授、現久大教授)

## 樋 口 教 授 の 思 い 出

宮 崎 義 男

私の入局は昭和27年5月であります。同期入局の先生方より少しおくれて一人で入局致しました。初めて教授室に入局の御挨拶に参りまして、「私は今回入局させていただき宮崎といいます。よろしく御願ひ申し上げます」といいますと、先生は直ちに幾分やさしく「うん」といわれ、緊張して「コチ、コチ」になっている私の頭よりつま先まで「ちらり」とみられ、「君は長男だね、きつと長男にちがいない」と一気に入れられて私はびっくり致し「ハイ、そうであります」と答えますと「そうだろう、君のようなタイプはきつと長男だよ」といわれました。教授とは象牙の塔云々といったタイプの方とばかり思っておりまして私はびっくり致しました(この長男という言葉の家族制度的意義と個人の人格形成への

環境関与の問題は絶えず、私の心をとらえて離れないものであります)この、御言葉が私の入局第一歩のスタートであります。

在局中は先生の医学のみならずあらゆる分野における優秀な洞察力と学問的探究感の鋭さならびに厳しさで先生の御指導をいただきました。私の医局生活を無事すごささせていただきました。この入局当初の一撃ともいふべきことばは先生に対する尊敬の念と共に、私の間脳に言語暗示的にやきつけられたものであります。今でも先生に御逢いいたしても無意識的、条件反射的に「コチ、コチ」に緊張する次第であります。

また私には先生は外遊後一般的にやさしくなられたように感じられます。私の博士論文は丁度、先生がパリに

滞在中に教授会をパスしましたが、先生に御連絡いたさなくてとは、思いわずらっておりましたところ、「これはバリ郊外の城です」という美しい絵ハガキ(1957年10月26日)に論文パスのよろこびの御言葉をいただきまして、大変うれしく感激しました。さらに開業に際しましては、わざわざ小倉にいらして、ささやかな医院も

みて、はげましの言葉をいただき、先生の温い心情に心より感謝致しております。

退官後は御体に気をつけられまして、末永く御健康で今後ともよろしく御指導御鞭撻のほどをお願い申し上げます。

(昭和26年卒・北九州市開業)

## 思 い 出

### 多 山 博

昭和28年3月、インターンを終え、小児科への入局を決めて、間借りを世話して頂くため、同郷のT先輩の所へ参上した所、一晩がかりの説得で皮膚科への入局をすすめられ、翌日早速、T先輩につれられて、樋口先生の教室へ挨拶にお伺いしたのが、昨日の様に思い出される。当時、先生は教授に就任されて日も浅く、教室に在籍する先輩は多くなかったが、先生にとって、初の直弟子に当るU、T、I 3先輩の先生に対する異常なばかりの心酔振りには、同期新入局の利谷、徳永両君共々、ど肝を抜かれたものである。とくにT先輩の先生に対する心情、公私共昔の孝子とはかくやと思われればばかりであった。

あれは昭和32、33年頃の秋の真菌学会であったと思うが、東京丸の内ホテルへ3部屋予約して、一足先に出発されていた先生の外、U助教授、T、I両講師、それに平の私の4人で上京したのであった。ホテルへ着いてみると、先生はすでに部屋に入って居られたが、どうした手筈でか、部屋は2部屋しか予約してないし、外に空部屋も無いので、都合をつけられないという。一瞬、U、T、I 3先輩に困惑の情ありありである。ロビーの隅へ行って、3人コソコソ何か相談していたが、T先輩がやや硬面に、有無をいわさぬといった構えで、私に「お前や、今晚イビキをかかんで大人しくしておれよ」とプロフェッサーとの相部屋の強要である。私も全身カーとなって、一大事とは思ったものの、直属上司の3先輩につめ寄られては嫌心無く、3先輩、廊下より私を先生の部屋へ押し込んで、自分達は部屋には入らず、廊下より雁首揃えて、プロフェッサーに向い「先生おやすみなさい。失礼します」と早々退散してしまった。先生はすでに部屋着に着換え、ベッドの上で読書されていたが、一

言もものをいわれないし、私も早く寝るのが無難と、背広を脱いで下着のまま、ベッドにもぐり込んでしまった。その夜の長かったこと、正に *The Longest Night of My Life* であった。朝5時過ぎ、国電のブーという音を聞いた時の喜び、安心は今もって忘れられない。朝になり、T先輩早速私を呼び、「夕べ、お前どうぞやった」と訊ねて来た。私がるる苦衷を述べると、始めは「ウンウン」と少しは気の毒そうに聞いていたが、後には「ワッハハハ」と爆笑したものである。傍で聞いていたU教授、I講師もニヤニヤし、3人とも厄逃れしたことに満足し、嬉んでいる風であった。先日、長男が大学受験で上京する為、交通公社へ宿舎の申込みをして、連絡があったのを見ると、丸の内ホテルとあり、息子は夜眠れるであろうかと思っていたりする昨今である。

先生はどんな時でも従容として、うるたえられる事はなく、時に不気嫌な顔をされる事はあっても、口に出して怒ったり、尻んや激怒されたりする様な事は決してなかったし、弱気を叱いたり、愚痴をこぼされるのを聞いた事もない。しかし、教室にいる者に対しては、概して寡黙で、特にフランクに接しられる様な事もなかったと思うが、教室員は皆心服していた。これは先生が、強さに象徴される男の美点をすべて具備されている為と思う。先生が畑を遶って政界へ進出されていたら、マスクは御立派だし、声もドスがきいて、河野一郎並みの派閥の領袖として、隠然たる勢力を誇っておられたのではないかと思う事もある。

幸い、先生は御健康であられるから、強烈な指導性を発揮されて、末永く御活躍されんことを祈って止まない。

(昭和27年卒・岩国市開業)

## 入局の頃の思い出すこと

吉 住 正 子

恩師樋口教授につきましては、還暦記念号の時「樋口教授御夫妻のお人柄」と題してその心暖まる御心づかいの数々など書かせていただきましたが、先生の中広い人間味豊かなお人柄や、論文から随筆などに到るエネルギッシュなお仕事ぶりにつきましては先輩同門の諸先生方もお書きになることとしますので、入局の思い出す一、二を記してみたいと思います。私たち昭和33年卒頃から女子学生の数がぼつぼつふえはじめましたが、今ほどではなく、九大医報かなにかの座談会に出されたことがありました。その時の司会が樋口教授で、一般論的な話のつもりでいたところ、ひょこっと私と主人との結婚へいたるいきさつを申しのべよといわれたり、女子医局員は着物きては来ないのかなーなどといわれ、今思いますと先生らしい質問と思いますが、その時はひどくめんくらったことを思い出します。又、入局後間もなく結婚し、旅行から帰り初めて医局へ出た日、岡先生

と私の新入局員歓迎会をして下さり、二次会はレッド・シューズでしたが、結婚第一日目で何となく家のことや時間を気にするのが分ってしまいましたのか、私に「キミ、ダンナサンは気にせず放っておく方がいいんだよ」といわれ腰を落ちつけてしまいました。帰りましたら主人はまだ食事をせず待っていてくれて申しわけなくもあり、歓迎会をして下さいました先生はじめ医局の先輩方の御気持も有難くはあり、忘れられません。

あの頃からもう10余年がたったのですが、お褒りなく若々しく、どんな難しい仕事でも、困った御様子は全くなく、淡々と楽しみながら片づけていかれる先生は、これからもますます御多忙に御活躍なさいますことと存じます。

樋口教授および御令室様の御健康と、より一層の御発展を心よりお祈り申し上げます。

(昭和33年卒・天神クリニック皮膚科医長)

## プ ロ フ ェ ッ サ ー

淵 曠 二

もともと、教授とはこわいものなりとの概念のもとに接しているためか、樋口教授は私にとって神の如き存在である。

医学部在学中、講義を通じていろいろの教授にあってきたが、なかでも、樋口教授はもっとも人間味ゆたかであたたかみを感じさせるひとりの1人であった。それゆえ、皮膚科教室に入局するきっかけとなった。

教室の御厄介になっている間も、格別言葉をかけてい

ただいたわけではないが、有言無言の中に人間のあり方、臨床医のあり方について深く教わったと思う。

西日本新聞によくおのせになる随筆も淡々としてお書きになる文章ではあるが、読んでいるうちにやはり私をひきつける何ものかをおもちになっている。

最後に、いつまでたってもお元気なプロフェッサーのご健康を祝し、御多幸をお祈り申し上げます。

(昭和37年卒・九州厚生年金病院皮膚科部長)

## 樋 口 教 授 の 憶 い 出

田 崎 高 伸

入局したのが昭和39年でしたので、樋口先生の教授歴からいうと、そろそろ終わりの頃でした。そのせいでしょうか、先輩の方々から、大変厳しいと聞いていたのとは全く異なった、比較的温和な、何事にもあまり腹を

お立てにならない教授としての、イメージが強いように思います。しかしその間に先生のひととなりをかいま見ることが出来たことは、最後の弟子として幸いでした。

先生はずばぬけて頭が良く、時間を無駄にされず、精

神的、肉体的能力を十分に用いることに慣れていらっしやっただと思います。廻診前のちょっとしたひまを見つけて書きものをしたり、論文をなおしたり、教授室でひとり「赤旗」を読んだり、外出前ちょっと時間があるとマージャンをしたりしておられた印象が残っています。外国語は少なくとも、御自分の気持を相手に伝えることには、英語であれ、ドイツ語であれ、ジャワ語であれ、不自由なさらなかったのではないのでしょうか。私がドイツにいたとき、ちょうどミュンヘンの国際皮膚科学会に奥様と御一緒においでになりましたが、以前に当地に住んでおられたので、街のこともよく御存知で、かえってこ

ちらが案内されたかたちになってしまいました。中華料理をごちそうになり、小使いまでいただいて恐縮しました。御多忙のため、学問的な指導をうける機会は少なかったのですが、診察の時は一緒にみせていただきました。臨床家らしく、診察をされるのはお好きなようでした。忙しい折にも、出来るだけ、診察日には、御自分で診ようとされていました。御自分でも多病息災といって笑っておられましたが、いろいろな困難の中で多くの仕事をやってこられ、また続けて行こうとしておられるのを知り、今後の御活躍を期待してやみません。

(昭和38年卒・九大温研皮膚科、現福岡中央病院部長)



---

---

## 編 集 後 記

---

---

樋口教授の退官を記念して、有志の者が先生の偉大な業績をたたえるため樋口謙太郎教授退官記念事業を計画し、自遠会（九大皮膚科 および 泌尿器科教室 出身同門会）やメーカーの多数の方々のお賛同をえたので、昭和45年11月に樋口謙太郎教授退官記念事業会をつくり、その幹事として占部教授（現九大教授）、中溝教授（現九大温研所長）、皆見教授（現九大教授）、利谷助教授（現福大教授）、西尾講師、北村講師（現在豊中市にて開業）、安田があたることになった。また利谷助教授がその代表者となり御活躍された。

その事業内容は記念講演会、記念式および記念品贈呈、記念パーティー、樋口教授業績集の作成であった。

記念講演会、記念式および記念品贈呈、記念パーティーは昭和46年3月14日に福岡市の西鉄グランドホテルにおいて盛大におこなわれ、記念講演会での各演者の講演内容は樋口謙太郎教授退官記念講演論文として既に西日本皮膚科に発表済である。

以上は退官記念事業のこれまでの経過についての簡単な報告である。

その後、代表者である利谷助教授が福大教授に赴任されるなどがあり、記念事業の最後の行事である業績集の作成が放置されていたが、本年に入り、占部教授より業績集を至急作成するようにと安田に命じられ、今ここにまがりなりにも出版のはこびとなったことは、退官記念事業会の幹事の1人としてまた樋口教授の最後の医局長として非常に喜びとするところである。

本業績集の特徴として業績目録についての物名索引と人名索引の作成をあげることができよう。これにより樋口教授の業績はいうにおよばず、九大皮膚科教室の現在までの研究内容や研究者名が一目瞭然にわかり、これからの若き学徒や研究者にとって本業績集は非常に便利であると考え。また明年こわされる明治時代に建設された皮膚科の建物の写真を記念のために挿入した。これらは自遠会会員の皆様にとって今後きっと良い思い出となるであろう。

本業績集に附録として退官記念事業会によせられた随想を執筆者の卒業年次順に配列し掲載した。しかしこれらの原稿は昭和46年に執筆されたものであるからその内容において現在と若干のくいちがいを生じていることをお許し願いたい。その他全国各地より出席された各界の代表者や来賓の祝詞が記念式や記念パーティーで披露されたが、退官記念事業会の手落ちにより本業績集に紹介できなかったことを深くお詫び致します。

最後に樋口謙太郎教授退官記念事業会によせられた自遠会会員およびメーカーの方々の厚い御援助に対してここに心から御礼申し上げます。

なお本業績集の作成に終始御協力いただいた教室の佐藤妙子嬢に厚く感謝致します。（安田記）

昭和49年10月21日

編集責任者 占部 治 邦  
安 田 勝

